

トキハ認可ヲ請フヘシ
 第八條 生絲検査所長ハ所務ノ爲メ所員ノ出張巡回ヲ命ズルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ請フヘシ
 但至急ヲ要シ経同ノ暇ナキ場合ニ於テハ所長之ヲ命シ共旨農商務大臣ニ報告スヘシ
 現第八條ヲ左ノ如ク改ム

生絲検査所長ハ毎年一回検査成績ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ
 但臨時必要ト認ムル検査成績ハ時々報告スヘシ

○農商務省訓令第六號

「ツベルクリン」交付手續左ノ通り相定ム

明治三十六年六月三十日

農商務大臣 野村平田 東助

警視廳 北海道廳 府縣(東京府)

第一條 畜牛結核病豫防法ニ依リ畜牛ノ結核病検査ニ要スル「ツベルクリン」ハ地方長官(東京府ハ
 以下ノ請求ニ依リ之ヲ交付ス

第二條 地方長官ハ次年度ニ要スル「ツベルクリン」ノ數量ヲ概算シ第一號様式ニ依リ毎年二月末
 日迄ニ請求書ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

「ツベルクリン」ノ不足ヲ生シタルトキハ前項ニ準シ隨時請求書ヲ差出スヘシ

第三條 地方長官ハ前年度ニ於ケル「ツベルクリン」ノ受拂ヲ第二號様式ニ依リ毎年四月三十日迄
 ニ農商務大臣ニ報告スヘシ

第四條 明治三十六年度ニ要スル「ツベルクリン」ノ請求書ハ明治三十六年七月末日迄ニ差出スヘ
 シ

第一號様式

「ツベルクリン」請求書

所要月別	五瓦入	十瓦入	二十瓦入	場數	計
計					

右請求候也

年月日

農商務大臣宛

地方長官名

第二號様式

明治何年度「ツベルクリン」受拂表

種別	數量	備考
前年度超過		
本年度受領書		
計		

便 用 高	應 課 高	計	逓引率年度總商
<small>廢棄ハ何ケニ依ルモノ何瓦何ケニ依ルモノ何瓦ト其ノ亦由數算ラ本欄ニ記スヘシ</small>			

右報告候也

年月日

農商務大臣宛

地方長官名

北海道廳 府縣

○逓信省訓令第三號

明治三十六年三月逓信省訓令第二號府縣知事ノ下ニ又ハ島司郡長ノ六字ヲ加フ

明治三十六年六月一日 逓信大臣子爵芳川顯正

○内務省訓令第八號

明治三十二年八月内務省訓令第三十九號第十號ノ次ヘ左ノ通追加ス

府縣

明治三十六年七月三十日

内務大臣男爵兒玉源太郎

十一 明治三十五年六月内務省令第十六號第二條第一項及第二項ニ關スル件

十二 明治三十六年七月内務省令第八號第一條ニ依レル工事竣功認可申請ノ件

稅務監督局

○大藏省訓令第三十二號

明治三十六年法律第三號災害地租延納ニ關スル取扱方左ノ通心得ヘシ

大藏大臣男爵曾根克助

明治三十六年七月二十五日

第一條 收獲皆無ノ調査ヲ爲スニ當テハ公平適實ヲ主トシ之カ調査ヲ爲スヘシ

第二條 年賦延納ノ期間ハ十年以内ニ於テ納稅者ノ請求ニ依リ之ヲ定ムルモノトス

第三條 延納地租ヲ納付スルハ許可ヲ受ケル者ノ義務ニ屬スルヲ以テ許可後土地ノ所有權ヲ他人ニ移轉スルコトアルモ其ノ義務ハ移轉セサルモノトス

第四條 延納許可ノ出願ニ關スル狀況ハ時々報告レ尙許可完了ノ上ハ別紙様式ニ依リ其ノ結果ヲ報告スヘシ

(別紙様式)

明治何年地租年賦延納處分表

府縣名	地目	段別	地價	地租	年數	延納期間	許可人員	備考

○大藏省訓令第三十三號

明治三十年十月訓令第六十三號葉煙草收納買渡及保管ニ關スル取扱方中左ノ通追加ス
明治三十六年七月二十七日

專賣局 專賣支局

大藏大臣男爵會禰荒助

第五條ノ二但書
但外國產葉煙草買渡ノ豫約ニ付テハ本條ノ保證金ヲ一割以上トシ又其ノ期限ヲ適宜延長スルコトヲ得

〔參照〕

大藏省訓令第六十三號(明治三十年十月二十一日)抄録
第五條ノ二 葉煙草買渡ノ豫約ヲ爲ストキハ代金ノ二割乃至五割ニ相當スル保證金ヲ提供セシメ三箇月以内ノ期限ニ於テ買渡ヲ爲ササルトキハ豫約ハ解除シ保證金ハ政府ノ所得ニ歸スヘキ條件ヲ附スルコトヲ要ス

○陸軍省訓令丙第十七號

明治三十六年度管內管外歳入歳出科目表中へ左記ノ通増設ス
明治三十六年七月四日

陸軍一級

陸軍大臣寺内正毅

歳入臨時部

△印増設

款	項	目	節
歳入	利息收入	公債利息收入	

東京砲兵工廠作業

歳出

款	項	目	節
東京砲兵工廠作業費	△建造物補修費	各所修繕	

大阪砲兵工廠作業

歳出

款	項	目	節
大阪砲兵工廠作業費	△建造物補修費	各所補足	
		各所修繕	

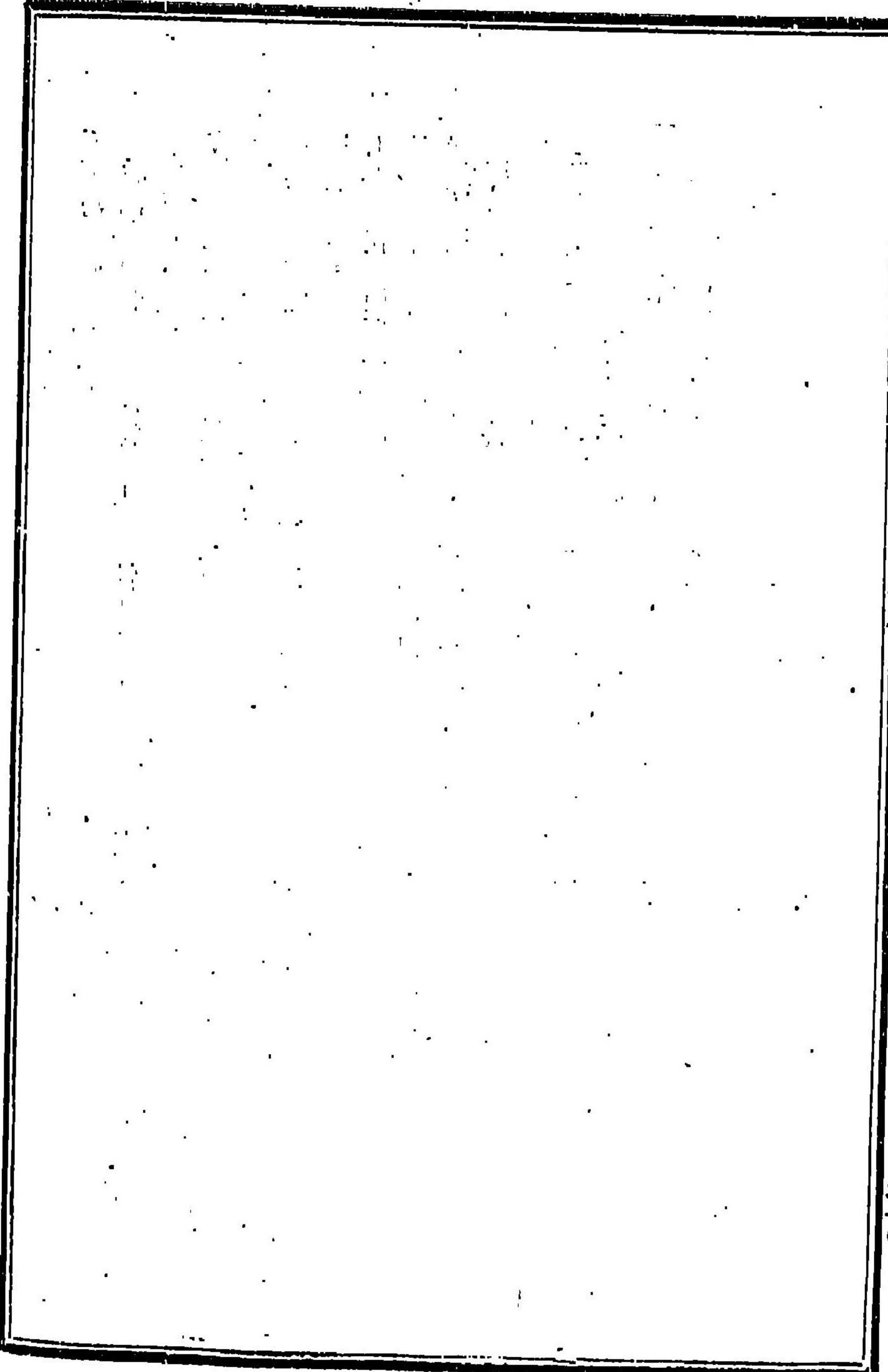
○陸軍省訓令丙第十八號

明治三十六年度管內管外歳入歳出科目表中へ左記ノ通増設ス
明治三十六年七月二十五日

陸軍大臣寺内正毅

歳出臨時部

△印増設



○内務省訓令第九號

官國幣社會計ハ左ノ規則ニ依リ之ヲ整理セムヘシ

明治三十六年八月二十五日

内務大臣 野村吉三郎

逓贈 府縣

官國幣社會計規則

第一章 收入支出

第一條 會計ノ年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第二條 收入支出ハ會計主任ニ於テ會計ノ規則ニ照ラシテ官司ノ決裁ヲ經官司ノ職名ヲ以テ之ヲ執行スルモノトス

第三條 收入及支出ハ必ス帳簿ニ登記スヘシ

第四條 國庫下付ノ保存金使用區分左ノ如シ

一 明治二十年三月内務省訓令第十五號ニ依リ下付スル金額ハ共五厘ヲ永遠ノ資本金トシ二分五

厘ヲ各社共通非常臨時ノ營繕費トシ七分ヲ經費及經常營繕費トス

但經費及經常營繕費ハ共七分ノ六以内ヲ經費トシ七分ノ一以上ヲ經常營繕費トス

一 明治二十年三月内務省訓令第十五號ニ依ル金額以外ニ下付セル保存金ハ共七分ノ一以上ヲ經

常營繕費トシ七分ノ六以内ヲ經費トス

第五條 前條ノ營繕費ヲ以テ支辨スヘキ費途ハ明治十年四月内務省乙第四十七號達ニ依ル營繕費

ニ限ル

第六條 第四條ノ經費ヲ以テ支辨スヘキ費途ハ左ニ掲クルモノニ限ル

一 大祭及公式ノ祭典費 日供神饌費 但御來社ノ

明治三十二年八月 訓令 内務省第九號 官國幣社會計規則

一 神職俸給、名譽職報酬、神職手當ノ但定員外主典
 一 雇員給備人料
 一 旅費
 一 缺クヘカヲサル備品、消耗品、筆紙、墨、文具、通信運搬ノ費用及雜費
 一 其神社ニ密接ノ關係アル圖書及官報購買費
 二 法令ノ規定又ハ内務大臣ノ指示又ハ認可ニ依リ本條ノ費途ニ屬スヘキモノ
 第七條 保存金ノ下付ヲ受ケサル神社ノ維持元資金ノ利子ニ付テハ地方長官ニ於テ適宜使用區分ヲ定ムヘシ

前項使用區分ニ依リ經費及營繕費ニ充ツヘキ金額ニ付テハ前二條ノ規定ヲ準用ス

第八條 社入金(資金ヨリ附加セ)ノ使用區分左ノ如シ
 一 用途指定ノ社入金ハ其用途ニ充ツルモノトス
 一 前號以外ノ社入金中ヨリ明治十年六月内務省乙第五十七號通ニ依リ非常豫備金ヲ蓄積シ其殘餘ハ地方長官ノ定メタル歩合ニ依リ社費營繕費分配金ニ充ツルモノトス

第九條 社入金中ヨリ寄附ヲサントスルトキハ内務大臣ノ認可ヲ受ケシムヘシ

第十條 金庫郵便貯金取扱局所又ハ銀行ヘ預ケ入ルル外神社所有ノ金錢ハ之ヲ他ニ貸付スルコトヲ得ス

從前他ニ貸付ケアル金錢ハ貸付期限ナキモノハ直チニ貸付期限アルモノハ其期限經過ノ日ヲ待テ之ヲ回收セシムヘシ

第十一條 現金ヲ受入レタルトキハ鎖鑰アル金額ニ保管シ其鎖鑰ハ會計主任ニ於テ監守レ金額ニ

ハ會計又ハ其代理者ト會計主任トノ相封ヲ爲スモノトス

前項金額ハ社務所ニ於テ會計主任之ヲ格護シ會計主任退出後ハ宿直ノ者ニ於テ之ヲ監護スルモノトス

第十二條 支拂ハ正當ナル債主若クハ代理人ノ受取證書アルモノニアラサレハ之ヲ行フコトヲ得ス

第十三條 誤拂遺渡等支拂フヘカヲサル金額ヲ支拂ヒ又ハ支拂フヘキ金額ニ超過シタル金額ヲ支拂ヒタルトキハ之ヲ取戻スモノトス

前項ノ取戻金ハ其年度内ニ在テハ其支拂ヒタル費途ニ戻入レ年度後ニ在テハ其支拂ヒタル費途ノ殘金ト看做シ蓄積金中ニ組込ムモノトス

第十四條 收入支出ニ關スル受取證書其他證書類ハ類別整理シ之ヲ保管スルモノトス

第十五條 爲換方ヲ股ケテ金錢ヲ取扱ハシムル神社ニ在テハ内務大臣ノ認可ヲ得テ爲換方規則ヲ設クルコトヲ要ス

第二章 資金

第十六條 資金ノ種別ハ左ノ如シ

一 永遠資本金
 國庫ヨリ保存金ノ下付ヲ受ケル神社ニ於テ其永遠ノ資本トシテ第四條第一號ニ依リ毎年度蓄積スル保存金及其利子ヲ謂フ

二 維持元資金
 國庫ヨリ保存金ノ下付ヲ受ケサル神社ノ維持元資タル金額ヲ謂フ

三 各社共通金

國庫ヨリ保存金ノ下付ヲ受クル神社ニ於テ非常臨時營繕費トシテ第四條第一號ニ依リ毎年度各社共有トシテ蓄積スル保存金及其利子ヲ謂フ

四 經費及營繕費積蓄金

國庫ヨリ保存金ノ下付ヲ受クル神社ニ在テハ毎年度保存金ヲ以テ支辨スヘキ經費ノ殘餘及經常營繕費ノ殘餘ヲ蓄積スル金額及其利子、其他ノ神社ニ在テハ毎年度維持元資金ノ利子ヲ以テ支辨スヘキ經費ノ殘餘及營繕費ノ殘餘ヲ蓄積スル金額及其利子ヲ謂フ

五 非常豫備金

神社ニ於テ非常臨時ノ營繕費ニ充ツル爲第八條第二號ニ依リ毎年度社入金中ヨリ蓄積スル金額及其利子ヲ謂フ

六 社入殘蓄積金

神社ニ於テ毎年度社入金ヲ以テ支辨スヘキ經費ノ殘餘及營繕費ノ殘餘ヲ蓄積スル金額及其利子ヲ謂フ

七 永代神饌料

永代神饌料トシテ神社ニ於テ收納シ蓄積スル金額ヲ謂フ

八 永代燈油料

永代燈油料トシテ神社ニ於テ收納シ蓄積スル金額ヲ謂フ

九 古社保存金

古社保存ノ爲國庫又ハ宮内省ヨリ下付ニ係ル金額及其利子ヲ謂フ

十 其他ノ各種資金

前各號ニ掲ケタル資金以外ノモノヲ謂フ

第十七條 資金ハ可成公債證券其他確實ナル有價證券ト爲サレムヘシ但公債證券以外ノ有價證券ハ内務大臣ノ認可ヲ得タル種類ニ限ル

資金(有價證券)ハ中央金庫本支金庫日本銀行又ハ郵便貯金取扱局所へ預入レ若クハ保管ヲ委託セラルヘシ

特別ノ事情ニ依リ前項ニ依リ難キモノハ地方長官ニ於テ確實ナリト認めタル銀行ニ預ケ入レ又ハ保管ヲ委託セラルコトヲ得

永遠資金ノ預入レ及保管ハ中央金庫本支金庫ニ限ル

第十八條 前條ニ依リ資金ヲ預入レ又ハ保管ヲ委託スルトキハ官司ノ職名ヲ以テシ地方長官ノ添書又ハ加印ヲ要スルモノトシ共引出預ケ替及保管替ヲ爲ストキモ亦同シ

第十九條 經費及經常營繕費積蓄金ハ毎年度國庫下付ノ保存金又ハ維持元資金ノ利子ヲ以テ支辨スヘキ經費又ハ營繕費ノ不足セル場合ニ於テ地方長官ノ認可ヲ得之ヲ補充スルモノトス

第二十條 永遠資金及維持元資金ハ之ヲ使用セラルコトヲ得ス

維持元資金ノ利子ハ經費及營繕費ニ充テラルヘシ但餘裕アルトキハ其幾分ヲ維持元資金ニ組込マラルコトヲ妨ケズ

非常豫備金古社保存金(古社寺保存法ニ依リ下付スルモノヲ除ク)及第十六條第十號ノ各種資金ハ内務大臣ノ認可ヲ得ルニテナラサレハ之ヲ使用セラルコトヲ得ス

第二十一條 社入殘蓄積金ハ地方長官ノ認可ヲ得テ左記各號ノ不足ヲ補充スルコトヲ得ルモノト

- 一 保存金又ハ維持元資金ノ利子ヲ以テ支辨スヘキ經費又ハ營繕費ニシテ第十九條ニ依リ補充スルモ尙不足アル場合
 - 二 社入金ヲ以テ支辨スヘキ經費又ハ營繕費ノ不足ヲ生シタル場合
- 第二十二條 永代神饌料永代燈油料其他用途ヲ指定シタル寄附金ハ寄附者ノ意思ニ反シテ之ヲ使用セシムルコトヲ得ス

第二十三條 資金ハ各種類毎ニ特別ニ其會計ヲ整理スルモノトス

第三章 豫算、決算帳簿

第二十四條 毎年度ノ收入及支出ハ別記様式ニ準シ豫算ヲ編製シ前年度二月末日迄ニ(追加豫算ハ其時時)地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第二十五條 豫算各項ノ金額ハ地方長官ノ認可ヲ得之ヲ流用スルコトヲ得ルモノトス但國庫下付ノ保存金又ハ維持元資金ノ利子ヲ以テ支辨スヘキ營繕費ハ此ノ限ニ非ラス

第二十六條 地方長官ニ於テ社入金ノ僅少其他神社ノ實況上豫算ヲ編製セシムル必要ナシト認ムルトキハ前二條ノ規定ハ其神社ニ適用セサルコトヲ得

第二十七條 古社寺保存法ニ依リ下付セラレタル修理保存金及各社共通金中ヨリ下付セラレタル營繕費ハ特別ニ其會計ヲ整理セシムルモノトス

第二十八條 收支決算(豫算ヲ編製セサル神社ニ在テハ收支精算)並ニ資金收支明細書ハ別記様式ニ準シ各二通ヲ編製シ翌年度五月三十一日迄ニ之ヲ地方長官ヘ報告セシメ地方長官ハ検査ノ上其一通ヲ内務大臣ニ進達スヘシ

第二十九條 會計帳簿ハ左ノ如シ但便宜補助簿ヲ編製スルコトヲ妨ケス

- 保存金分割簿
- 經費受拂簿
- 經常營繕費受拂簿
- 各種資金彙帳
- 社入金日計簿
- 社入金分割簿
- 社入金經費受拂簿
- 社入金營繕費受拂簿
- 社入金分配金受拂簿
- 用途指定寄附金受拂簿
- 古社寺修理保存金受拂簿
- 各社共通金受拂簿

第三十條 諸帳簿ハ會計主任捺印シ官司檢印ヲナスコトヲ要ス

第四章 會計主任、監督

第三十一條 會計主任ハ禰宜主典ノ中ヨリ官司之ヲ定メ地方長官ニ届出アシムヘシ

第三十二條 會計主任疾病其他事故ノ爲職務ヲ行フ能ハサルトキハ官司ニ於テ他ノ禰宜又ハ主典ヲシテ事務ヲ代理セシメ地方長官ニ届出アシムヘシ

第三十三條 會計主任及其代理者ハ現金又ハ有價證券ノ保管事務ニ付責任ヲ負フモノトス

第三十四條 會計主任及其代理者ハ自身ニ事務ヲ執ラサルヲ事由トシテ其責任ヲ免ルルコトヲ得
 又但レ事務代理ヲ置キタルトキ其代理者ノ行為ニ就テハ會計主任ハ共責ヲ負ハサルモノトス
 第三十五條 天災其他避ケ得ヘカラサル事故ニ因リ損失ヲ生シタルトキハ會計主任又ハ其代理者
 ヲリ共事實ヲ宮司ヘ證明シ宮司ヨリ實際ノ状況ヲ地方長官ヘ報告セシムヘレ
 第三十六條 宮司ニ於テ會計主任及其代理者ノ行為又ハ怠慢ニ依リ損失ヲ生シタリト認ムルトキ
 ハ地方長官ノ認可ヲ得テ損失金ヲ辨償セシムルモノトス
 第三十七條 前二條ノ場合ニ在テハ地方長官ハ共事實ヲ内務大臣ヘ報告スヘレ
 第三十八條 地方長官ハ監督上必要アリト認ムルトキハ會計ノ實況ヲ検査スヘレ
 第五章 附則

第三十九條 年度ノ始ニ於テ社入金ノ實収入アラサルトキハ社入殘蓄積金ヨリ維持元資金利子
 ノ實収入アラサルトキハ經費及修繕費殘蓄積金又ハ社入殘蓄積金ヨリ繰替テ支出セシムルコト
 ヲ得此場合ニ在テハ戻入期限ヲ定メ地方長官ノ認可ヲ得セシムヘレ
 前項ノ資金ナキトキハ戻入期限ヲ定メ内務大臣ノ認可ヲ得テ他ノ資金中ヨリ繰替テ支出セシム
 ルコトヲ得

第四十條 古社寺保存法ニ依リ下付セラレタル修理保存金ニ剩餘ヲ生シタルトキハ内務大臣ノ
 認可ヲ得テ之ヲ處分セシメ共通金中ヨリ下付セラレタル修繕費ニ殘餘アルトキハ之ヲ共通金へ
 返納セシムヘレ
 第四十一條 別段ノ定メアル場合ヲ除クノ外境内地境外所有地委託林保管林等ヨリ生スル產物中
 神社ノ收入ニ屬スヘキモノ及神社不用ノ物品ハ之ヲ賣却シテ社入金中ニ組込マシムヘレ但撤下
 返納セシムヘレ

ノ神鏡幣帛又ハ供物ニシテ從前神職中ニ頒賜スルノ慣例アルモノハ此限ニアラス
 第四十二條 有價證券預金通帳金庫又ハ銀行ノ保管證書等ノ管理ハ現金ト同一ノ取扱ヲ爲スコト
 ヲ要ス

第四十三條 社入金中分配金ヲ宮司以下職員ノ間ニ分配スル步合ハ地方長官ニ於テ之ヲ定ムヘレ
 第四十四條 案簿箱ハ鎖鑰ヲ設ケ會計主任及宮司又ハ其ノ指定セル神職ノ立合ヲ以テ閉封セシム
 ヘレ

第四十五條 本規則中ノ條項ニシテ之ニ準據シ難キ事情アル神社ニ付テハ地方長官ニ於テ内務大
 臣ノ認可ヲ得テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第四十六條 本規則ハ明治三十七年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第四十七條 明治十三年六月二十四日通達經費社入金取扱順序ハ本規則ノ施行ノ日ヨリ廢止ス共
 他本規則ニ抵觸スル從前ノ制規ハ本規則施行ノ日ヨリ抵觸ノ限度ニ於テ廢止ス
 (別記)

明治何年度保存金收支豫算

(△印ハ米百以下微之)

收入		何年度豫算		前年度豫算		比較差額	
目	金額	算高	算高	増減	備考	備考	備考
第一項 保 存 金							
第一目 保 存 金							

第一項 支	第二項 支	第三項 支	第四項 支	第一目 支	第二目 支	第三目 支	第四目 支	何年度	前年度	比較率	備考	
												科目
第一項 支	第一目 支	第一節 支	第一節 支	第一目 支	第一目 支	第一目 支	第一目 支					
				第二目 支	第二目 支	第二目 支	第二目 支					
		第二節 支	第一節 支	第一目 支	第一目 支	第一目 支	第一目 支					
				第二目 支	第二目 支	第二目 支	第二目 支					
		第三節 支	第一節 支	第一目 支	第一目 支	第一目 支	第一目 支					
				第二目 支	第二目 支	第二目 支	第二目 支					
	第二項 支	第一目 支	第一節 支	第一節 支	第一目 支	第一目 支	第一目 支	第一目 支				
					第二目 支	第二目 支	第二目 支	第二目 支				
		第二節 支	第一節 支	第一節 支	第一目 支	第一目 支	第一目 支	第一目 支				
					第二目 支	第二目 支	第二目 支	第二目 支				
		第三節 支	第一節 支	第一節 支	第一目 支	第一目 支	第一目 支	第一目 支				
					第二目 支	第二目 支	第二目 支	第二目 支				
第四項 支	第一目 支	第一節 支	第一節 支	第一目 支	第一目 支	第一目 支	第一目 支					
				第二目 支	第二目 支	第二目 支	第二目 支					

第一項 支	第二項 支	第三項 支	第四項 支	第一目 支	第二目 支	第三目 支	第四目 支	何年度	前年度	比較率	備考	
												科目
第一項 支	第一目 支	第一節 支	第一節 支	第一目 支	第一目 支	第一目 支	第一目 支					
				第二目 支	第二目 支	第二目 支	第二目 支					
		第二節 支	第一節 支	第一目 支	第一目 支	第一目 支	第一目 支					
				第二目 支	第二目 支	第二目 支	第二目 支					
		第三節 支	第一節 支	第一目 支	第一目 支	第一目 支	第一目 支					
				第二目 支	第二目 支	第二目 支	第二目 支					
	第二項 支	第一目 支	第一節 支	第一節 支	第一目 支	第一目 支	第一目 支	第一目 支				
					第二目 支	第二目 支	第二目 支	第二目 支				
		第二節 支	第一節 支	第一節 支	第一目 支	第一目 支	第一目 支	第一目 支				
					第二目 支	第二目 支	第二目 支	第二目 支				
		第三節 支	第一節 支	第一節 支	第一目 支	第一目 支	第一目 支	第一目 支				
					第二目 支	第二目 支	第二目 支	第二目 支				
第四項 支	第一目 支	第一節 支	第一節 支	第一目 支	第一目 支	第一目 支	第一目 支					
				第二目 支	第二目 支	第二目 支	第二目 支					

第二項 境内地收		第二目 神儀料	第一節 神儀料																	
第三項 增外所有財產收入		第三目 祈禱料	第一節 祈禱料																	
第四項 保管委託林收入		第四目 初穂料	第一節 祈禱料																	
第五項 燈油料		第五目 燈油料	第一節 初穂料																	
第六項 神符守札繪圖料		第六目 神符守札繪圖料	第一節 燈油料																	
第七項 何		第七目 何	第一節 神符守札繪圖料																	
第一目 貸下料		第一節 何	第一節 何																	
第二目 境内地貸下料		第一節 境内地貸下料	第二節 境内地貸下料																	
第三目 建物貸下料		第一節 建物貸下料	第三節 何																	

第二目 枯槁木賣却		第一節 枯槁木賣却																		
第三目 何		第一節 何																		
第四項 增外所有財產收入		第一目 貸下料	第一節 宅地貸下料																	
第一目 竹木賣却		第一節 竹木賣却代	第二節 建物貸下料																	
第二目 何		第二節 何	第三節 田畑地貸下料																	
第三目 何		第三節 何	第四節 何																	
第四項 保管委託林收入		第一目 何																		

科	目	何年度		比較
		前年度	本年度	
第五項 用額指定 等附金	第一節 何	第一目 水股修繕		
		第二目 水股修繕費		
		第三目 神苑股費		
第六項 雜收入	第一節 何	第一目 古材賣却		
		第二目 竹器賣却		
		第三目 社屋賣却		
第二項 非常準備 金繰入	第一節 何	第一目 社費補充		
		第二目 社費補充		
		第三目 社費補充		
第一項 非常準備 金繰入	第一節 何	第一目 社費補充		
		第二目 社費補充		
		第三目 社費補充		

科	目	何年度		比較
		前年度	本年度	
第六項 雜收入	第一節 何	第一目 古材賣却		
		第二目 竹器賣却		
		第三目 社屋賣却		
第五項 用額指定 等附金	第一節 何	第一目 水股修繕		
		第二目 水股修繕費		
		第三目 神苑股費		
第二項 非常準備 金繰入	第一節 何	第一目 社費補充		
		第二目 社費補充		
		第三目 社費補充		
第一項 非常準備 金繰入	第一節 何	第一目 社費補充		
		第二目 社費補充		
		第三目 社費補充		

第一項 社費	
第一百 祭典費	第一節 神饌品
	第二節 香具
	第三節 雜用品
	第四節 備入料
第二百 俸給	第一節 主典給
	第二節 雇員給
第三百 報酬	第一節 官司權官司
	第二節 顧問
	第三節 雇員
第四百 手當	第一節 官司權官司
	第二節 雇員
第五百 雜費	第一節 用品

	第二節 筆紙及文具
	第三節 圖書及印刷
	第四節 勸符札調
	第五節 消耗品
	第六節 通信運搬
	第七節 雜給
	第八節 備入料
	第九節 賄費
	第十節 苗木植租
	第十一節 雜費
第六目 旅費	第一節 旅費
第七目 寄附金	第一節 何
第二項 整務費	第一節 整務費
	第一節 新整費

第三款分	第二節修繕費				
第一項分	第一節分配金				
第二項分	第二節分配金				

凡例

一 第一款第一項第二目ニハ永代神糧料ニ屬セサル普通ノ神糧料トシテ受入レタル金額ヲ掲記シ第三目第五目亦之ニ準ス即チ永代神糧料未代神糧料未代神糧料其他用途指定ノ寄附金中資金トシテ受取ルヘキ收入ハ本款ニ掲ケサルモノナリ本款第五項亦用途指定ノ寄附金ニシテ資金ニ屬セサルモノニ限ルモノトス第二款第一項ハ會計規則第二十一條第二號ニ依リ同第二項ハ同第二十三條第三項ニ依リ補充ノ場合ニ此款項目ヲ股ケ其金額ヲ掲記スルモノトス尤モ數種資金ニ依リ補充セルトキハ更ニ數項ヲ股ケハシ

一 備考欄ニハ増減及項目設置ノ理由ヲ必要ニ應シテ掲記スヘシ

支出

一 第一款第一項第一節ニハ當該年度ニ於テ非常豫備金ニ投入レ積立ツヘキ金額ヲ掲記スルモノトス

一 第二款第一項第一目ハ私費及福來社日供等ニ屬スル各費額ヲ掲記シ第二目第三目第四目ハ保存金支出豫算ニ同シク必要ナキ神職ニ在テハ之ヲ股置セシメ第五目第七節ハ神職購買上京費其他諸給與等ノ費用ヲ掲記シ第十一節ハ職社員接待費等ノ費用ヲ必要ニ應シテ掲記ス

一 備考欄ニハ増減及款項目設置ノ理由ヲ必要ニ應シテ掲記スヘシ

明治何年度(保存金若ハ維持元資金又ハ社入金)決算(精算)

科目	收入決算	收入決算	比較差(増)	備考
第何款何				
目				

一 本様式ハ豫算様式ニ準スハキモノニ付其一班ヲ示ス

一 豫算ヲ調整セサル神職ニ付テハ決算ヲ精算トシ(收入豫算額)ノ欄ヲ(前年度精算額)ニ改メヘシ但本規則施行ノ年度ニ在テハ前年度精算額ヲ掲ケサルモ妨ケナシ

一 豫算各項目節ノ流用ヲ為シタルトキハ相互ノ備考欄(其流用ニ係ル金額並ニ事由ヲ記スヘシ)其他凡テ備考欄ニハ増減ノ理由ヲ必要ニ應シテ記入スヘシ

何資金現金收支明細書

類	別	金	額
前年度	越	高	
本年度	積	金	
何公債証券當額元金			

凡例
 一 資金トシテ附金アリタルトキ若クハ現ニ資金ニ屬スル有價証券又ハ不動産ヲ賣拂タルトキハ其金額ヲ受ノ欄ヘ掲載スルモ
 ノトス
 一 現ニ資金ニ屬スル現金ヲ銀行等ヘ預ケ入レタルトキ及ヒ有價証券又ハ不動産ヲ買入若クハ建屋シタルトキハ其金額ヲ拂ノ欄
 へ掲載スルモノトス
 一 前年度繰高ニハ前年度末現在額ヲ記スルモノトス
 一 有價証券買入ニハ買入代金ヲ掲ケ尙ホ額面金額ヲ別註トシテ掲ケルモノトス

類 別	現在		拂			受		
	何 所 預 金	現 金	何 々 々	何 公 債 買 入 (金額)	何 所 々 金	何 株 券 (買入)	何 公 債 (買入)	何 株 券 (同上)
何 公 債 買 入 (金額)								
何 所 々 金								
現 金								
何 所 預 金								
計								

何資金有價証券收支明細書

何資金不動産收支明細書

類 別	現在			拂			受		
	何 所 預 金	何 株 券	何 公 債	何 株 券 買 入	何 公 債 買 入	何 所 々 金	何 株 券 (買入)	何 公 債 (買入)	何 株 券 (同上)
何 公 債 買 入 (金額)									
何 所 々 金									
現 金									
何 所 預 金									
計									

土地段別又ハ建物員數

時

價

保存金分割簿																		
年月日	受	高	永進資本金	經	割	費	經常費	計	現在					計				
									田	畑	地	山	林					

受																			
年月日	受	高	永進資本金	經	割	費	經常費	計	現在					計					
									田	畑	地	山	林						

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

凡例

一 受高欄ハ毎年度國庫下付保存金中各社共通金ヲ引去リタル金額實收額ヲ其部置掲記スルモノトス
 一 保存金ノ下付ヲ受ケタル神社ニ在テハ維持元資金ノ利息分額ヲ開製シ本簿ニ代ユルコトヲ要ス尤モ本簿様式中(永遠資本金)トアル(元資組込金)ト改メ(經常費)トアル(常備費)ト改メ尤モ元資組込金ヲ股クルノ餘裕ナキトキハ(元資組込金)ノ欄ニ金額ヲ掲記セズヲ記スヘシ
 一 各資金ニ依ル保存金ノ補充受入高ハ本簿簿ニ掲記セズ直チニ經費受拂簿又ハ經常費維持費受拂簿ニ掲記受入ルヘシ

(總括) 經費受拂簿

年 月 日		摘 要	受	高	拂	高	現	金	預	高
三十四年四月二十日		三十四年度第一助分受	二二,000				二二,000			
同 月 同 日		何銀行(預入)					一,000			
同 月 三十日		同銀行ヨリ引出							一,000	
同 月 同 日		祭費(支出)			五,000					一七,000
同 月 同 日		俵給(支出)			三,000					一四,000
同 月 同 日		購費(支出)			三,500					一〇,500
合 計			二二,000		一二,500		二二,000			一〇,000
何年何月何日		何々受入								
合 計			二二,000		一二,500		二二,000			一〇,000

凡例
 一 受高欄ハ保存金(維持元資金)ノ分割額ニ於ケル經費分割高及各資金ニ依ル經費研究金買取額ヲ受入レ掲記シ尙ホ其受入金額ヲ支出前銀行ハ一時積入タルキハ其預金ヨリ生スル利息ヲ受高欄(配入)スルモノトス
 一 經費不足ノ爲本規則ニ依リテ研究シタル場合ニハ摘要欄(其事由)ヲ記シ受高欄(其金額)ヲ受入掲記スルモノトス
 一 本規則第三十九條ニ依リ假使支出ヲ爲シタルトキ又前項ニ同レ尙ホ之カ戻シ入レヲ爲シタルトキハ其事由ヲ摘要欄(記)シ金額ヲ拂ノ欄(掲記)スルモノトス
 一 本規則第二十五條ニ依リ豫算各項ノ流用ヲナレタルトキハ摘要欄(其事由)ヲ記シ流用受入ノ場合ニ在テハ其金額ヲ受高欄(掲記)シ流用支出ノ場合ニ在テハ其金額ヲ拂ノ欄(掲記)スルモノトス
 一 本規則第十三條ノ戻入金ハ摘要欄(其事由)ヲ記シ其高ヲ受高欄ニ掲記スヘシ
 一 拂高ハ支出豫算各目毎ニ其日計ヲ掲記スヘシ
 一 支出豫算各目ノ收支ヲ内訳明細ナラシムル爲各目毎ニ口座ヲ設ケヘシ其例次ニ示スカ如シ
 一 二箇月毎ニ合計ヲ付シ翌月ヨリ累計ヲモ付スヘシ

(口座例) 祭典費

年 月 日		摘 要	受	高	拂	高
三十四年四月三十日		例祭費			五,000	
同		例祭用酒一升代何某渡シ				八,000
同		同上何魚何尾代何某渡シ				一,000
同		祭典用何器何個代何某渡シ				二,000
同		例祭用何水代何某渡シ				五,000
同		同上ニ付巫女何某外何名雇入				七,000
合 計					五,000	一〇,000

何年何月何日	何々								
合	計								
原	計								

祭典費

凡例
 一 祭典費ハ祭典費(總括)ニ於ケル諸高ヲ總括シテ祭典費ハ各社務ヲ明細ニ記載スヘシ
 一 各社務ハ總括費中何レノ節ニ屬スルヤヲ明カニシテ「一」節「二」節「三」節ニ記載スル節ノ名稱頭字ヲ記載スヘシ
 一 一月毎ニ合計ヲ付シテ翌月ヨリ累計ヲ付スヘシ

經常費受拂簿

年月日	摘要	受	高	拂	高	現	殘	金	預	高
三十四年四月二十日	三十四年度第一期分受	10000				10000				10000
同月同日	付銀行へ預入									
同月同日	同銀行ヨリ引出									
同月同日	玉垣修繕費金何某渡									
同月同日	水倉屋根修繕費何某渡									
同月同日	付何某ヨリ戻入									
同月同日	何銀行へ預入									
合計		10000				10000				10000
原計										

凡例
 一 要高欄ハハ保存金(維持元資金)利息ノ分割額ニ於ケル分割高及各資金ニ依ル補充金取崩額ヲ受入掲記シ其受入金額ヲ支出前振
 行へ一併預ケ入レタルトキハ其額ケ金ヨリ生スル利息モ記入スルモノトス
 一 本欄中ハ經常費受拂簿(口座)ノ如ク各社務毎ニ明細ニ記載スヘシ
 一 本欄中ハ經常費受拂簿トアルハ保存金ノ下付ヲ受ケサル神社ニ在テハ單ニ經常費ト改メ
 一 其他流用戻入不足補充費支出等總テ經常費受拂簿(總括)ノ例ニ準ス
 一 一月毎ニ合計ヲ付シテ翌月ヨリ累計ヲ付スヘシ

何資金還帳

現金ノ部

年月日	摘要	受	高	拂	高	現	殘	金	預	高
三十四年五月一日	何某附金	10000				10000				10000
同日	何銀行へ預入									
同日	何銀行ヨリ引出									
同日	何費へ流用許可何月何日許可									
合計		10000				10000				10000
同月十六日	六月分利息受入									
同月十六日	何銀行へ預入									
合計										
原計										

凡例
 一 各種資金毎ニ例ハハ永遠資本金又ハ維持元資金、配股及増資費、非當準備金、永代準備金、永代準備金等ノ如ク掲記
 一 附記スヘシ

合 計	七五	三六八
累 計	一六四	五六八

凡例
 一金額ノ欄ハ八日受入レタル諸種ノ社入但用途指定ノ寄附金中資金トシテ差覆スヘキモノ及社入補充金ヲ除ク金額ヲ掲記スヘシ
 一用途指定ノ寄附金中資金トシテ差覆スヘキモノ例ハ永代神機料永代燈油料等ノ如キハ本帳簿ニ掲記セス直チニ寄附資金表ニ掲記スヘシ各種資金ヨリ社入金補充トシテ受入ル金額ハ亦本帳簿ニ掲記セス直チニ社入金總受納簿又ハ社入金總納費受納簿差高ノ掲記スヘシ
 一社入金収入簿表各日毎ニ口座ヲ設ケ(例ハ八景園、初詣料、守札料、神苑股、寄附金、本殿改修料、附金等ノ如シ)其各種社入ノ口計ヲ明ナラシムヘシ口座例ハ次ニ示スカ如シ
 一箇月毎ニ合計ヲ付シ翌月ヨリ累計ヲ付スヘシ

(口座例) 守札料		年月日	摘要	金額	順
三十四年四月一日	一等守札	二十體委員者ノ授與		一六〇〇	一
同月同日	二等守札	五十體委員者ノ授與		二五〇〇	二
同月二日	三等守札	百體何某ノ授與		三〇〇〇	三
合 計				七一〇〇	
累 計				七一〇〇	

守札料

凡例
 一日日合計ヲ付シ第二日ヨリ累計ヲ付スヘシ

社入金分劃簿

年月日	摘要	金額	分	
			用途指定寄附金	非常課徴金
何年何月何日	何月分			
何年何月何日	何月分			
何年何月何日	何月分			
累 計				
何年何月何日	何月分			
累 計				

凡例
 一 受寄附金ハ社入金日計簿ニ於ケル毎月合計額ヲ記入シ之ヲ本規則ニ照ラシテ分別スルモノトス
 一 分別寄附金ハ用途指定ノ寄附金ノ部ニハ本規則第八條第一號ノ用途指定寄附金中資金トシテ蓄積スルヲ要セサルモノ(例ヘハ
 神祇費附金、水險改良費附金等)如シ、各種目收積計ヲ撰記シ、非蓄積金ノ部ニハ本規則第八條第二號ニ依リ其
 月ニ於テ蓄積スル金額ヲ撰記シ、總費積算分配金ノ部ニハ本規則第八條第二號ノ金額其月分ヲ夫夫撰記スルモノトス
 一 二箇月目ヨリ累計ヲ付スヘシ

(總括) 社入金經費受拂簿

年月日	摘要	受高	拂高	現金	預金
三十四年五月一日	三十四年四月分分割高	六〇〇〇〇	一〇〇	六〇〇〇〇	一〇〇
同日	何々銀行預入			一〇〇〇〇	一〇〇〇〇
同日	臨時祭費		一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇
合計		六〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇
何月何日	何月分分割高				
何月何日	何々銀行預入				
合計					
累計					

凡例
 一 此帳簿ハ社入金經費受拂ノ總括ヲ記載スルモノトス

一 受寄附金ハ社入金分納簿ニ於ケル分割高及各種資金ニ依リ經費補充金買取額ヲ受入レ後高ハ社入金支出簿算各口毎ニ其口計ヲ撰記スヘシ
 一 社入金支出簿算各口收支明細ハ別ニ口座ヲ設ケ整理スヘシ其例次ニ示スカ如シ
 一 用途指定ノ寄附金ヲ以テ支出スル經費ハ本帳簿ニ記入ノ限リニアラス
 一 其他保存金經費受拂簿ノ凡例ニ準シ記載スルモノトス
 一 二箇月毎ニ合計ヲ付シ翌月分ヨリ累計ヲ付スヘシ

(口座例) 祭典費

年月日	摘要	受高	拂高
三十四年五月十日	臨時祭費		三九五〇
同日	例祭用酒一升代何某渡		六〇〇
同日	何魚何尾代何某渡		五〇〇
同日	巫女何某外何人謝禮		二〇〇〇
同日	備代何某渡		五〇〇
同日	巫布貳枚代何某渡		一五〇
同日	靈柩貳拾個代何某渡		二〇〇
合計		三九五〇	三九五〇

凡例
 一 受寄附金ハ社入金經費受拂簿(總括)ニ於ケル摘要ヲ記載シ其支拂ハ明細ニ記載スヘシ

一各仕簿ハ帳簿中何レノ部ニ屬スルヤツ明カナラシムル爲ニ「節」ニ附シテ該部ニ屬スル部ノ名稱取テ記載スヘシ
 二借月毎ニ合計ヲ付シ翌月分ヨリ累計ヲ付スヘシ

社入金繰納費受拂簿

年月日	摘要	受	高	拂	高	現	金	預	金
三十四年五月一日	三十四年四月分社入金	50000				50000			
同日	何處修繕費何某渡			2000			48000		
同日	何處雇車運送費何某渡			30000			17000		
同日	何處銀行へ預入							17000	
合計		50000		32000		50000		34000	
何月何日	何處受入								
何月何日	何處銀行へ預入								
何月何日	何處修繕費何某渡								
合計									
累計									

凡例

一要需ハ社入金分制額ニ於ケル分制額及名資金ニ依ル補充金買取額ヲ受入ルヘキモノトス
 二用途指定ノ費用金ヲ以テ支出スル修繕費ハ本帳簿ニ記載ノ限リニテナス
 三其種保存金經常費等受拂簿ノ例ニ準シ記載スヘシ
 四借月毎ニ合計ヲ付シ翌月分ヨリ累計ヲ付スヘシ

社入金分配金受拂簿

年月日	摘要	受	高	拂	高	現	金	預	金
三十四年五月一日	三十四年度四月分分配金					100000			
同日	宮前何某渡						100000		
同日	福宜何某渡						50000		
同日	主典何某渡						35000		
同日	照何某渡						15000		
合計						100000		100000	
何年何月何日	何年度何月分分配金								
何月何日	何々(以下略之)								
合計									
累計									

凡例

一借月毎ニ合計ヲ付シ翌月ヨリ累計ヲ付スヘシ
 二用途指定ノ費用(寄附金受拂簿ノ例)

何寄附金受拂簿

年月日	摘要	受	高	拂	高	現	金	預	金
三十四年六月一日	前年度繰前			100000					
同日	何某ヨリ寄附			50000		50000			
同日	前年度繰前			100000					
同日	何某ヨリ寄附			50000		50000			
同日	前年度繰前			100000					
同日	何某ヨリ寄附			50000		50000			
同日	前年度繰前			100000					
同日	何某ヨリ寄附			50000		50000			
同日	前年度繰前			100000					
同日	何某ヨリ寄附			50000		50000			
同日	前年度繰前			100000					
同日	何某ヨリ寄附			50000		50000			
同日	前年度繰前			100000					
同日	何某ヨリ寄附			50000		50000			
同日	前年度繰前			100000					
同日	何某ヨリ寄附			50000		50000			
同日	前年度繰前			100000					
同日	何某ヨリ寄附			50000		50000			
同日	前年度繰前			100000					
同日	何某ヨリ寄附			50000		50000			
同日	前年度繰前			100000					
同日	何某ヨリ寄附			50000		50000			
同日	前年度繰前			100000					
同日	何某ヨリ寄附			50000		50000			
同日	前年度繰前			100000					
同日	何某ヨリ寄附			50000		50000			
同日	前年度繰前			100000					
同日	何某ヨリ寄附			50000		50000			
同日	前年度繰前			100000					
同日	何某ヨリ寄附			50000		50000			
同日	前年度繰前			100000					
同日	何某ヨリ寄附			50000		50000			
同日	前年度繰前			100000					
同日	何某ヨリ寄附			50000		50000			
同日	前年度繰前			100000					
同日	何某ヨリ寄附			50000		50000			
同日	前年度繰前			100000					
同日	何某ヨリ寄附			50000		50000			
同日	前年度繰前			100000					
同日	何某ヨリ寄附			50000		50000			
同日	前年度繰前			100000					
同日	何某ヨリ寄附			50000		50000			
同日	前年度繰前			100000					
同日	何某ヨリ寄附			50000		50000			
同日	前年度繰前			100000					
同日	何某ヨリ寄附			50000		50000			
同日	前年度繰前			100000					
同日	何某ヨリ寄附			50000		50000			
同日	前年度繰前			100000					
同日	何某ヨリ寄附			50000		50000			
同日	前年度繰前			100000					
同日	何某ヨリ寄附			50000		50000			
同日	前年度繰前			100000					
同日	何某ヨリ寄附			50000		50000			
同日	前年度繰前			100000					
同日	何某ヨリ寄附			50000		50000			
同日	前年度繰前			100000					
同日	何某ヨリ寄附			50000		50000			
同日	前年度繰前			100000					
同日	何某ヨリ寄附			50000		50000			
同日	前年度繰前			100000					
同日	何某ヨリ寄附			50000		50000			
同日	前年度繰前			100000					
同日	何某ヨリ寄附			50000		50000			
同日	前年度繰前			100000					
同日	何某ヨリ寄附			50000		50000			
同日	前年度繰前			100000					
同日	何某ヨリ寄附			50000		50000			
同日	前年度繰前			100000					
同日	何某ヨリ寄附			50000		50000			
同日	前年度繰前			100000					
同日	何某ヨリ寄附			50000		50000			
同日	前年度繰前			100000					
同日	何某ヨリ寄附			50000		50000			
同日	前年度繰前			100000					
同日	何某ヨリ寄附			50000		50000			
同日	前年度繰前			100000					
同日	何某ヨリ寄附			50000		50000			
同日	前年度繰前			100000					
同日	何某ヨリ寄附			50000		50000			
同日	前年度繰前			100000					
同日	何某ヨリ寄附			50000		50000			
同日	前年度繰前			100000					
同日	何某ヨリ寄附			50000		50000			
同日	前年度繰前			100000					
同日	何某ヨリ寄附			50000		50000			
同日	前年度繰前			100000					
同日	何某ヨリ寄附			50000		50000			
同日	前年度繰前			100000					
同日	何某ヨリ寄附			50000		50000			
同日	前年度繰前			100000					
同日	何某ヨリ寄附			50000		50000			
同日	前年度繰前			100000					
同日	何某ヨリ寄附			50000		50000			
同日	前年度繰前			100000					
同日	何某ヨリ寄附			50000		50000			
同日	前年度繰前			100000					
同日	何某ヨリ寄附			50000		50000			
同日	前年度繰前			100000					
同日	何某ヨリ寄附			50000		50000			
同日	前年度繰前			100000					
同日	何某ヨリ寄附			50000		50000			
同日	前年度繰前			100000					
同日	何某ヨリ寄附			50000		50000			
同日	前年度繰前			100000					
同日	何某ヨリ寄附			50000		50000			
同日	前年度繰前			100000					
同日	何某ヨリ寄附			50000		50000			
同日	前年度繰前			100000					
同日	何某ヨリ寄附			50000		50000			
同日	前年度繰前			100000					
同日	何某ヨリ寄附			50000		50000			
同日	前年度繰前			100000					
同日	何某ヨリ寄附			50000		50000			
同日	前年度繰前			100000					
同日	何某ヨリ寄附			50000		50000			
同日	前年度繰前			100000					
同日	何某ヨリ寄附			50000		50000			
同日	前年度繰前			100000					
同日	何某ヨリ寄附			50000		50000			
同日	前年度繰前			100000					
同日	何某ヨリ寄附			50000		50000			
同日	前年度繰前			100000					
同日	何某ヨリ寄附			50000		50000			
同日	前年度繰前			100000					
同日	何某ヨリ寄附			50000		50000			
同日	前年度繰前			100000					
同日	何某ヨリ寄附			50000		50000			
同日	前年度繰前			100000					
同日	何某ヨリ寄附			50000		50000			
同日	前年度繰前			100000					
同日	何某ヨリ寄附			50000		50000			
同日	前年度繰前			100000					
同日	何某ヨリ寄附			50000		50000			
同日	前年度繰前								

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
何銀行へ預ケ入	何銀行より引出	何々何何某へ渡ス	何々何何某へ渡ス	何々何何某へ渡ス	何々何何某へ渡ス	何々何何某へ渡ス	何々何何某へ渡ス	何々何何某へ渡ス	何々何何某へ渡ス	何々何何某へ渡ス	何々何何某へ渡ス	何々何何某へ渡ス	何々何何某へ渡ス	何々何何某へ渡ス	何々何何某へ渡ス	何々何何某へ渡ス	何々何何某へ渡ス	何々何何某へ渡ス	何々何何某へ渡ス	何々何何某へ渡ス
100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000

凡例
 一 各用途指定ノ寄附金毎三(例へハ神苑施設寄附金、何樂典費寄附金、神興調製費寄附金等)如シ帳簿ヲ調製スヘシ但用途指定ノ寄附金中資金ニ屬セザルモノニ限ル
 二 箇月毎ニ合計ヲ付シ翌月ヨリ算計ヲ付スヘシ
 古社寺修理保存金受拂簿
 各社共通金受拂簿
 右二帳簿ハ用途指定寄附金受拂簿様式ヲ準用シテ調製配賦スヘシ

○大藏省訓令第三十四號

明治三十一年大藏省訓令第十一號國稅徵收事務取扱上諸帳簿及報告書調製方中第十條第七號書式及第十一條中第十條(國稅滯納報告書ハハ府縣別ニ集計)徵收報告書ハ國稅滯納報告表ハ其月末日ヲ削ル

○大藏省訓令第三十五號

明治三十六年八月六日 大藏大臣男爵曾禰荒助 府縣

明治三十四年ハ大藏省訓令第三十號府縣稅滯納處分報告表備考ニ左ノ一項ヲ加ヘ一、ヲニ、トシ以下順次繰下ケ仍ホ一、中滯納處分ノ事項ニ箇以上ニ涉ルトキ亦同シトアルヲ削除ス
 大藏大臣男爵曾禰荒助

○大藏省訓令第三十六號

明治三十四年大藏省訓令第三十一號附屬様式中別冊ノ通改正シ酒造稅ハ明治三十六年十月一日ヨリ醬油稅、砂糖消費稅ハ明治三十七年一月一日ヨリ酒精及酒精含有飲料稅、麥酒稅ハ同年三月一日ヨリ各施行ス但シ稅務監督局長ニ於テ右期日前ヨリ施行スルヲ便宜トスル部分ハ適宜施行期日ヲ定ムルコトヲ得
 別冊ハ當省主稅局ヲシテ送付セシム (別冊略ス)
 大藏大臣男爵曾禰荒助

○農商務省訓令第八號

其縣下西白河郡中畑村大字大畑、平鉢、寺内、鍋内及同郡三神村大字明新、中野目、神田ヲ今回岩瀬柳瀬場ニ編入セラレタル旨宮内大臣ヨリ照會アリタルニ付此旨心得ヘシ
 農商務大臣男爵清浦奎吾
 内務大臣男爵兒玉源太郎
 警視廳 道廳 府縣 東京府

○農商務省訓令第九號

畜牛結核病豫防法ニ依ル検査員執務規程左ノ通相定ム
 明治三十六年八月十五日 農商務大臣男爵清浦奎吾

検査員執務規程

第一條 検査員ハ其ノ職務ノ執行ニ關シ上司ノ指揮命令ヲ遵奉シ公平誠實ヲ旨トスヘシ

第二條 検査員ハ結核病ニ罹リ又ハ其ノ疑アル畜牛ノ所有者又ハ管理者ニ結核病ノ豫防措置ニ關シ必要ナル事項ヲ指示スヘシ

第三條 畜牛ノ所有者又ハ管理者中共ノ畜牛ノ種類ヲ誤リ又ハ知ラサルカ爲法令ノ規定ニ違反セラル者ナルヨリトモ發見シタルトキハ懸念ニ之ヲ脱除シ法令ノ規定ニ依ラシムヘシ故意ニ法令ニ違反セル者ニ關シテハ直ニ告發ノ手續ヲ爲スヘシ

第四條 検査ノ爲奉付タル畜牛ハ成ルヘク其ノ外貌ニ依リ健康ナルモノト異狀アルモノトヲ區別シ各別ニ之ヲ繋留セシムヘシ

「ツベルクリン」注射ノ方法ニ依リ検査ヲ行フ場所ニハ成ルヘク塞閉ヲ防キ消毒ニ便ナル施設ヲ爲スヘシ

第五條 「ツベルクリン」ハ稀釋シタルモノト否トヲ問ハス光線ヲ遮リタル清涼ナル場所ニ置クコトヲ注意スヘシ

第六條 注射ニ用ユル「ツベルクリン」ハ濃厚「ツベルクリン」二分ニ二百倍ノ石炭酸水九分ヲ加ヘテ之ヲ稀釋スヘシ

稀釋ノ爲ニ用ユル石炭酸ヲ溶解スルニハ煮沸水ヲ用フヘシ

第七條 檢温器ハ精度鋭敏ニシテ標準トスヘキ正確ナル檢温器ニ對照シテ度数ノ加減ヲ明確ニシタル標準ナルモノヲ用フヘシ

第八條 注射器ハ注射ニ用ユル前又ハ注射ニ用非タル毎ニ二十倍ノ石炭酸水又ハ酒精ヲ以テ消毒ヲ行ヒタル後煮沸水ニテ洗浄スヘシ

第九條 左ノ畜牛ハ検査猶豫ノ取扱ヲナスコトヲ得
一 結核病以外ノ疾病又ハ傷瀉ノ爲検査ヲ受クルコト能ハサルモノ
一分曉前一箇月以内若ハ分曉後十日以内ノモノ

第十條 「ツベルクリン」注射ヲ行ハシメタルトキハ其ノ日ノ朝夕及正午ニ於テ體温ヲ檢スヘシ

第十一條 「ツベルクリン」ヲ注射スヘキ部位ハ頸部ノ側面トシ豫メ二十倍ノ石炭酸水又ハ酒精ヲ以テ消毒スヘシ

第十二條 「ツベルクリン」ハ左ノ分量ニ依リ注射スヘシ
一 大壯牛 ○六乃至○七立方仙迷
一 成牛 ○五立方仙迷
一 一歳以上二歳未満ノ畜牛 ○三乃至○四立方仙迷
一 一歳未満ノ幼牛 ○一乃至○二立方仙迷

第十三條 「ツベルクリン」ヲ注射シタル後第八時ヨリ第二十二時ニ至ル迄二時間毎ニ體温ヲ檢スヘシ二十二時間以内ニ於テ常温ニ復スルトキハ其ノ後體温ヲ檢スルヲ要セス

前項ノ場合ニ於テ第二十二時ニ至リ畜牛ノ發熱稽留シテ下降セサルトキハ第三十二時ニ至リ更ニ體温ヲ檢スヘシ

第十四條 畜牛ノ診斷ハ検査員中主任獸醫ニ於テ之ヲ爲シ助手獸醫ハ單ニ補助ノ職務ヲ行フヘシ

第十五條 結核病ニ罹リタル畜牛ハ之ヲ撲殺若ハ鎖飼スル迄ノ間健牛及結核病ニ罹リタル疑アル畜牛ト隔離セシムヘシ

結核病ニ罹リタル疑アル畜牛ハ検査後直ニ隔離ヲ命スヘシ

第十六條 畜牛ノ鎖飼ヲ命スルトキハ左ノ事項ヲ指示スヘシ
一 輕症結核病ニ罹リタル畜牛ト同一ノ畜舎ニ他ノ畜牛アラサルトキハ之ヲ其ノ畜舎ニ繋留シ結核病ニ罹リタル疑アル畜牛及健牛ヲ入レシメサルコト
一 輕症結核病ニ罹リタル畜牛ト同一ノ畜舎ニ他ノ畜牛アリタルトキハ輕症結核病ニ罹リタル畜牛ヲ在來ノ畜舎ニ置キ他ノ畜牛ハ之ヲ別舎ニ移シシムルコト
一 前號ノ方法ヲ實施シ難キ場合ニ於テハ土壁木壁其ノ他堅牢ナル隔壁ヲ以テ畜舎内ヲ分班シ

結核病ニ罹リタル畜牛ト他ノ畜牛ヲ各別ノ場所ニ繋留セシムルコト
 一 輕症結核病ニ罹リタル畜牛ハ他ノ畜牛ト交通ヲ絶シムルコト但シ牝牛ニシテ健康ナル牝牛ニ交尾セシムル場合ハ此ノ限ニ在ラス

一本條第一號乃至第三號ノ場合ニ於テ畜舎ニ附屬スル運動場アルトキハ輕症結核病ニ罹リタル畜牛及其ノ他ノ畜牛ニ付各別ニ運動場ノ區域ヲ指示スルコト
 一 輕症結核病ニ罹リタル畜牛ハ指定シタル畜舎若ハ運動場以外ニ出サシメサルコト

第十七條 前條ノ規定ハ第十五條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十五條第二項ノ畜牛ハ検査員ニ於テ場所及方法ヲ指示シテ放牧又ハ使役ヲ認許スルコトヲ得
 第十八條 隔離又ハ鎖飼ヲ命シタル畜牛ノ所有者又ハ管理者ニ於テ渡其ノ他正當ノ事由ニ依リ隔離又ハ鎖飼ノ方法若ハ場所ノ變更ヲ願出ツルトキハ前二條ノ規定ニ依リ更ニ之ヲ指示シ變更ノ場所他ノ警察官署ノ管轄區域ニ互ルトキハ其ノ所轄警察官署ニ通知スヘシ
 隔離又ハ鎖飼ヲ命シタル畜牛ヲ屠殺ノ爲隔離又ハ鎖飼ノ場所ヨリ牽出スコトヲ願出ツルトキハ病毒ノ散布ヲ防クニ足ルヘキ施設及屠殺スヘキ場所並期間ヲ指示シ之ヲ許可スヘシ

第十九條 検査員ハ隔離又ハ鎖飼ヲ命シタル畜牛ヲ隨時監視スヘシ

第二十條 重症結核病ニ罹リタル畜牛ヨリ採取シタル乳汁ハ採取後直ニ石炭酸水又ハ石灰乳ヲ混シ其ノ漏出ヲ防キ廢棄處分ヲ行フヘシ

第二十一條 重症結核病ニ罹リタル畜牛ノ撲殺ハ検査員ニ於テ十五日以内ニ之ヲ行ハシムヘシ
 前項ノ畜牛ヲ撲殺ヲ行フヘキ場所ニ牽行ク場合ニハ病毒ノ散布ヲ防クニ足ルヘキ施設ヲ指示スヘシ

第二十二條 消毒ノ方法、埋却スヘキ屍體ノ措置、屍體又ハ畜牛ヲ移動スル場合ニ於ケル病毒ノ散布ヲ防クヘキ施設及結核病ニ罹リタル畜牛ノ乳汁、屍體、其ノ部分並病毒ニ汚染シ又ハ其ノ疑アル物品ヲ埋却スヘキ土坑、場所ニ付テハ獸疫豫防法施行細則及獸疫豫防心得ノ規定ヲ準用ス

○内閣訓令第一號

明治三十一年十一月内閣訓令第一號甲號人口統計材料統計表取扱手續
 明治三十六年九月五日

北海道廳 府縣
 内閣總理大臣 伯爵 桂 太郎

(甲號)

人口統計材料統計表取扱手續

- 第一條中第六號ヲ第四號ニ改ム
- 第二條中第一號第二號第三號及第五號第六號表ヲ第一號乃至第三號表ニ改ム
- 第八條 削除

(別記)

人口統計材料統計表様式

第一號表並其ノ備考ヲ左ノ如ク改ム

第一號 本籍人口族稱別 (毎五年間)	族稱		戶主		家		族		合	
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	計
平民										
士族										
總計										

北海道府縣市町村名
 明治三十一年十二月三十一日現在

○大藏省訓令第三十七號
榨腦事務局事務取扱手續左ノ通相定メ本年十月一日ヨリ施行ス

榨腦事務局

明治三十六年九月二十二日

大藏大臣男爵曾禰荒助

榨腦事務局事務取扱手續

第一章 總則

第一條 榨腦事務局又ハ同出張所ハ別紙第一號乃至第三號書式ノ用紙ヲ備ヘ置キ出願人又ハ届出
人ニテ請求スルトキハ之ヲ交付スヘシ

第二條 本則中出張所ヨリ事務局ニ又ハ事務局ヨリ出張所ニ通知スヘキコトヲ定メタル規定ハ出
張所ナキ地方ニ於テハ粗製榨腦油製造人ニ付テハ之ヲ適用セス

第三條 施行細則第一條ニ依リ粗製榨腦油製造又ハ粗製榨腦油精製ノ許可ヲ得ムトスル者第
一號書式ノ製造許可願用紙ヲ以テ出願シタル場合ニ於テ之ヲ許可シタルトキハ丙號ヲ出願者ニ
下付シ甲號ヲ所轄榨腦事務局ニ丁號ヲ製造地所轄ノ小林區署ニ發送スヘシ此ノ場合ニ於テ乙號
ハ出張所甲號ハ榨腦事務局ニ於テ各備フヘキ許可證帳トシテ編纂シ置キ異動ノ時々加除スヘキ
モノトス

製造許可ヲ得ムトスル者カ第一號書式ノ用紙ニアラサルモノヲ以テ出願シタルトキハ其ノ願書
ヨリ必要ノ事項ヲ第一號書式ノ用紙ニ移記シ前項ノ手續ヲ爲スモノトス此ノ場合ニ於テハ乙號
中ニ出願者ノ捺印ナキハ別紙ヲ以テ出願シタルニ因ル旨ヲ記載スヘシ

第四條 施行細則第三條、第四條第二項及第九條ノ出願ヲ爲サントスル者第二號書式ノ用紙ヲ以
テ出願シタル場合ニ於テ之ヲ許可シタルトキハ丙號ヲ出願者ニ下付シ甲號ヲ所轄榨腦事務局ニ
丁號ヲ製造地所轄ノ小林區署ニ發送スヘシ

出願者第二號書式ノ用紙ニアラサルモノヲ以テ出願シタルトキハ其ノ願書中ヨリ必要ノ事項ヲ
第二號書式ノ用紙中甲丙丁ニ移記シ發送ノ手續ヲ爲スヘシ

第五條 施行細則第四條第一項、第五條、第六條及第十七條ノ届出ヲ爲サムトスル者ハ第三號書式
ノ用紙ヲ以テ届出ヲ爲シタルトキハ乙號ヲ所轄榨腦事務局ニ發送スヘシ

前條第二項ハ之ヲ本條ノ場合ニ準用ス

第六條 施行細則第十條ニ依リ生産見込量目ノ更訂ヲ製造者ニ通知シタルトキハ一人別更訂高ヲ
所轄榨腦事務局ニ通知スヘシ

第七條 榨腦事務局ニ於テ收納シタル粗製榨腦油、榨腦油ハ其ノ事務局ニ於テ賣渡スモノノ外總テ
左ノ手續ニ依ルモノトス

- 一 粗製榨腦油ハ隨時神戸榨腦事務局ニ回送シ神戸榨腦事務局ハ其ノ局收納ニ係ルモノト共ニ之
ヲ臺灣總督府專賣局神戸支局ニ賣渡スモノトス
- 二 榨腦油ハ隨時各榨腦事務局ヨリ再製請負人ニ交付シ請負人ニ於テ再製シタル榨腦油ハ神戸榨
腦事務局ニ納付セシメ之ヲ臺灣總督府專賣局神戸支局ニ賣渡スモノトス

第二章 收納及交付

第八條 施行細則第十一條第二項ニ依リ納付期日ヲ指定シタルトキハ之ヲ所轄出張所ニ通知スヘ
シ

第九條 施行細則第十一條第三項ニ依リ納付ノ猶豫ヲ出願シタルトキハ第四條ニ準シ丙號ヲ出願
者ニ下付シ甲號ヲ所轄出張所ニ發送スヘシ

第十條 施行細則第十四條ニ依リ所轄榨腦事務局以外ノ榨腦事務局ニ粗製榨腦油、榨腦油ノ納付ヲ

爲スノ認可ヲ出願シタルトキハ第四條ニ準シ丙號ヲ出願者ニ下付シ甲號ヲ所轄出張所ニ發送シ
甲號ト同一ノ書式ニ依ル通知書ニ許可證帳ノ原本ヲ添ヘ納付ヲ爲スヘキ棧腦事務局ニ發送スヘ
許可證帳ニ記載シタル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度之ヲ納付ヲ爲スヘキ棧腦事務局ニ
通知スヘ

第十一條 粗製樟腦 樟腦油ノ納付ヲ申出テタルトキハ左ノ順序ニ依リ處理スヘシ
一 受付

受付主任ニ於テ人名ヲ許可證帳ニ照合シ第四號書式ノ用紙ニ納付年月日、到着番號及納付
者ノ住所氏名ヲ記入シ到着番號札ヲ交付シ現品一箇毎ニ左ノ符票ヲ附シ用紙ト共ニ之ヲ鑑
定主任ニ回付ス

到着番號	第	何	號	等	何	等
------	---	---	---	---	---	---

同一ノ納付者ニシテ製造人又ハ製造場ヲ異ニシタル粗製樟腦又ハ樟腦油ヲ取經メ混合シテ
納付セムトスル場合ニ於テハ納付者ヲシテ乙號内譯欄ニ製造場又ハ製造人及其ノ内譯斤數
ヲ記入セシムヘシ

二 鑑定

鑑定主任ニ於テ前號ノ回付ヲ受ケタルトキハ定置容器ニ移出シテ之ヲ鑑定シ鑑定ノ結果合
格ヲ認メタルトキハ用紙ニ等級ヲ記載シ尙現品ニ附シタル符票ニ等級ヲ記シ用紙ト共ニ之
ヲ秤量主任ニ回付ス

三 秤量

秤量主任ニ於テ前號ノ回付ヲ受ケタルトキハ其ノ量目ヲ檢定シテ斤數ヲ用紙ニ記載シ用紙
ハ之ヲ計算主任ニ現品ハ之ヲ倉庫主任(物品會計官吏以下同シ)ニ回付ス

四 計算

計算主任ニ於テ用紙ノ回付ヲ受ケタルトキハ補償金額ヲ算出シテ之ヲ記入シ納付者ニ示シ
其ノ棧腦事務局ノ鑑定ニ異議ナキモノハ直ニ捺印シテ受入命令ノ手續ヲ爲シ之ヲ倉庫主
任ニ回付シ其ノ鑑定ニ不服ナルモノハ再鑑定ノ請求ヲ爲サシム

第一號第二項ノ場合ニ於テ秤量主任ノ檢定シタル粗製樟腦 樟腦油ノ斤數カ納付者ノ記入
シタル内譯斤數ノ合計ニ對シ異動ヲ生シタルトキハ檢定斤數ヲ内譯斤數ニ按分シテ製造人
又ハ製造場毎ノ納付高ト爲シ内譯中檢定斤數欄ニ記入スヘシ

五 倉庫

倉庫主任ニ於テ用紙ノ回付ヲ受ケタルトキハ本條第三號ニ依リ回付ヲ受ケタル現品ト對照
シ現品ハ受入ノ手續ヲ爲シ用紙中丙號ニ領收印ヲ捺捺シ之ヲ仕拂主任ニ回付ス

六 仕拂

仕拂主任ニ於テ用紙ノ回付ヲ受ケタルトキハ仕拂命令ノ手續ヲ爲シ補償金ノ仕拂命令書領
收印ヲ捺捺シシメ仕拂命令書及用紙ノ丙號ヲ納付者ニ交付シ用紙ハ之ヲ記載主任ニ回付
ス

七 記帳

記載主任ニ於テ用紙ノ回付ヲ受ケタルトキハ之ニ依リ納付證帳、粗製樟腦出納簿、樟腦油出

納簿及蔵出ニ關スル帳簿ヲ整理スヘシ

前項ノ整理ヲ了リタルトキハ甲號ヲ所轄出張所ニ發送スヘシ但シ二箇所以上ノ出張所ニ通知スヘキ場合ニ於テハ所轄出張所毎ニ別ニ通知書ヲ調製シ之レカ發送ヲ爲スヘシ

施行細則第十四條ニ依リ所轄外製造人ヨリ粗製樟腦 樟腦油ヲ納付シタル場合ニ於テハ甲號ヲ製造場所轄煉腦事務所ニ發送シ其ノ事務所ハ之ニ依リ更ニ所轄出張所ニ通知スヘシ

第十二條 樟腦油再製ノ爲メ煉腦事務所ニ於テ樟腦油ヲ請負人ニ交付セムトスルトキハ交付スヘキ日ヲ定メ之ヲ請負人ニ通達スヘシ

第十三條 煉腦事務所ニ於テ再製ノ爲メ樟腦油ヲ請負人ニ交付スルトキハ第五號書式ノ用紙中乙號ニ受取人住所氏名 交付月日及斤數ヲ記入シ受取人ヲシテ捺印セシメ丙號ハ現品ト共ニ請負人ニ交付シ甲號ハ神戸煉腦事務所ニ發送スヘシ

第十四條 樟腦油再製請負人ヨリ再製樟腦ノ納付ヲ申出テタルトキハ第六號書式ノ用紙甲號内譯ニ樟腦油交付斤數 交付月日及交付煉腦事務所ヲ記入シ現品ト共ニ提出シ之ニ鑑定ノ上合格ヲ認メタルモノハ秤量 計算シテ受入ノ手續ヲ爲シ乙號ヲ請負人ニ交付シ 樟腦油再製整理簿再製請負料トシテ金錢ノ仕拂ヲ要スルモノアルトキハ之レカ仕拂ヲ爲シ賠償金ヲ徴收スヘキ場合ニ於テハ之レカ手續ヲ爲サシメ樟腦油交付整理簿及蔵入蔵出ニ關スル帳簿ヲ整理スヘシ

第十五條 粗製樟腦ノ等級ハ上中下ノ三等トシ樟腦固有ノ色相香氣ヲ具備スルモノニシテ左ノ標準ニ依リ之ヲ定ム

第三章 鑑定

前項ニ於テ沃葉十分一規定液ト稱スルハ沃葉十二、六八六瓦ヲ沃度加里約三十瓦ト共ニ水ニ溶解シテ一リートルニ至ラシメタルモノヲ謂フ

等級別	水分及固形物容量	揮發性	色	比重
上等	百分ノ五以下	沃葉三十分一規定液ニ過クヘカラス	二十度以下	上昇温度(攝氏温度)
中等	百分ノ七以下	沃葉二十分一規定液ニ過クヘカラス	二十五度以下	
下等	百分ノ十以下	沃葉十分一規定液ニ過クヘカラス	三十度以下	

第十七條 粗製樟腦ノ鑑定ハ其ノ色相 香氣及油水分含有量ヲ查察シタル上左ノ試験ヲ行ヒテ之ヲ爲スヘシ但シ外觀ノ查察ニ依リ其ノ等級ヲ定ムルコトヲ得ヘシト認メタル場合ニ於テハ試験ヲ省略スルコトヲ得

一 可檢樟腦ノ一定量ヲ取り試験管ニ入レ酒精或ハ石油依的兒ヲ注加シ其ノ溶解ノ狀ヲ觀察スヘシ

二 可檢樟腦一瓦ヲ試験管ニ入レ強硫酸五立方センチメートルヲ注加シ其ノ著色度及上昇温度ヲ檢視スヘシ

三 可檢樟腦五瓦ヲ一定ノ刻度硝子管ニ入レ其ノ二十五立方センチメートルニ至ルマテ乾燥セル石油依的兒ヲ注加シ劇シク振盪シ二十五分間以上靜置シ管底ニ沈降スル水分及固形物ノ容量ヲ檢定スヘシ

第十八條 試驗ヲ行フ場合ニ於テ同一納付者ノ粗製糖腦ニシテ品質相類シタルモノハ各容器ロリ
 一定量ヲ取り相混合シテ可檢糖腦ト爲スヘシ

第十九條 第十七條ノ試驗成績第十五條ノ等級標準ト一致セザルトキハ左ノ例ニ依リ等級ヲ區別
 スヘシ但レ異色(灰色、褐色、暗灰色等)ヲ呈スルモノハ中等以上ノ試驗成績ヲ示スモノ之ヲ下等ト
 スヘシ

一 水分及固形夾雜物容量ニ於テ上等品タルコトヲ示スモ硫酸反應ニ於テ中等品以下タルコト
 ヲ示ス場合若ハ硫酸反應ニ於テ上等品タルコトヲ示スモ水分及固形夾雜物容量ニ於テ中等
 品以下タルコトヲ示ス場合ハ之ヲ中等品トスヘシ

二 水分及固形夾雜物容量ニ於テ中等品タルコトヲ示スモ硫酸反應ニ於テ下等品タルコトヲ示
 ス場合若ハ硫酸反應ニ於テ中等品タルコトヲ示スモ水分及固形夾雜物容量ニ於テ下等品ト
 ルコトヲ示ス場合ハ之ヲ下等品トスヘシ

第二十條 粗製糖腦中ニ著シク泥土、細砂、塵芥等ノ夾雜シ又ハ粗製糖腦カ施行細則第十五條第一
 項各號ノ一ニ該管スルコトヲ發見シタルトキハ納付者ヲ更ニ相當ノ處理ヲ爲サシムヘシ

第二十一條 糖腦油ノ鑑定ハ左ニ定ムル試驗ヲ行ヒ之ヲ爲スヘシ

一 各容器毎ニ「レバット」ヲ挿入シテ其ノ色相、香氣及水分ノ有無ヲ查察スヘシ

二 前項ノ查察ヲ終リタルトキハ「レバット」ヲ以テ其ノ比重ヲ檢定スヘシ

三 第二項ノ查察ニ於テ異狀ヲ認メタルトキ又ハ第二項ノ檢定ニ於テ其ノ比重〇・九四以下ナ
 ルトキハ更ニ製糖場ヲ施行細則第十五條第二項各號ノ一ニ該管スルトキハ納付者ヲ更ニ
 相當ノ處理ヲ爲サシムヘシ

第二十二條 糖腦油ニシテ施行細則第十五條第二項各號ノ一ニ該管スルトキハ納付者ヲ更ニ
 相當ノ處理ヲ爲サシムヘシ

第二十三條 粗製糖腦又ハ糖腦油ノ再鑑定ヲ求メタル者アルトキハ二人以上ノ技術官吏ヲシテ第

十七條又ハ第二十一條ニ依リ更ニ試驗ヲ行ハシメ第七號書式ノ鑑定書ヲ作成シ乙號ハ之ヲ再鑑
 定申立人ニ交付スヘシ

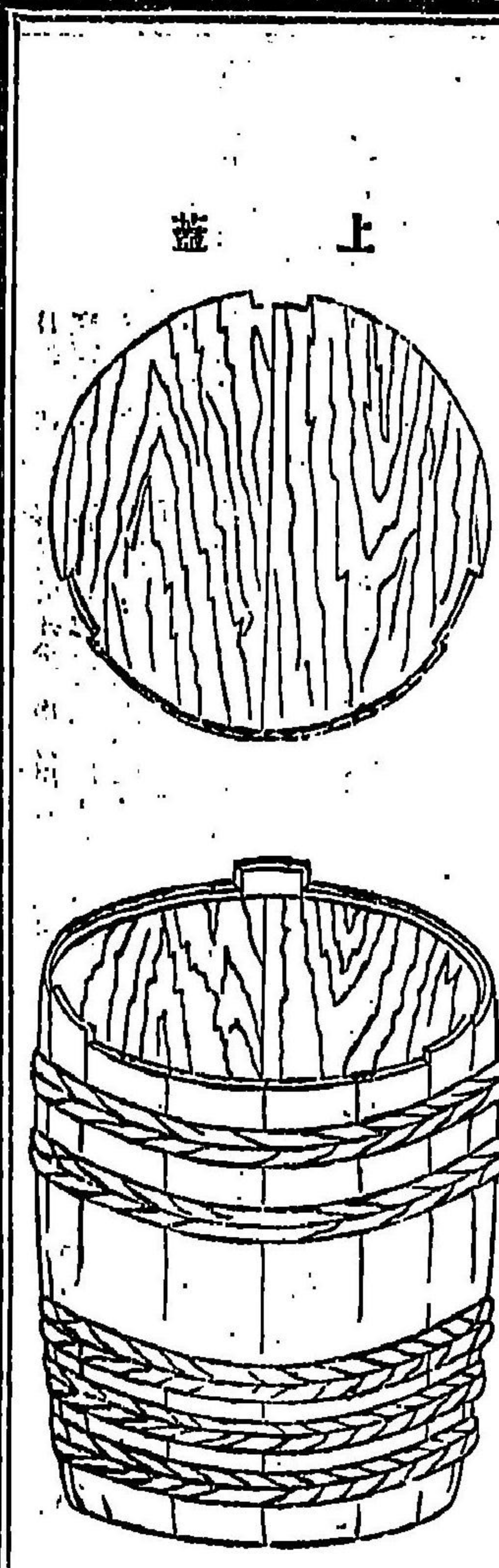
再鑑定ノ申立人ニハ前項試驗ニ立會スルコトヲ得ル旨ヲ告ケ請求アルトキハ之ヲシテ試驗ニ立
 會セシムヘシ

第四章 荷造

第二十四條 收納シタル粗製糖腦及糖腦油ハ收納年度ヲ區別シ之ヲ倉庫ニ收容スヘシ但レ粗製糖
 腦ハ各等級毎ニ區別スルコトヲ要ス

第二十五條 收納シタル粗製糖腦ハ定量容器ニ容レタル儘倉庫内適當ノ場所ニ置キ受入命令アリ
 マルトキハ等級別ニ檢糖場ニ移シ糖腦ト爲シタル後倉庫内貯藏ニ充テタル場所ニ搬置スヘシ

第二十六條 粗製糖腦ハ一樽凡ソ百五十斤入トシ各等級毎ニ左記離形ノ樽ニ糖腦トスヘシ但レ收
 納年度末ノ樽前總數ハ適當ノ樽ニ收ムルモノトス



明治三十六年九月 勅令 大藏省第三十七號 糖類取締法施行規則 三三三

口徑内法 一尺八寸三分 中置厚正 六分 仕 一材上蓋ハ松共ノ他ハ杉任上蓋ノコト
 底徑内法 一尺六寸三分 底置厚正 八分 一竹輪厚キニ本ツ、五箇所十水トス
 深 一尺七寸七分 側板厚正 四分
 上蓋厚正 五分 竹輪徑 六分 機

第二十七條 樽詰ヲ爲スニハ一樽ノ量ヲ適宜數同ニ樽詰メテ全樽ニ充實セシメ上蓋ノ上面ニハ左記第一號様式ニ依リ樽詰シタル年月日ヲ付シ側面ニハ左記第二號様式ノ記標及番號ヲ付スヘシ但シ記標ハ各邊ヲ五寸トシ上等青色、中等赤色、下等黒色ト爲スモノトス

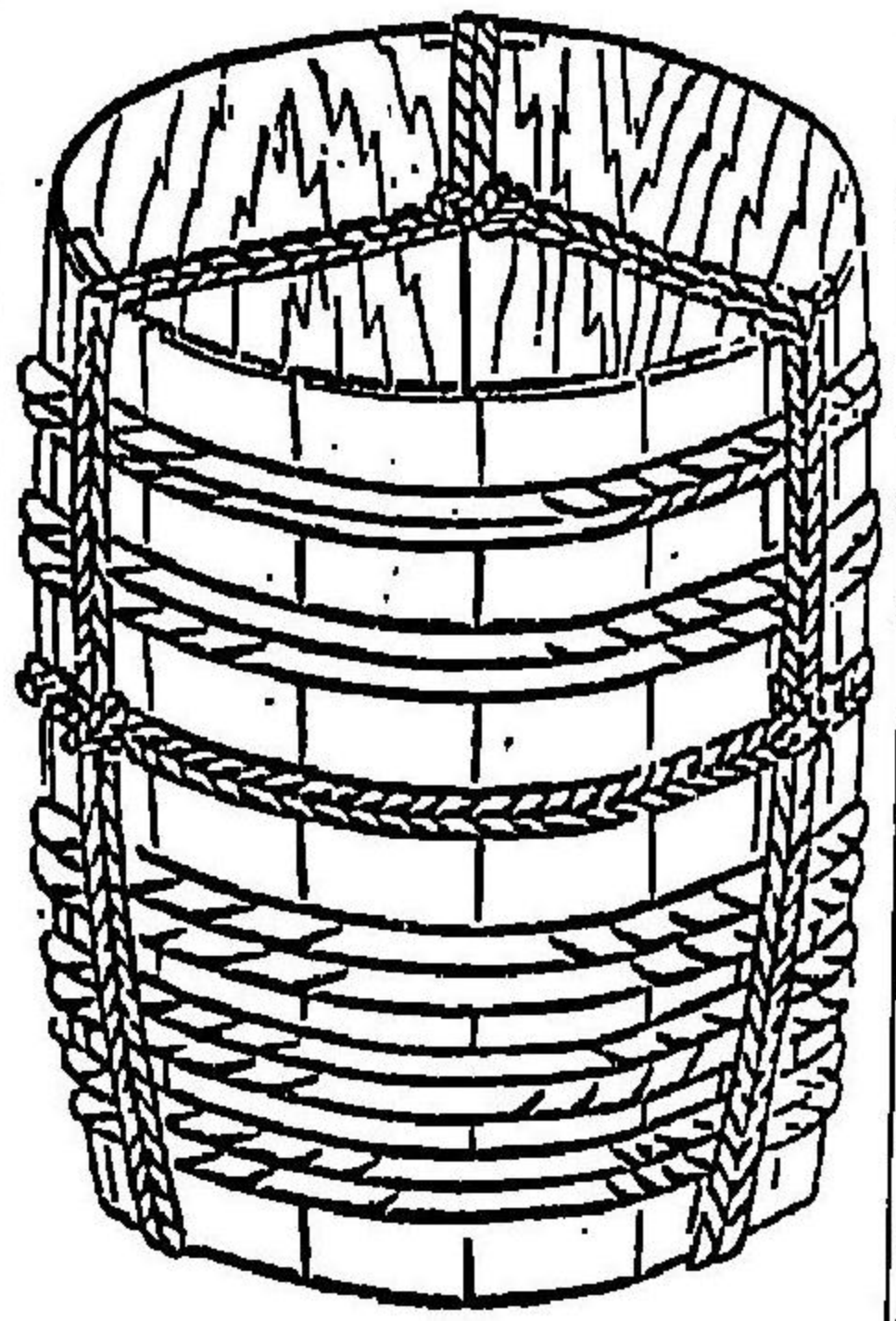
第一號 15/12/36

第二號



第二十八條 第二十六條但書ノ場合ニ於テハ適宜ノ場所ニ斤數及某收納年度未ノ樽詰總數ナルコトヲ記標スヘシ

第二十九條 粗製樟腦ヲ回送セントスルトキハ樽詰シタル斤數ノ減量有無ヲ檢シ減量アリタルトキハ之ヲ補足シ蓋ノ箱ノ口ハ美濃紙及厚洋紙ヲ以テ密封シ蓋ノ三方ヲ釘付シ外側ハ麻繩ヲ以テ左記様式ニ依リ三稜形ニ纏束シ回送請負人ニ引渡スヘシ



第三十條 一旦使用シタル粗製樟腦樽ヲ再ヒ用井ルトキハ既ニ施シタル記標番號及荷造年月日ハ適宜ノ方法ヲ以テ之ヲ抹消スヘシ

第三十一條 收納シタル樟腦油ハ定量容器ニ容レタル儘倉庫内適當ノ場所ニ置キ受入命令アリタルトキハ油槽若ハ石油罐大ノ鐵蓋罐ニ移シ倉庫内貯藏ニ充テタル場所ニ設置スヘシ

第三十二條 樟腦油ハ神戸樟腦事務局ニ在テハ正味若ハ適宜ノ容器ニ收メ交付シ共ノ他ノ樟腦事務局ニ在テハ石油罐大ノ鐵蓋罐ニ收メ二罐ツ、木製外函ニ容レ之ヲ再製請負人ニ交付スヘシ木製外函ニハ第二十七條ニ定メタルモノト同一ノ黒色記標ヲ付スヘシ

第三十三條 樟腦油ノ交付ヲ了リタルトキハ再製請負人ニ對シ荷造場所ヲ指定シ且之ヲ監督シ及監督上必要ナル所置ヲ爲シ其荷造ヲ了レタルトキハ檢査ヲ爲スヘシ

第三十四條 前條荷造トシテ樽口ヲ回蓋セシメ外函ニ釘付シ結繩スルヲ開フ

第五章 回送

第三十五條 糧食ノ回送ハ豫メ請負人ヲ定メ之ニ委託シ回送ヲ要スル時ニ之ヲ回送請負人ニ引渡
スルヘシ
第三十六條 回送請負人ハ身元確實ニシテ經驗アル者ニ命ジ且直接國稅十圓以上ヲ納ムル者二人以
上ノ保證人ヲ立テシムヘシ
第三十七條 回送請負人ニ糧食ヲ引渡ストキ及回送請負人ヨリ糧食ノ引渡ヲ受ケルトキハ主任官
其立會スヘシ

第三十八條 回送ノ爲メ粗製糠腦ヲ回送請負人ニ引渡シタルトキハ回送請負人ヨリ第八號書式ノ
用紙成號ニ到着豫定期日及送り方法ヲ記入シ捺印セシムル上ヨリ成號ヲ之ニ交付シ回送品ト共ニ
遞送セシムル之ト同時ニ乙號丙號丁號ヲ神戶糧食事務局ニ送付スヘシ

第三十九條 回送シタル粗製糠腦神戶糧食事務局ニ到着シタルトキハ回送請負人ヨリ第八號書式
ノ用紙成號ヲ提出セシムル之ヲ乙號ト照合シ上回送品ノ検査ヲ行ヒ受入ノ手續ヲ爲シ丁號ヲ回送
請負人ニ交付シ丙號ヲ回送元糧食事務局ニ送付スヘシ

第四十條 回送ヲ了レタルトキハ回送請負人ヨリ回送元糧食事務局ニ第八號書式ノ用紙丁號ヲ
提出セシムル之ヲ引換ニ成號ヲ回送請負人ニ還付スヘシ

第四十一條 粗製糠腦ヲ回送請負人ニ引渡シタルトキハ回送元糧食事務局ハ粗製糠腦回送整理簿
ニ排出ノ記帳ヲ爲シ保管轉換領收書ヲ受領シタルトキハ神戶糧食事務局ニ於テ領收ノ登記ヲ爲
セシムルヲ以テ粗製糠腦出納簿ニ排出ノ登記ヲ爲シ且粗製糠腦回送整理簿ノ整理ヲ爲スヘシ

第四十二條 粗製糠腦保管轉換領收書ヲ受ケタルトキハ神戶糧食事務局ハ粗製糠腦回送整理簿ニ
記帳シ現品ノ引渡ヲ受ケタルトキ更ニ同簿ノ整理ヲ爲シ且粗製糠腦出納簿ニ登記スヘシ

第四十三條 一回ニ回送請負人ニ引渡シタル粗製糠腦ハ一回以上ニ分送スルコトヲ得サラムヘシ
第四十四條 回送請負人ニ粗製糠腦ヲ引渡シタル後神戶糧食事務局ニ於テ之レカ引取ヲ了スルマ
テノ間ニ於テ生シタル粗製糠腦ノ亡失又ハ容器ノ毀損ニ付テハ回送請負人ヲシテ之レカ責ニ任
セシムルヘシ但シ不可抗力ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第六章 賣渡

第四十五條 粗製糠腦再製糠腦ノ賣渡ヲ請求スルモノアルトキハ第九號書式ノ用紙ヲ請求人ニ
交付シ賣渡請求品種類斤數及請求人ノ住所氏名ヲ記入捺印ノ上提出セシメ賣渡代金及賣渡年
月日ヲ請求書相附欄ニ記入スヘシ

第四十六條 前條ノ記入ヲ爲シタルトキハ局長ノ決裁ヲ得テ之ニ歳入調定年月日ヲ記入シ納入告
知書ヲ賣渡請求人ニ交付シ賣渡請求書ハ之ヲ物品會計官吏ニ送付スヘシ

第四十七條 賣渡請求人現品ノ引渡ヲ請求シタルトキハ金庫ヨリ交付シタル賣渡代金領收證ヲ呈
示セシメ賣渡請求書ニ歳入調定年月日ヲ記入シ排出命令ヲ得テ賣渡請求書ニ領收ノ證印ヲ爲サレ
シ引渡年月日ヲ記入シ引渡ノ手續ヲ爲スヘシ

第四十八條 神戶糧食事務局ニ於テ臺灣總督府專賣局神戶支局ハ粗製糠腦再製糠腦ヲ賣渡シタ
ルトキハ第十號書式ノ用紙乙號丙號ヲ該支局ニ送付シ該支局ヨリ丙號ノ回付ヲ受ケ賣渡ノ手
續ヲ了スヘシ

第四十九條 第四十七條及第四十八條ニ依リ排出ヲ了シタルトキハ粗製糠腦出納簿 糧食賣渡及
調理整理簿及再製糠腦出納簿其ノ他關係帳簿ヲ整理スヘシ

第五十條 臺灣總督府專賣局神戶支局ニ賣渡シタル粗製糠腦再製糠腦ノ代金ハ神戶支局ニ於
テ賣渡シタル一箇月分ヲ取盡シ翌月十日マテニ納入告知書ヲ發シ同月中ニ共ノ代金ノ拂込ヲ完了

第七章 雜則

第五十一條 粗製樟腦、樟腦油及再製樟腦ノ出納ニ關スル現況ハ別紙第十一號乃至第十六號書式ニ依リ調製ノ第十五號表ハ四月二十日限り第十六號表ハ日々共、他ハ各翌月五日限り當省ニ送付スヘシ

第五十二條 第十一條、第十四條、第四十一條及第四十九條ノ帳簿ハ別紙第十七號乃至第二十四號書式ニ依リ調製スヘシ

第五十三條 本則ニ定メタルモノノ外輸入及物品ノ出納ニ關スル取扱方ハ輸入ニ在テハ諸收入及出ニ在テハ内國稅徵收費粗製樟腦、樟腦油、再製樟腦共ノ他物品ノ出納ニ關シテハ内國稅徵收費所屬物品ノ取扱例ニ依ルヘシ

(別紙)

第一號書式

甲 號 六寸五分橫四寸五分 丙 號 六寸五分橫四寸 寸法ハ輪廓ヲ云フ以下效之

粗製樟腦、樟腦油製造許可通知書		何樟腦事務局何出張所	
製造人住所	製造人氏名又ハ名稱	製造場位置	廠數
何縣何郡何町村何番地	何ノ	何縣何郡何町村大字何ノ番地	何箇

乙

粗製樟腦油製造許可願書		何樟腦事務局何出張所	
製造人住所	製造人氏名又ハ名稱	製造場位置	廠數
何縣何郡何町村何番地	何ノ	何縣何郡何町村大字何ノ番地	何箇

丙

粗製樟腦油製造許可願指令書

製造人住所 何縣何郡何町村何番地

製造人氏名又ハ名稱 何ノ

製造場位置 何縣何郡何町村大字何ノ番地

廠數 何箇

製造着手時期 明治何年何月何日

製造見込量目

右製造許可願書(又ハ願書)ニハ(四)同(五)ニ

明治何年何月何日

何樟腦事務局何出張所 圖

(又ハ何樟腦事務局)

何々願書		何種事務局何出張所 (又)何種事務局
出願事項		
出願日付	明治何年何月何日	
出願者住所氏名印	何縣何郡何町何番地何ノ誰	
許可日付	明治何年何月何日	
何々願指令書		
出願事項		何種事務局何出張所 (又)何種事務局
出願日付	明治何年何月何日	
出願者住所氏名	何縣何郡何町何番地何ノ誰	
許可及日付	右何々願許可ス(認可ス)附屬々繼々 明治何年何月何日	
何々願許可通知書		
出願事項		何種事務局何出張所 (又)何種事務局

第三號書式

何々願許可通知書		何種事務局何出張所 (又)何種事務局
出願者住所氏名	何縣何郡何町何番地何ノ誰	
許可日付	明治何年何月何日	
何小林區署御中		
甲 縦六寸横四寸 乙 縦六寸横四寸		
何々届		
出願事項		何種事務局何出張所 (又)何種事務局
出願日付	明治何年何月何日	
出願者住所氏名印	何縣何郡何町何番地何ノ誰	
何々届通知書		
出願事項		何種事務局何出張所 (又)何種事務局
出願日付	明治何年何月何日	
出願者住所氏名	何縣何郡何町何番地何ノ誰	

再製樟腦納付書

交付日付	明治何年何月何日
交付斤數	何斤
榎屋再製納付人 代理人 鈴木商店 印	

丙

交付日付	明治何年何月何日
交付斤數	何斤

何榎屋事務局印

第六號書式

甲 號 五寸五分橫五寸
乙 號 五寸五分橫五寸

甲

再製樟腦納付書	何斤
此交付受タル榎屋油	何斤
內 贈	何斤
右納付價也	何斤

再製樟腦納付書	何斤
神戶榎屋事務局	何斤

何榎屋事務局交付
何榎屋事務局交付
再製納付人 氏 名 印

任仕開始日	任仕終了日
何年何月何日	何年何月何日

乙

再製樟腦領收證	神戶榎屋事務局
---------	---------

一 再製樟腦 何斤
此交付榎屋油 何斤
明治何年何月何日領收
物品會計官吏 官 氏 名 印
(再製樟腦納付制限超過(又ハ不足) 何斤)
(此榎屋油再製納付料(又ハ賠償金) 何斤)

第七號書式

甲 號 七寸五分橫四寸 乙 號 七寸五分橫六寸五分

甲

粗製樟腦斤數	樟腦油斤數	產 地	製造人名

武藏成城表

品名	查察成數	硫酸反應	水分及同形炭素物	色相比重	測定結果
粗製樟腦		著色	水分及同形炭素物		
樟腦油					
局長	明治何年何月何日 鑑定主任				

乙

粗製樟腦樟腦油鑑定書

粗製樟腦斤數	樟腦油斤數	產地	製造人名
試驗成績表			
品名	查察成數	硫酸反應	水分及同形炭素物
粗製樟腦		著色	水分及同形炭素物
樟腦油			
明治何年何月何日 鑑定人官名氏 名			
右鑑定ノ捺印ス			
明治何年何月何日 印			
何樟腦事務局局長氏 名			

第八號書式

甲 縦七寸 乙 横四寸 丙 縦七寸 丁 横四寸 戊 縦七寸 己 横四寸 庚 縦七寸 辛 横四寸 壬 縦七寸 癸 横四寸

抽出命令	明治何年何月何日	何樟腦事務局
同送	明治何年何月何日	
收納年度	明治何年何月何日	
保管監督號	第何號	
物品出納簿登記簿	明治何年何月何日	
上等	斤數	何
中等	斤數	何
下等	斤數	何

乙

粗製樟腦保管轉換引繼書

同送	明治何年何月何日	受入命令	明治何年何月何日
收納年度	明治何年何月何日	物品出納簿登記簿	明治何年何月何日
上等	斤數	受入斤數	何
中等	斤數		何
下等	斤數	同送減量	何

(丙)

粗製樟腦保管轉換領收書											
回送元物品會計官					神戶樟腦事務局物品會計官						
官 氏 名 同					官 氏 名 同						
受納年度 明治何年何月何日					送 入 明治何年何月何日						
上等		中等		下等		上等		中等		下等	
斤數	何	斤數	何	斤數	何	斤數	何	斤數	何	斤數	何
受入斤數						回送斤數					

(丁)

粗製樟腦受領證				神戶樟腦事務局 印			
回送元	何	樽	何	回送元	何	樽	何
引渡	明治何年何月何日	何	何	引渡	明治何年何月何日	何	何
受領	明治何年何月何日	何	何	受領	明治何年何月何日	何	何

(戊)

粗製樟腦保管證				何 某 印			
引渡	明治何年何月何日	何	何	引渡	明治何年何月何日	何	何
回送元	何	樽	何	回送元	何	樽	何
送り方	汽船	何	何	送り方	汽船	何	何

(己)

粗製樟腦回送券				何々樟腦事務局 印			
引渡	明治何年何月何日	何	何	引渡	明治何年何月何日	何	何
回送元	何	樽	何	回送元	何	樽	何
送り方	汽船	何	何	送り方	汽船	何	何

己號
 一本券ハ壹樽官更ニ於テ開覽セントスルトキハ回送人ニ於テ之ヲ提示ス
 一本券ハ回送人ニ於テ開覽ト共ニ神戶樟腦事務局ニ提出ス

第九號書式

明治三十六年九月 訓令 大藏省第三十七號 檫腦事務局長事務取扱手続

明治何年何月 第十二號書式 檫腦油出納月計表						
備考	摘要	收納	雜受入	交付	減耗	倉庫現在
表四	本月分 前月迄累計 果計	月	月	月	月	月
		月	月	月	月	月
			明治何年何月何日	何日	何日	務局長
			大藏大臣宛	區宛		

三四九

明治三十六年九月 訓令 大藏省第三十七號 檫腦事務局長事務取扱手続

明治何年何月 第十一號書式 粗製檫腦油出納月計表							
備考	摘要	收納	雜受入	交付	減耗	倉庫現在	備考
表四	本月分 前月迄累計 果計	上中下計					
		上中下計					
			明治何年何月何日	何日	何日	務局長	
			大藏大臣宛	區宛			

三四八

明治三十六年九月 訓令 大藏省第三十七號 榎腦事務局長取扱手帳

年四月一日				明治何年何月				
榎腦油製造現在表				榎腦油交付高及再製榎腦油				
噸數	榎腦製造 見込量目	榎腦油製造 見込量目	備考	摘要	再製榎腦 納付高		再製榎腦納付高 超過 不足	
					超過	不足	超過	不足
				本月分				
				前月迄累計				
年何月	何日			明治何	年何	月何		
何標	榎事務	局長印			神戶	榎腦		
大藏大臣	宛			大藏大臣	宛			

明治三十六年九月 訓令 大藏省第三十七號 榎腦事務局長取扱手帳

明治何年何月					
第十三號書式 再製榎腦出納月計表					
摘要	受入	支出	減額	備考	倉庫現在
本月分					
前月迄累計					
日				明治何	年何月
事務局長印				何標	事務局長
				大藏大臣	宛

明治三十六年九月 附令 大藏省第三十七號 酒類稅務局事務取扱手続

明治何 粗製樟腦及 第十五號書式		
摘要	製造人員	製造場数
		明治何 大

第十六號書式

(郵便簡書ヲ用非當者主稅務局宛ト爲スヘシ)

再製樟腦 樟腦油	粗製樟腦			收 納 費 波 交回 付送 現 在
	下	中	上	
明治何年何月何日				
何樟腦事務所				

第十七號書式

帳 臺 付 納

製造場 位 置	製造場 番 号	納付 月 日	粗製樟腦				樟腦油	別價金額	備 考
			上	中	下	計			

一 他ノ事務局内ノ者ヨリ納付シタルモノ、他事務局ヘ納付シタルモノハ各別ニ口達ヲ設ケルモノトス
二 出張所ニ在リテ此ノ帳簿ヲ備フヘシ

明治三十六年九月 附令 大藏省第三十七號 酒類稅務局事務取扱手続

明治三十六年九月 訓令 大藏省第三十七號 樞密院事務局事務取扱手續

三五三

第十九號書式

明治何年度

樟腦油出納簿

何々樟腦事務局

上

年月日	摘要	受	
		收納	回送受
何 何 何 何	何 何 何 何	斤 200	斤 1,000
	何月分計	200	1,000

一 本簿ハ粗製樟腦ノ品位別及合計ノ口座ヲ取
二 本簿ニハ月計ヲ付スヘシ

等

第十八號書式

明治何年度

粗製樟腦出納簿

何々樟腦事務局

波渡	回送柳	減耗	残
			斤
斤 800	斤 500	斤 50	斤 1,200
800	500	50	900
800	500	50	850

明治三十六年九月 訓令 大藏省第三十七號 樞密院事務局事務取扱手續

三五四

明治三十七年九月 勅令 大藏省第三十七號 豫備費部事務取扱手帳

年月日	摘要	受	拂		残
			賣渡	減耗	
何	納付書 第何號	円 1,500			円 1,500
何	同 第何號	2,000			3,500
何	同 第何號	1,000			4,500
何	領收書 第何號		3,000		
何	同 第何號			100	1,400
	何月分計	4,500	3,000	100	
	備考 一本簿ニハ月計ヲ付スヘシ				

明治何

再製樟腦

神戸樟腦

三五六

第二十號様式

年月日	摘要	受		拂		残
		収納	雜部	交付	減耗	
何	納付書 第何號	500				500
何	同 第何號		50			550
何	領收書 第何號			550		0
	何月分計	500	50	550	0	
	備考 一本簿ニハ月計ヲ付スヘシ					

年度

出納簿

事務局

明治三十七年九月 勅令 大藏省第三十七號 豫備費部事務取扱手帳

三五六

明治三十六年九月 訓令 大藏省第三十七號 櫻腦事務局長事務取扱手續

三五九

第二十一號書式乙		何 局															
粗製樟腦回送整理簿		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th rowspan="2">何月何日</th> <th rowspan="2">摘 要</th> <th colspan="2">引継案内高</th> </tr> <tr> <th>仕出高</th> <th>数量</th> </tr> <tr> <td>何月何日</td> <td>取付書 数量</td> <td>何月何日</td> <td>1,000</td> </tr> <tr> <td>何月何日</td> <td>受入合金 数量</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>		何月何日	摘 要	引継案内高		仕出高	数量	何月何日	取付書 数量	何月何日	1,000	何月何日	受入合金 数量		
何月何日	摘 要	引継案内高															
		仕出高	数量														
何月何日	取付書 数量	何月何日	1,000														
何月何日	受入合金 数量																
排 出 ノ 部		<p style="font-size: small;">備考 一本簿ハ事務局長ニ品位別ノ口座ヲ設ケ 末尾ニ合 計品位別及總計ノ口座ヲ設ケヘレ</p>															
何々樟腦事務局																	

上等		第二十一號書式甲																		
粗製樟腦回送整理簿		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th rowspan="2">受入高</th> <th rowspan="2">仕出高</th> <th colspan="2">受入取附高</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>数量</th> <th>数量</th> </tr> <tr> <td>何月何日</td> <td>1,000</td> <td>0</td> <td>1,000</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0</td> <td></td> </tr> </table>		受入高	仕出高	受入取附高		備考	数量	数量	何月何日	1,000	0	1,000					0	
受入高	仕出高	受入取附高				備考														
		数量	数量																	
何月何日	1,000	0	1,000																	
			0																	
受 入 ノ 部		神戶樟腦事務局																		

明治三十六年九月 訓令 大藏省第三十七號 櫻腦事務局長事務取扱手續

三五八

明治三十九年九月 附令 大藏省第三十七號 神戶樟腦製造廠取扱手續

三六

年月日	摘要	再製樟腦の付高		可製樟腦の付高		備考
		実付高	計付高	実付高	計付高	
		円	円	円	円	
何	製成	何月何日 1,500				
何	何	何月何日 500				
何	何		何月何日 1,050	57		
	何月合計	2,000	1,050	57		

明治何

樟腦油再

神戸樟腦

十二號書式

上等

年月日	摘要	發送高		四邊先受人數高		四邊中受人數高		備考
		抽出月日	數量	受入月日	數量	數量	數量	
何	何	何月何日	550				550	1
何	何			何月何日	500	50	0	

製整理辨

事務局

備考
一 本港ハ粗製樟腦ノ品位別及合計ノ口座ヲ散クヘシ

明治三十九年九月 附令 大藏省第三十七號 神戶樟腦製造廠取扱手續

三六〇

明治三十六年九月 訓令 大藏省第三十七號 榎腦事務局長事務取扱手續

納付制限不足					納付	
年月日	摘要	再製樟腦納付制限不足額	賠償金額	収入額年月日	年月日	摘要
何 何	納付書 第何號	50		何月何日	何 何	納付書 第何號

三六三

明治三十六年九月 訓令 大藏省第三十七號 榎腦事務局長事務取扱手續

制限超過			第二十三號書式	
再製樟腦納付制限超過額	賠償金額	在納年月日	明治何年度	
円 57	80 21 0	何月何日	再製樟腦納付制限過不足整理簿	
神戸榎腦事務局				

三六二

明治三十六年九月 訓令 大藏省第三十七號 榎原事務局長事務取扱手続

年月日	摘要	買渡高		買渡種類	買渡減額高		買渡費 額下直取	買渡管理費	
		円	角		円	角		製造費	荷造費
何	何	100,000	85,000	買渡之類	15,000	15	78000	0600	1420
<p>備考 一本指ハ買渡レタル租額額ノ種類(上中下再製)等 ニ口坐ヲ股クヘシ</p>									

三六五

第二十四號附式

明治何年度

榎原買渡及買渡整理簿

神戸榎原事務局

買渡標額代償		備考
買渡代償	買渡代償	
61082	61,082,000	何月何日何回

明治三十六年九月 訓令 大藏省第三十七號 榎原事務局事務取扱手続

三六四

○大藏省訓令第三十八號

稅關 稅關支署

稅務監督局

○大藏省訓令第三十九號

大藏大臣男爵曾禰荒助

本年六月大藏省訓令第三十一號稅務統計臺帳調製規程第八條ニ據リ主稅局ニ提出スヘキ稅務統計臺帳帳本ハ同規程第二條本文上段ノ區分ニ從ヒ別表ノ期限ニ依リ提出スヘシ

但表中期日ヲ示ササルモノハ提出スルヲ要セス

明治三十六年九月二十五日

大藏大臣男爵曾禰荒助

(別表)

稅務統計臺帳帳本提出期限表

表

第一	管區表	提出期限
第二	直接稅負擔額表	異動ノ時々
第三	會社數表	翌年度十月末
第四	有租地表	翌年二月末日
第五	免租地表	
第六	年期地表	
第七	變換地表	
第八	改良地表	
第九	遊理地表	
第十	地租增減表	翌年九月末日

第一	地租納額別人員表	其年三月末日
第二	收穫皆無地免租表	區分終了後二箇月以内
第三	收穫皆無地地租年賦延納額表	同
第四	地價最高最低調査表	其年二月末日
第五	土地取扱筆數表	翌年四月末日
第六	土地買賣價格表	翌年二月末日
第七	土地貸賃價格表	同
第八	登錄稅表	
第九	所得稅表	
第十	第三種所得種類別表	其年十一月末日
第十一	第三種所得調査決定額表	翌年五月末日
第十二	第一種第三種所得審查決定額表	同
第十三	第一種第三種所得更定額表	同
第十四	第一種第三種所得稅納額別人員表	第一種翌年五月末日 第三種其年九月十五日
第十五	營業稅表	翌年五月末日
第十六	營業稅審查決定額表	同
第十七	營業稅訴訟訴訟ニ依ル決定額表	同
第十八	營業稅法第二十九條ニ依ル更定額表	同
第十九	營業稅納額別人員表	其年五月末日
第二十	酒造稅表	
第二十一	含有酒精容量度級別酒類査定石高表	翌年度年度十一月末日
第二十二	含有酒精容量度級別燒酎査定石高表	同
第二十三	酒造免許場數造石高區分表	同

第三四	十月一日現在持越酒類石高表	其前年度七月末日
第三五	酒造納稅保證種別表	
第三六	酒造稅免除表	
第三七	酒母醱製造表	
第三八	清酒步合表	
第三九	燗酎步合表	其前年度十月末日
第四〇	酒精及酒精含有飲料稅表	
第四一	酒精及酒精含有飲料稅免除表	
第四二	麥酒稅表	
第四三	麥酒稅免除表	
第四四	三月一日現在持越酒精、酒精含有飲料、麥酒石高表	
第四五	醫藥用工業用酒精戻稅表	
第四六	甘蔗糖付段別及收穫高表	翌年三月末日
第四七	砂糖製造人員場數表	
第四八	砂糖査定高表	
第四九	砂糖消費稅徵收區分表	翌年度五月末日
第五〇	砂糖消費稅擔保種別表	
第五一	輸入原料砂糖戻稅表	
第五二	醬油稅表	
第五三	醬油稅免除表	
第五四	醬油製造營業免許場數造石高區分表	翌年三月末日
第五五	一月一日現在持越醬油石高表	其前年度二月末日
第五六	醬油步合表	

第五七	自家用醬油稅表	
第五八	賣藥稅表	翌年度五月末日
第五九	鐵業稅表	
第六〇	取引所稅表	
第六一	骨牌稅表	
第六二	骨牌稅免除表	
第六三	骨牌製造免許料分納擔保種別表	翌年二月末日
第六四	稅印押捺表	
第六五	租稅賦課及測定額表	翌年度九月末日
第六六	國稅徵收表	同
第六七	國稅納期別收入步合表	翌年度五月末日
第六八	租稅外諸收入表	翌年度九月末日
第六九	國稅滯納表	同
第七〇	直接國稅犯則者表	翌年二月末日
第七一	間接國稅犯則者表	同
第七二	間接國稅犯則行為別人員表	同
第七三	印紙賣下高及賣捌人員表	
第七四	物價表	
第七五	內國稅徵收費現計額表	
第七六	內國稅徵收費稅別表	

稅務監督局

○大藏省訓令第四十號
明治三十二年八月大藏省訓令第六十號租稅現況報告表樣式中左ノ通改正シ明治三十四年十一月大藏省

逓第一六四九號ヲ廢止ス

明治三十六年九月二十五日

大藏大臣 齋藤實 勅

- 第七號 酒類製造場敷及見込石高表中左ノ備考ヲ追加ス
 - 六 毎酒造年度十月一日分ニ在テハ各酒別毎二前年度九月末日現在人員數及前年度中ノ無免許人員ヲ備考ニ掲記スルモノトス
- 第八號 酒類査定高表中左ノ備考ヲ改正追加ス
 - 四 毎年十月分ニ在テハ前年度ヨリノ持越石取ヲ自製ト移入トニ區別シ且前年度持越高ニ對スル増減事由ヲ備考ニ掲記スルモノトス但シ燒酎ニ在テハ甘酒燒酎ト普通燒酎トニ區分スルヲ要ス
 - 五 毎年九月分ニ在テハ前年度中ト本年度中トノ規定石數及造石稅免除石數増減事由ヲ備考ニ掲記スルモノトス
- 第九號 酒類造石稅納稅保額種別表ヲ刪ル
- 第十號 清酒歩合表中左ノ備考ヲ追加ス
 - 四 前酒造年度分ニ對比シ其ノ増減事由ヲ備考ニ掲記スルモノトス
- 第十一號 酒母釀造場敷及見込石高表中左ノ備考ヲ追加ス
 - 三 前酒造年度九月末日現在免許人員、製造場敷並同年度中ノ検査石高及前年度ニ對スル検査石高増減事由ヲ備考ニ掲記スルモノトス但シ二種ヲ兼造スルモノハ人員數數ヲ主タル一方ニ盛書シ他ハ失書スルモノトス
- 第十二號 酒精及酒精含有飲料製造人員及場敷表中左ノ備考ヲ追加ス
 - 四 毎年七月一日分ニ在テハ其年二月末日現在ノ免許人員製造場敷及酒精ト酒精含有飲料トニ區分シ備考ニ掲記スルモノトス
- 第十三號 酒精及酒精含有飲料査定石高表中左ノ備考ヲ改正追加ス
 - 三 毎年二月分ニ在テハ前年三月一日ヨリ其年二月末日ニ至ル査定石數及造石稅免除石數ヲ前々年三月一日ヨリ前年二月末日ニ至ル査定石數及造石稅免除石數ニ對比シ其増減事由ヲ備考ニ掲記スルモノトス
 - 四 毎年三月分ニ在テハ前月ヨリ持越ニ係ル自製及移入石數並前年三月分ニ對スル持越石高増減ノ事由及前年三月一日ヨリ其ノ年二月末日ニ至ル無免許製造人員査定石數ヲ備考ニ掲記スヘシ但シ査定石數ハ二十一度以下ノモノニ二十一度ヲ越スルモノトニ區分シ仍二十一度ヲ越スルモノニテアリテハ酒精總高數ヲ備考ニ掲記スヘシ
- 第十四號 醫藥用工業用酒精使用高表中左ノ備考ヲ追加ス

- 三 毎年四月分ニ在テハ備考ニ醫藥用工業用トノ各用途別毎ニ區分シタル左ノ事項ヲ掲記スルモノトス
 - (一) 前會計年度中ニ於ケル使用人員數
 - (二) 前會計年度中ニ於ケル使用人員
- 但同一人ニシテ數回ニ戻稅ヲ受クルモノ一人トシテ計算スルモノニシテ造石稅ヲ課セラレタルモノト輸入稅ヲ課セラレタルモノトヲ併用シ又ハ數種ノ用途ニ使用セル場合ハ主タル一方ニ盛書シ他ハ失書スルモノトス
- 第十五號 醬油製造場敷及見込石高表中左ノ通り改正ス
 - 摘要欄溜「トアル」ヲ「生引溜」兼引溜「ト改」
 - 備考第一號ノ五月ヲ七月ニ改メ及九月末日ヲ削リ第五號ヲ左ノ通り改正ス
 - 五 毎年二月末日分ニ在テハ左ノ事項ヲ備考ニ掲記スルモノトス
 - (一) 前年十二月末日現在免許人員及製造場敷
 - (二) 前年十二月末日現在稅則第一條第二項條當者人員
 - (三) 前年十二月末日現在稅則第二條本文ニ依ルモノト但書ニ依ルモノト區分ヲ要ス
- 第十六號 醬油査定石高表中左ノ通り改正ス
 - 摘要欄溜「トアル」ヲ「生引溜」兼引溜「ト改」
 - 備考第六、第七ヲ追加ス
 - 六 毎年十二月分ニ在テハ其年中ニ於ケル無免許製造人員、査定石數(自製用醬油製造場敷八條ニ依リ算出シタルモノ)ヲ各種別毎ニ稅則第二條本文ニ盛書シモノト但書ニ盛書シモノトニ區分シ備考ニ掲記スルモノトス
 - 七 毎年十二月分ニ在テハ其年中ノ査定石數及免稅石數ヲ前年分ニ對比シ其増減事由ヲ備考ニ掲記スルモノトス
- 第十七號 自家用醬油製造人員表中左ノ備考ヲ追加ス
 - 二 毎年一月一日分ニ在テハ前年十二月末日現在人員ヲ又七月一日分ニ在テハ前會計年度中ニ於ケル賦課稅額通計ヲ何レモ各種別毎ニ備考ニ掲記スルモノトス
- 第十八號 醬油歩合表中左ノ備考ヲ追加ス
 - 二 前年分ニ對比シ其ノ増減事由ヲ備考ニ掲記スルモノトス
- 第十九號 印紙賣下高表ヲ刪ル

第十九號 賣藥貼用印紙高表中左ノ備考ヲ追加ス

三 毎年度後期分ニ在テハ全年度中ノ營業稅賦課額通計及四月一日現在ノ購買人員並前年度ニ對スル賦課額及其年度中ニ於ケル貼用印紙高増減ノ事由ヲ備考ニ掲記スルモノトス但シ營業ト購買トヲ兼タル場合ニ於テハ各一人トシテ掲記スルモノトス

第十九號ノ三 營業稅額表ヲ刪ル

第十九號ノ四 取引所稅額表中左ノ通改正ス

何年何期トアルヲ何年度前(後)期ト改ム

備考ヲ左ノ通改正ス

一 米表ハ一年度ヲ二期ニ分テ四月ヨリ九月マテヲ前期トシ十月ヨリ三月マテヲ後期トシ前期分ハ十月二十日マテニ後期分ハ翌年度四月二十日マテニ送付スルモノトス

二 取引所稅額表前期分ハ四月二日現在後期分ハ十月一日現在ニ依リ主タル一方ニ屬シ他ハ未納スルモノトス但シ前期分備考ニ二月末日現在ヲモ掲記スヘシ

三 賣買約定代金及税額ハ其ノ期中賦課ニ係ルモノヲ掲記スルモノトス
四 毎年度後期分ニ在テハ全期間ニ於ケル賣買約定代金ヲ前全期間分ニ對比シ其増減事由ヲ備考ニ掲記スルモノトス

第二十一號 物價表中左ノ通り追加ス

摘要欄黒砂糖ノ下ニ「白下」糖水ノ下ニ「甘蔗」ヲ單位稱呼ノ欄「白下」ニ「百斤」甘蔗ニ「百貫」ヲ各追加ス

第二十二號 間接國稅犯則者處分表ヲ刪ル

第二十四號 麥酒製造人員及場數表中表目及備考ヲ左ノ通改正追加ス

表目及備考中「一月一日」トアルヲ「七月一日」ニ改ム

第二十五號 麥酒査定石高表中左ノ備考ヲ追加ス

三 其年二月末日現在免許人員製造場數ヲ備考ニ掲記スルモノトス
四 其年二月分ニ在テハ前年三月一日ヨリ其年二月末日ニ至ル査定石數及造石稅免除石數ヲ前々年三月一日ヨリ前年二月末日ニ至ル査定石數及造石稅免除石數ニ對比シ其増減事由ヲ備考ニ掲記スルモノトス

四 其年三月分ニ在テハ前月ヨリ特選ニ係ル自製及移入石數並前年三月分ニ對スル特選石高増減ノ事由及前年三月一日ヨリ其年二月末日ニ至ル無免許製造人員査定石數ヲ備考ニ掲記スルモノトス

第二十八號 印紙稅稅印捺捺高表中左ノ備考ヲ追加ス

二 後期分ニ在テハ全年度中同時ニ二種以上ノ請求ヲ爲シ又ハ同一人ニシテ數回ニ請求ヲ爲シタル人員ヲ各一人トシテ計算シ其種類別人員ヲ備考ニ掲記スルモノトス

第二十九號 骨牌製造販賣人員及所數表中左ノ備考ヲ追加ス

四 前年中ニ係ル免許料通計及其前々年ニ對スル増減事由ヲ備考ニ掲記スルモノトス

第三十號 骨牌貼用印紙高表中備考第二號ヲ左ノ通改正追加ス

二 外國ニ輸出シ又ハ見本ニ供シタル骨牌ノ種類別總數ハ全年度分ヲ後期分ノ備考ニ掲記スルモノトス

四 毎年度後期分ニ在テハ其年度中ニ於ケル貼用印紙高ノ前年度ニ對スル増減事由ヲ備考ニ掲記スルモノトス

○陸軍省訓令丙第十九號

明治三十六年度營務所管歲入歳出科目表中へ左記ノ通増設ス

明治三十六年九月十四日

歳出經常部

△印増設

陸軍大臣寺内正毅

陸軍一般

款	項	目	節
軍費	修繕費		
		陸軍守備歩兵第四大隊兵舎修繕	
		陸軍守備歩兵第四大隊兵舎修繕	
		陸軍守備歩兵第四大隊兵舎修繕	
		陸軍守備歩兵第四大隊兵舎修繕	

歲出臨時部

款	項	目	節
砲臺建築費			
	鋼砲臺建築費		
		△地所及建物買取費	
		△家屋其他移轉料	
測量費			
	俸給及贈給		
		△賞	
		△典	

○陸軍省訓令丙第二十二號

明治三十六年度留省所管歲入歲出科目表中臨時外國行諸費ノ款赤十字萬國條約改正會費參列費ノ項內雜費ノ一目ヲ取消ス

明治三十六年九月十八日

○陸軍省訓令丙第二十一號

明治三十六年度留省所管歲入歲出科目表中へ左記ノ通増設ス

明治三十六年九月二十五日

歲入臨時部

陸軍大臣寺內正毅
陸軍一殿
陸軍大臣寺內正毅
陸軍一殿
△印増設

歲出經常部

款	項	目	節
官有物拂下代	物品拂下代	△舊式兵器拂下代	
平車費	修繕費	△大隈衛戍病院構内 石垣其他修繕 山區要務砲兵隊 營内石垣其他修繕 深山小銃射擊場 發射場其他修繕	

○司法省訓令第六號

明治三十四年司法省訓令第九號監獄報告例年報第六表第七表ヲ削除シ別紙第六表乃至第八表ヲ追加シ看守ノ給助表以下順次繰下ク(別紙ハ別ニ之ヲ頒ツ)(別紙略ス)

明治三十六年九月二十二日

司法大臣男爵清浦奎吾

○農商務省訓令第十號

明治三十二年本省訓令第二十二號國有林野處分調査規程中左ノ通改正ス

明治三十六年九月二十五日

農商務大臣男爵清浦奎吾

大林區署

監獄

第十二條但書ヲ左ノ如ク改ム

但實測圖ニシテ實測面積アルモノ及第二十五條第二項但書並第三項ノ場合ニ於テハ見取圖ヲ以テ實測圖ニ代用スルコトヲ得

第二十三條第二項ヲ刪除ス

第二十五條ヲ左ノ如ク改ム

第二十五條 實測ハ一町歩ニ付土地ノ價格百圓以上ノ林野及標準地調査法ニ依リ材積ヲ計算スルノ必要アリト認メタル林相地ニ付テハ適宜ノ測器ヲ使用シテ之ヲ行フヘシ
前項以外ノ林野ニ在リテハ携帶圖板ヲ使用シ距離ハ細測又ハ步測ニ依ルヘシ但十町歩以下ノ小面積ノモノニ付テハ周圍ノ測量ヲ省略シ三斜法等ニ依リ實地ニ就キ直ニ面積ヲ測定スルコトヲ得

貸渡地ニシテ其ノ面積實地ト大差ナシト認ムルトキハ實測ヲ省略スルコトヲ得

第二十六條ヲ左ノ如ク改ム

第二十六條 實測圖ハ面積ヲ算定スルニ足ルヘキ程度ニ於テ適宜ノ縮尺ヲ用フヘシ

第二十七條 刪除

第二十八條第二項中「六十分ノ一」ヲ「適宜」ニ改ム

第二十九條ヲ左ノ如ク改ム

第二十九條 面積ノ算定ハ實測圖ニ依リ「メーター」ヲ用ヒ二回ノ計算ヲ平均スルニ止ムヘシ

地籍實測面積及方位ハ之ヲ圖面上ニ記載スヘシ

第三十條ヲ左ノ如ク改ム

第三十條 目通幹圍凡一尺以上ノ喬林ニ在リテハ毎木ニ就キ直徑及全長ヲ測リ材積ヲ計算シ(毎木調査法)又ハ標準地ヲ選定シ標準地内ノ材積ヲ計算シテ(標準地調査法)全林ノ總材積ヲ算定スヘシ但材價劣等ノモノハ材積測算ノ效果ヲ失ハサル程度ニ於テ適宜ノ方法ニ依リ材積ヲ算定スルコトヲ得

矮林、竹林及目通幹圍凡一尺未満ノ喬林ニ在リテハ標準地調査法ニ依リ、些少ノ雜木、竹又ハ幼樹生立セル林野ニ在リテハ便宜ノ方法ニ依リ本款ノミヲ調査シ材積ノ算定ヲ省略スルコトヲ得
標準地調査法ニ依リ材積ヲ算定スル場合ニ於テ貴重樹種アルトキハ毎木調査法ニ依リ別ニ其ノ材積ヲ算定スヘシ

第三十八條 刪除

第五十三條ノ二ニ左ノ但書ヲ加フ

但實測面積五町歩若ハ見積價格金五百圓ヲ超ニサルモノハ大林區署長限リ見積價格ヲ決定スルコトヲ得此ノ場合ニ在リテハ山林局長ノ定ムル様式ニ從ヒ毎月一回農商務大臣ニ報告スヘシ

林區署

○農商務省訓令第十一號

明治三十三年本省訓令第三十六號林區署事務章程中第八條第三號ヲ左ノ通改正ス

明治三十六年九月二十五日

農商務大臣 野村浩平

三 面積十町歩ヲ超ニ若ハ見積價格金千圓ヲ超ニルニ要存置園有林野ノ隨意契約ニ依ル賣拂ノコト

但、明治二十三年勅令第九十三號ニ依ル賣拂及部分林ヲ共ノ分收權利者ニ賣拂フ場合

ハ此ノ限ニ在ラス

○内務省訓令第十號
官國幣社營繕ニ關スル規程左ノ通相定ム

北海道廳 府縣

明治三十六年十月二十六日

内務大臣伯耆守 太郎

官國幣社營繕ニ關スル規程

- 第一條 建設物ノ新築又ハ増築ハ維持ノ目途確立レ風致ヲ害セサルモノニアラサレハ之ヲ行フコトヲ得サルモノトス
- 第二條 建設水道等ノ新設又ハ増設ニ付テモ亦前項ニ同シ
- 第三條 特別ノ事由アル場合ニ於テ内務大臣ノ認可ヲ得タルモノハ此限ニアラス
- 第四條 保存金ノ下付ヲ受ケサル神社ニ就テハ維持元資金ノ利子ヲ以テ保存金ト見做レ明治十年四月本省乙第四十七號達本規程第二條及前條ヲ準用スルモノトス
- 第五條 左記ノ場合ノ一ニ該當スルトキハ内務大臣ニ稟請セシムヘシ
 - 一 建設物ヲ新築又ハ増築シ及神苑、水道等ヲ新設又ハ増設セントスルトキ
 - 二 本殿、四百年以上前ノ建物特別由緒アル建物又ハ建築優秀ナル建物ノ再築、改築及模様替ヲ爲セントスルトキ
- 第六條 第五條第一號ニ該當スルモノヲ除ク外建設物又ハ神苑、水道等ノ再築、改築、模様替ヲ爲セントスルトキ及工費一萬三千圓以上ノ修繕ヲ爲セントスルトキハ地方長官ニ稟請セシムヘシ
- 第七條 臨時營繕ノ爲メ各社共通金ノ支出ヲ要スルトキハ内務大臣ニ稟請セシムヘシ此場合ニ於

テ不用古材ノ賣却代金ハ該工費ニ加フヘキモノトス

第八條 第五條第二號ノ建築物ヲ廢棄セントスルトキハ内務大臣ニ稟請セシメ其他ノ建築物ヲ廢棄シ又ハ神苑水道等ヲ廢止セントスルトキハ地方長官ニ稟請セシムヘシ

第九條 營繕工事一席三百圓以上ナルトキハ共執行方法ハ地方長官ノ認可ヲ受ケシムヘシ各社共通金ヨリ支出シタル營繕工事竣功セルトキハ直チニ共工費精算ヲ内務大臣ニ報告セシムヘシ

第十條 營繕ノ爲メ生シタル不用古材ニシテ價格一席三十圓以上ノモノノ處分ニ付テハ地方長官ノ認可ヲ受ケシムヘシ

第十一條 第二條但書第五條及第七條ニ依ル稟請ノ場合ニハ工事ノ金額設計並圖面ヲ添付セシムヘシ

但第五條第一號ニ依ル場合ハ維持ノ方法ヲモ具セシムルヲ要ス

第十二條 此規程ニ依リ内務大臣ニ差出スヘキ書面ハ地方長官ヲ經由セシムヘシ

第十三條 従前ノ令違ニシテ此規程ニ抵觸スルモノハ廢止ス

〔別記制限圖 明治二十二年九月本省訓第六四二號訓令中ノ制限圖ニ同シ〕

○内務省訓令第十一號

官國幣社處務規則左ノ通相定ム

明治三十六年十月二十六日

内務大臣 伯爵 桂 太郎

北海道廳 府縣

第一條 社務ハ宮司ニ於テ各擔任者ヲ指名シテ之ヲ處理セシムヘシ
社務繁多ナル神社ニ在テハ分限ヲ設クヘシ此場合ニ於テ各課ノ關係等處務上必要ナル細則ハ地方長官ノ認可ヲ得テ宮司之ヲ定ム

第二條 社務ハ擔任者ニ於テ速ニ處分見込取調ヘ回議ニ付シ宮司ノ決裁ヲ得テ之ヲ施行スルモノトス

第三條 職員出勤ノ節ハ出勤簿ニ捺印スヘシ

疾病又ハ事故アリテ出勤シ難キトキハ共事由ヲ具シ宮司ヘ届出ヘシ

病氣引籠五日以上ニシテハ醫師ノ診斷書ヲ添フルコトヲ要ス

第四條 忌服ヲ受ケタルトキハ判任待遇以上ノ職員ニ在テハ地方長官及宮司ヘ其他ニ在テハ宮司ヘ届出ヘシ

除服出仕ハ判任待遇以上ノ職員ニ付テハ地方長官其他ニ付テハ宮司之ヲ命スヘシ

職員死亡セルトキ亦第一項ニ同シ

第五條 宮司ノ職印及會計主任ノ印鑑ハ本省及地方廳ヘ届出置クヘシ

第六條 重要ナル印章ハ宮司ニ於テ嚴重保管スヘシ

第七條 神庫倉庫等ノ鍵ハ宮司ニ於テ封印ヲ施シ置クヘシ但宮司ニ於テ自ラ保管スルモノハ此限ニ在ラス

第八條 社務所ニハ左ノ簿冊ヲ備フヘシ

祭神記

由緒記

官私祭禮類

神社明細圖書

附錄末社明細圖書

不動産臺帳(但資金臺帳ニ指)

附立木圖書ノ類

寶物及貴重書什器類目錄

藏書目錄

祭器具明細帳

神社所有物帳

契約書類帳

法規指令類帳

會計簿帳簿

社務回覽帳

社務日記宿直日記類

一社職員錄同履歷書類

神社大麻守札等圖數(現)圖帳

前項各號ノ一ニ該書セサルモノト雖モ凡テ從來ノ照査トナリ又ハ參考トナルヘキ圖書書類ハ適當ニ別別保存スヘシ

第九條 必要ニ應ジ前條以外ノ簿冊又ハ補助簿等ヲ關聯シ物件ノ所在 出納其他各般ノ社務ヲ明瞭ナラシムヘシ

第十條 凡テ簿冊ハ自安ヲ付シ引継ニ使ナラシムヘシ

第十一條 宿直員ハ可成二名以上ヲ以テ之ニ充ツヘシ

宿直員一名ハ必ス主典以上ノ職員タルトシ要ス

宿直員ハ時々境内ヲ巡視シ取締ニ從事スヘシ

事變アルトキハ直チニ之ヲ官司ニ急報セシメ若シ共指揮ヲ待ツノ暇ナキトキハ隨機ノ處置ヲ行ヒ共官直チニ官司ニ急報スヘシ

第十二條 神社ニ風火災盜難等アルトキハ直チニ官司ヨリ地方長官ヘ報告スヘシ

第十三條 官司交替ノ節ハ一社任來迄ニ社務取扱ニ關スル一切ノ事件明細帳書ヲ以テ引継クヘシ

一切ノ簿冊ハ目錄相添之ヲ引継クヘシ

土地建物金品證書證券其他一切ノ物件ハ目錄相添簿冊ニ對照シ之ヲ引継クヘシ

引継ニハ地方廳官吏立會フヘシ

第十四條 前條ノ引継終リタルトキハ新舊官司巡警授受ノ證書ヲ作り立會官吏之ニ檢印スヘシ

引継ノ終了ハ地方長官ヨリ直チニ内務大臣ヘ報告スヘシ若シ事故アルトキハ併テ之ヲ報告スヘシ

第十五條 舊任官司死亡セタルトキハ新任官司ハノ引継ハ稱宜(稱宜可マ風ケル時)ニ於テ之ヲ行フヘシ

未ダ新ニ官司ノ任命ナキトキ又ハ新任官司著任以前引継ヲ行フトキハ舊任官司ハ稱宜(稱宜可マ風ケル時)ニ對シ引継ヲ行フヘシ

前項ニ依リ引継ヲ受ケタル稱宜(稱宜可)ハ新任官司著任ヲ待チ更ラニ新任官司ヘ引継クヘシ

本條ノ引継ハ總テ前二條ニ準シ之ヲ行フモノトス但前項ノ場合ニハ地方廳官吏ノ立會ヲ要セス

其終了ハ(事故アルトキ)事故共(官司)稱宜(稱宜可)巡警地方長官ヘ届出ツヘシ

第十六條 本則ニ定ムルモノノ外地方長官ニ於テ官廳幣社處務上必要ナル規則ヲ設クヘシ

第十七條 明治十三年第五號通達神官事務取扱方明治十一年三月十四日内務省番外宿直人員ノ

件明治八年十一月七日敕部省甲第十四號通達官廳幣社社務受渡成規其他本則ニ抵觸スル從前ノ制

規ハ之ヲ廢止ス但明治十三年第五號通達神官事務取扱方第六條但書ノ規定ハ明治三十七年三月

三十一日迄其效力ヲ有ス

○大藏省訓令第四十一號

警視廳 北海道廳 府 縣 大藏省總務局 造幣局
印刷局 專賣局 稅關 稅務監督局 稅務署
臨時沖繩縣土地整理事務局 臨時稅關工部局 樺廳事務局
本年三 大藏省訓令第十一號明治三十六年度大藏省所管歲入科目表歲入經常部第三款官業及官有財產收入中ニ第十三項樺廳專賣收入第一目樺廳專賣收入ノ項目ヲ追加ス

明治三十六年十月一日

大藏大臣男爵曾禰荒助

○大藏省訓令第四十二號

樺廳及樺廳油專賣費支辦旅費ハ内國旅費規則及明治三十年九月當省達第二〇一二號ニ據ルノ外左ノ各項ニ據リ支給スヘシ但シ本訓令ハ明治三十六年十月一日ヨリ施行ス

大藏大臣男爵曾禰荒助

一 樺廳及樺廳油專賣ニ關スル取締ノ爲メ樺廳事務局本局員ノ本局直轄地内及出張所員ノ管轄地内巡回旅費ハ日額八拾錢以内ニ於テ適宜支給額ヲ定メ共ノ支給額及施行期日ヲ届出ツヘシ但シ交通至難其ノ他特別ノ事情アル地方ニ於テハ認可ヲ經テ管圓五拾錢以内ノ日額旅費ヲ支給スルコトヲ得

二 前項ノ巡回ニシテ在勤廳所在地地域内ナルトキハ車馬賃一日參拾錢以内ニ於テ適宜支給額ヲ定メ共ノ支給額及施行期日ヲ届出ツヘシ

三 在勤廳所在地ニ接續シ別ニ區別ヲ要セザル地ハ在勤廳所在地ニ準シ前項ノ車馬賃ノミヲ支給スルコトヲ得此場合ニ於テハ樺廳事務局局長ニ於テ其ノ區域及施行期日ヲ定メ届出ツヘシ

四 管内旅費ノ支給定額ヲ減少セントスルトキ若クハ別ニ日額旅費ヲ設ケントスルトキハ樺廳事務局局長ニ於テ適宜支給額ヲ定メ共ノ支給額及施行期日ヲ届出ツヘシ

五 一晝夜中日額旅費ヲ支給スヘキ旅行ト共ノ他ノ旅行ト跨リタルトキハ日額旅費ニ關スル規定ヲ適用セシム

普通旅費ヲ支給スヘキ旅行又ハ日額旅費ヲ支給スヘキ旅行ニシテ一晝夜中數種ノ用務ニ跨リタルトキハ其ノ主タル用務ニ依リ普通旅費又ハ日額旅費ヲ支給スヘシ但シ赴任旅行ニハ之レヲ適用セシム

北海道廳

○大藏省訓令第四十三號
明治三十四年ハ大藏省訓令第三十號及同三十六年ハ大藏省訓令第三十五號府縣稅滯納處分報告表調理方ニ準シ北海道地方稅滯納處分報告表ヲ調製シ翌年度八月三十一日迄ニ其地ヲ差立當省ヘ送付スヘシ

但明治三十五年度分ハ本年十一月十五日迄ニ送付ヲ要ス

大藏大臣男爵曾禰荒助

稅關

○大藏省訓令第四十四號
明治三十六年ハ大藏省訓令第三十一號稅務統計彙帳樣式第四九第五〇及第六五表書式ニ準シ左ノ諸表ヲ調製シ下ニ定ムル期限ニ從ヒ主稅局ニ送付スヘシ

但明治三十五年度分ハ各表トモ本年十一月十五日迄ニ送付ヲ要ス

大藏大臣男爵曾禰荒助

- 一 砂糖消費稅徵收區分表 每翌年度五月末日限
- 一 砂糖消費稅擔保額別表 同
- 一 砂糖消費稅賦課及測定額表 每翌年度九月末日限

稅關

○大藏省訓令第四十五號
明治二十七年ハ大藏省訓令第三十五號關稅犯則者處分表並輸出煙草、酒類及醬油戻稅表報告方ノ

三八五

貸下料ノ次位ニ地所拂下代ノ目ヲ設置ス

明治三十六年十月十五日

農商務大臣 野村浩将

○農商務省訓令第十三號

大林區署

明治三十三年農商務省訓令第三十六號林區署事務章程中左ノ通改正ス

明治三十六年十月三十日

農商務大臣 野村浩将

第八條第八號ニ左ノ但書ヲ追加ス
但シ面積十町歩ヲ超ニサル林野ノ事業方法變更ハ此ノ限ニ在ラス

○内務省訓令第十二號

北海道廳 府縣

本年内務省告示第九十號ニ依ル北海道移住民ノ汽車賃汽船賃割引券取扱方左ノ通定ス

明治三十六年十一月三十日

内務大臣 伯爵 桂 太郎

第一條 割引券ノ下附ヲ請フ者アルトキハ左ノ事項ヲ調査シテ之ヲ下附スヘシ

一 一時ノ出稼ニテラサル者

二 生業ノ目的ヲ以テ移住スル者

三 移住ニ要スル旅費ヲ辨シ得ル者

第二條 告示第三條但書ニ依リ時ニ乗降地ヲ指定シタル官公署ハ乗車五日以前ニ其ノ乗降スヘキ

驛名竝ニ乗車人員ヲ鐵道作業局運輸部ニ通知スヘシ但割引券下附後ニ在リテハ之ヲ訂正スヘシ

第三條 割引券ハ移住季節前所要數ヲ豫定シテ之ヲ内務省ニ請求シ送付ヲ受ケタル割引券ハ自ラ

下附スルモノヲ除キ直ニ所屬官公署ニ分配スヘシ但臨時入用ノ場合ハ當該官公署ヨリ直接之ヲ

内務省ニ請求スルコトヲ得

第四條 割引券ノ受拂ヲ爲シタル官公署ニ於テハ割引券受拂簿竝ニ下附簿ヲ設ケテ左ノ事項ヲ記

入スヘシ

受拂簿ニ記入スヘキ事項

受入ノ年月日、員數竝ニ送起ノ官公署、拂出ノ年月日、分配及下附ノ員數、棄却ノ事由及員數竝

ニ毎月末現在高

下附簿ニ記入スヘキ事項

券面ノ番號、下附ノ年月日、受領人ノ住所、身分、職業、移住ノ目的、氏名、年齢

○陸軍省訓令丙第二十四號

陸軍一般

明治三十六年十一月 訓令 内務省第十三號 陸軍省丙第二十四號

明治三十六年十一月四日

明治三十六年度所管歳入歳出科目表中へ左記ノ通増設ス

歳出臨時部

款	項	目	節
異費			
	大坂砲兵工廠火砲製造所火災復舊費		
		大坂砲兵工廠火砲製造所火災復舊費	

△印増設

陸軍大臣寺内正毅

三九〇

陸軍省訓令第二十五號

明治三十六年度所管歳入歳出科目表中へ左記ノ通増設ス

明治三十六年十一月二十四日

歳出經常部

款	項	目	節
軍水費			
	修繕費		
		旭川衛皮地官舎修繕費	
		第十一師團各隊官舎修繕費	
		第十一師團各隊隊舎修繕費	
		第十一師團各隊隊舎修繕費	
		第十一師團各隊隊舎修繕費	
		第十一師團各隊隊舎修繕費	
		第十一師團各隊隊舎修繕費	
		第十一師團各隊隊舎修繕費	

△印増設

陸軍大臣寺内正毅

陸軍一般

陸軍省訓令第二十六號

明治三十六年度所管歳入歳出科目表中へ左記ノ通増設ス

明治三十六年十一月二十七日

歳出臨時部

款	項	目	節
異費			
	大坂砲兵工廠火砲製造所火災復舊費		
		大坂砲兵工廠火砲製造所火災復舊費	
		大坂砲兵工廠火砲製造所火災復舊費	

△印増設

陸軍大臣寺内正毅

陸軍一般

司法省訓令第七號

看守女監取締補助費授與規則

明治三十六年十一月二十一日

看守女監取締補助費授與規則

第一條 補助費ハ看守女監取締ノ補助ヲ證シ共ノ名譽ヲ表彰スルモノトス

第二條 補助費ハ左ノ事項ニ該當スル者ニ對シ典獄之ヲ授與ス

監獄

司法大臣波多野敬直

三九一

- 一 品行方正
 - 二 勤務勤勩
 - 三 事務熟達
 - 四 滿三年間勤繳
- 第三條 左ニ記載シタル者ニ付テハ前條第四號ニ掲クル期間ハ處分ノ翌月ヨリ之ヲ起算ス
- 一 巡查懲罰例、監獄判任待選職員懲戒規程ニ依リ月俸百分ノ二十以上ニ相當スル罰金若ハ減俸ニ處セラレタル者又ハ一年内ニ二回以上月俸百分ノ二十以下ニ相當スル罰金若ハ減俸ニ處セラレタル者
 - 二 奉職中處刑セラレタル者
- 第四條 精勤證書ヲ所持スル者監獄判任待選職員懲戒規程ニ依リ免職セラレタルトキ、奉職中處刑セラレタルトキ若ハ退職後禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ精勤證書ヲ無効トス
- 第五條 精勤證書ヲ所持スル者退職後再任ヲ求ムルトキハ學術試験ヲ爲サシメテ之ヲ採用スルコトヲ得
- 第六條 精勤證書ヲ亡失シタル者ニハ更ニ之ヲ授與スヘシ
- 第七條 精勤證書ハ左ノ離形ニ依リ調製スヘシ
- 附則
- 第八條 明治二十二年五月內務省勅令第二十一號巡查看守精勤證書授與規則ハ本則施行ノ日ヨリ看守ニ之ヲ適用セシム

用紙ノ千紙

第六寸

(男) (女) (女)

(精勤) (精勤) (精勤)

(守) (守) (守)

(氏) (氏) (氏)

名 名 名

右 行 狀 方 正 ニ シ ヲ 勤

務 勉 勵 奉 務 ニ 果 進 ス

因 テ 此 證 ヲ 付 與 ス

者 也

年 月 日

宣 信 勤 務 課 長 氏 名 印

八寸

一尺

明治三十六年十一月 勅令 司法省第七號

三九三

○農商務省訓令第十四號

府縣聯合共進會褒賞授與規程左ノ通之ヲ定ム

府縣

明治十四年内達甲博掛第六號府縣聯合共進會褒賞金給與内規ハ之ヲ廢止ス

農商務大臣男爵清浦奎吾

明治三十六年十一月七日
府縣聯合共進會褒賞授與規程

第一條 敝府縣聯合シテ地方重要物産及其ノ生産ニ關スル事項ノ共進會ヲ開設シ褒賞ノ給與ヲ請
求スルトキハ農商務大臣ハ優等ト認ムル出品ニ對シ出品人ニ褒賞ヲ授與ス
前項ノ請求ハ前年度五月限リ共進會主催地地方長官ヨリ其ノ規則書ヲ添ヘ農商務大臣ニ提出ス

第二條 褒賞ハ左ノ四種トス

- 一 等賞金牌
- 二 等賞銀牌
- 三 等賞銅牌
- 四 等賞褒狀

第三條 審査長審査官及審査員ハ農商務大臣之ヲ命ス

但シ審査員ニ對スル經費ハ聯合府縣ノ負擔トス

道廳 府縣

○農商務省訓令第十五號

明治二十七年五月勅令第十七號農商務統計報告規程中左ノ通改正ス

農商務大臣男爵清浦奎吾

明治三十六年十一月二十五日

第一條 地方長官ハ毎年左ノ定期報告ヲ爲スヘシ
一 農商務統計表
二 米作收穫高ノ豫想

各樣式ニ定ムル報告期
調査期後五日限

一 米作收穫高ノ豫想 五月三十一日限
二 蠶兒ニ五ルマテノ 産況及收穫高ノ豫想 五月三十一日限
前項第二號ノ調査期ハ二百十日一週前及秋分ノ二回トス

【參照】

農商務省訓令第十七號農商務統計報告規程(明治二十七年五月三日)抄錄

- 第一條 地方長官ハ毎年左ノ定期報告ヲ爲スヘシ
 - 一 農商務統計表
 - 二 米作開拓ノ豫況
 - 三 同 成熟ノ豫況
 - 四 米作成熟ノ豫況
 - 五 蠶兒ニ五ルマテノ 産況
- 毎年五月三十一日限

○内務省訓令第十三號
來ル明治三十七年一以降市區ニ於ケル死亡數及出生數等左ノ表式ニ準シ翌月二十日迄ニ報告スヘ

北海道廳 府縣

明治三十六年十二月二十六日

内務大臣伯耆桂 太郎

(表式)

明治 年月市區(死亡)出生死産數報告(道廳)		市(區)名		死亡數		出生數		死産數		備 考	
男	女										

一 本表ハ現在地ニ於テ調査配入スヘ
 一 本表配入事項ニシテ既往ニ係ルモノハ備考欄内ニ配入スヘシ(例之ハ「出生ノ内何人ハ前月分」ノ如シ)
 一 區トアルハ北海道沖繩縣ノ區及東京市京都市大阪市ニ於ケル區ヲ云フ

○大藏省訓令第四十六號

大藏大臣官房會計課 稅務監督局 稅務署

明治三十五年十一月一號印紙類出納規程中「總務局」ヲ「大臣官房會計課」ニ「總務局

總務長官」ヲ「大臣官房會計課長」ニ改ム

明治三十六年十二月九日

大藏大臣男爵曾禰荒助

○大藏省訓令第四十七號

大臣官房營繕課 專賣局

明治三十三年八月大藏省訓令第五十七號大藏省所屬工事取扱規程中左ノ通改正ス

造幣局 稅關 稅務監督局

明治三十六年十二月十日

大藏大臣男爵曾禰荒助

第二條中總務局ヲ大臣官房管轄課ニ改ム

○大藏省訓令第四十八號

稅務監督局

明治三十四年四月法律第二十七號ニ依リ地租ノ免除處分ヲ爲シタル時ハ別紙様式ニ依リ直ニ報告ス

明治三十六年十二月二十二日

大藏大臣男爵曾禰荒助

(別紙)

水害地租免除處分表

道府	地名	出願年度	分限額	出願年度	分限額	出願年度	分限額	出願年度	分限額	出願年度	分限額	出願年度	分限額	出願年度	分限額	出願年度	分限額	出願年度	分限額
合計																			

○大藏省訓令第四十九號

警視廳 北海道廳 府 縣 造幣局 印刷局 專賣局

稅關 稅務監督局 稅務署 臨時沖繩縣土地整理事務局

樞密事務局 大臣官房會計課 臨時稅關工務部

明治三十六年法律第三號及同年勅令第八號ニ依リ延納ヲ許可シタル地租ハ本年三十大藏省訓令第十

一號明治三十六年度大藏省所管收入科目表收入經常部第一款租稅第一項地租中ニ第八目災害地租
延納ノ目ヲ設ケ收入スヘシ

明治三十六年十二月二十二日

大藏大臣男爵曾禰荒助

○陸軍省訓令第二十七號

陸軍一般

明治三十六年度陸省所管收入科目表中へ左記ノ通増設ス

明治三十六年十二月十日

陸軍大臣寺內正毅

歳出經常部

△印増設

款	項	目	節
軍	費	修繕費	
		▲東京衛戍病院附屬	
		▲工兵第四大隊附屬	
		▲密修隊	
		▲四國砲兵第四聯隊	
		▲兩馬鹿修隊	
		▲工兵第四大隊器具	

○陸軍省訓令第二十八號

陸軍一般

明治三十六年度陸省所管歳入歳出科目表中へ左記ノ通増設ス

明治三十六年十二月二十二日

陸軍大臣寺內正毅

歳出臨時部

△印増設

明治三十六年十二月 訓令 陸軍省丙第二十九號

五〇〇

款	項	目	節
臨時特設部隊費	俸給及諸給	差	
		賞	
	雜給及雜費	差	
		賞	
		與	
		與	
		與	

東京砲兵工廠作業

歳出

款	項	目	節
東京砲兵工廠作業	雜給及雜費		
		慰勞金	
		賞賜金	
		慰勞金	
		賞賜金	

○陸軍省訓令丙第二十九號

明治三十六年度海軍省所管歳入歳出科目表中へ左記ノ通増設ス

明治三十六年十二月二十六日

陸軍大臣寺内正毅

陸軍一般

明治三十六年十二月 訓令 陸軍省丙第二十九號

四〇一

款	項	目	節
陸軍本省	雜給及雜費	給	
		賞	
		與	
軍務費	雜給及雜費	給	
		賞	
		與	
	患者費	給	
		賞	
		與	
憲兵費	俸給及諸給	差	
		賞	
		與	
屯田兵費	俸給及諸給	差	
		賞	
		與	

歳出経費部

△印増設

給スルコトヲ得

第四條及第六條中「小林區署員」ヲ「小林區署員」ニ改ム
第六條ノ二 管内、部内又ハ所在地内ノ用務ニ依リ出張ノ際其ノ必要上管外、部外又ハ所在地外ニ出テ若ハ宿泊シタルトキハ第四條又ハ第五條ノ規定ヲ準用ス

乙號表

等	級	日額
一等	委任官	一圓
二等	判任官	七十錢
三等	員	五十錢

小林區署
及保護區
附

丁號表ヲ削除ス

○農商務省訓令第十七號

明治三十二年農商務省訓令第二十五號林區署給與順序中左ノ通改正ス

大林区署

明治三十六年十二月二十二日

農商務大臣男爵清浦奎吾

各條中「林區署員」ヲ「林区署員」ニ「大林区署員」ヲ「大林区署員」ニ「小林區署員」ヲ「小林區署員」ニ改ム

第七號書式中此譯地名ノ「欄村」及「町」ノ下ニ「大字何」ノ三字ヲ加フ

同上書式注意五市町村ヲ「町村大字又ハ市」ニ改ム

第八號書式中内閣備考ノ「欄何町(村)」ノ下ニ「大字何」ノ三字ヲ加フ

○農商務省訓令第十八號

大林区署

明治三十一年農商務省訓令第三十八號林務講習規則中左ノ通改正シ明治三十六年十二月三十一日

ヨリ之ヲ施行ス

明治三十六年十二月二十五日

農商務大臣男爵清浦奎吾

第一條中「營林主事補及森林監守」ヲ「森林主事」ニ改ム

○農商務省訓令第十九號

林区署

明治三十二年農商務省訓令第三十六號林区署事務章程左ノ通改正ス

林區署事務章程

農商務大臣男爵清浦奎吾

第一章 大林区署

第一條 大林区署長ハ官制及本令ノ定ムル所ニ依リ法律命令ノ執行及主管事務ノ整理ニ付其ノ責ニ任ス

第二條 國有林野及部分林ニ關スル事件ニシテ小林區署長ノ專決處分ニ屬スルモノヲ除クノ外ハ

大林区署長ノ主管トス

第三條 大林区署ニ林務課、林業課、主計課及庶務係ヲ置ク

大林区署長ニ於テ特別ノ分課ヲ爲サントスルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第四條 林務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 國有林野及產物ノ保管、委託、貸付並處分ニ關スル事項
但シ要存置國有林野ノ產物處分ニ關スル事項ヲ除ク
- 二 部分林及其ノ產物ニ關スル事項
- 三 國有林野ノ編入及組換ニ關スル事項
- 四 國有林野ノ存廢區分ニ關スル事項
- 五 不要存置國有林野ノ處分調査ニ關スル事項

- 六 小林區署及保護區ノ存廢及其ノ名稱位置及區域ニ關スル事項
- 七 國有林野ノ設置ニ關スル事項
- 八 國有林野及部分林ノ盤帳ニ關スル事項
- 九 國有林野及立木竹ノ下戻ニ關スル事項
- 第五條 林業課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 毎年度事業豫定案ニ關スル事項
 - 二 國有林野ノ測量及境界査定ニ關スル事項
 - 三 國有林野ノ施業案ニ關スル事項
 - 四 保安林調査ニ關スル事項
 - 五 造林及伐木事業ニ關スル事項
 - 六 要存置國有林野ノ產物處分ニ關スル事項
 - 七 民有ノ土地森林原野及產物ノ買上並交換ニ關スル事項
 - 八 林產物品ニ關スル事項
 - 九 林業ノ講習ニ關スル事項
 - 十 林業ノ試驗ニ關スル事項
- 第六條 生計課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 大林區署所屬職入職出ノ豫算決算出納共ノ他會計ニ關スル事項
 - 二 用地建物及物品ニ關スル事項
 - 三 廳會及給仕小使ノ取締ニ關スル事項
- 第七條 庶務係ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 署長印及署印ノ保管ニ關スル事項

- 二 機密ニ關スル事項
- 三 署員ニ關スル事項
- 四 公文書類ノ接受發送淨寫編寫及保管ニ關スル事項
- 五 統計ニ關スル事項
- 六 圖書ノ刊行及保管ニ關スル事項
- 七 灣宿直ニ關スル事項
- 八 各課文書ノ照査ニ關スル事項
- 九 各課ノ主管ニ屬セザル事項
- 第八條 大林區署長ハ署員ニ關スル左記各號ノ事項ニ就テハ之ヲ專決スルコトヲ得
 - 一 管内ヲ旅行シ又ハ部下ノ署員ニ管内ノ旅行ヲ命スルコト
 - 二 臨時緊急ノ場合ニ於テ管外ニ出張シ又ハ部下ノ署員ニ管外出張ヲ命スルコト
 - 三 部下ノ署員ニ歸省、看護、墓參又ハ轉地療養ヲ許可シ及除服出仕ヲ命スルコト
 - 四 月俸十五圓又ハ日給五十錢ヲ超ニサル雇員ノ採用及解職ノコト
 - 五 課係長及課係員ノ分擔命免ノコト
 - 六 林務官ニアラサル小林區署長ヲ命免シ及小林區署員ノ在勤ヲ命免スルコト
- 第九條 大林區署長ハ特別ノ規程アルモノ及左記各號ノ事項ヲ除クノ外共ノ主管ニ係ル事項ニ就テハ之ヲ專決スルコトヲ得
 - 一 毎年度事業豫定案確定並變更ノコト
 - 但シ左ノ場合ハ此ノ限ニ在ラズ
 - 一 造林事業豫定案第一部(特別經營造林事業豫定案ニアリテハ第二項砂防工ヲ除ク)及第二部ノ類別各項内ニ於ケル事業ノ變更

六 小林區署及保護區ノ存廢並其ノ名稱位置及區域ニ關スル事項
 七 國有林野ノ發售ニ關スル事項
 八 國有林野及部分林ノ盛衰ニ關スル事項
 九 國有林野及立木竹ノ下戻ニ關スル事項
 第五條 林業課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 一 毎年度事業豫定案ニ關スル事項
 二 國有林野ノ測繪及境界査定ニ關スル事項
 三 國有林野ノ施業案ニ關スル事項
 四 保安林調査ニ關スル事項
 五 造林及伐木事業ニ關スル事項
 六 要存置國有林野ノ產物處分ニ關スル事項
 七 民有ノ土地森林原野及產物ノ買上並交換ニ關スル事項
 八 林產物品ニ關スル事項
 九 林業ノ講習ニ關スル事項
 十 林業ノ試驗ニ關スル事項
 第六條 生計課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 一 大林區署所屬農入農出ノ豫算決算出納共ノ他會計ニ關スル事項
 二 用地建物及物品ニ關スル事項
 三 廳會及給仕小使ノ取締ニ關スル事項
 第七條 庶務係ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 一 書長印及署印ノ保管ニ關スル事項

二 機密ニ關スル事項
 三 學員ニ關スル事項
 四 公文書類ノ接受發送淨算編纂及保管ニ關スル事項
 五 統計ニ關スル事項
 六 圖書ノ刊行及保管ニ關スル事項
 七 寄宿直ニ關スル事項
 八 各職文書ノ點檢ニ關スル事項
 九 各課ノ主管ニ關セザル事項
 第八條 大林區署長ハ學員ニ關スル左記各號ノ事項ニ就テハ之ヲ專決スルコトヲ得
 一 管内ヲ旅行シ又ハ部下ノ學員ニ管内ノ旅行ヲ命スルコト
 二 臨時緊急ノ場合ニ於テ管外ニ出張シ又ハ部下ノ學員ニ管外出張ヲ命スルコト
 三 部下ノ學員ニ歸省看護遊藝又ハ轉地療養ヲ許可シ及除服出仕ヲ命スルコト
 四 月俸十五圓又ハ日給五十錢ヲ超ニサル學員ノ採用及解職ノコト
 五 課係長及課係員ノ分擔命免ノコト
 六 林務官ニアラサル小林區署長ヲ命免シ及小林區署員ノ在勤ヲ命免スルコト
 第九條 大林區署長ハ特別ノ規程アルモノ及左記各號ノ事項ヲ除クノ外共ノ主管ニ係ル事項ニ就
 テハ之ヲ專決スルコトヲ得
 一 毎年度事業豫定案並確定並變更ノコト
 但シ左ノ場合ハ此ノ限ニ在ラズ
 一 造林事業豫定案第一節(特別經營造林事業豫定案ニアリテハ第二項砂防工ヲ除ク)及第
 三節ノ類別各項内ニ於ケル事業ノ變更

- 二 特別經營造林事業豫定案第一部第二項ノ砂防工及造林事業豫定案第二部類別各項内ノ事業ニ關スル當初ノ計劃ニ戻ラサル變更
- 三 造林又ハ官行事業實行ノ結果ニ依リ生シタル剩餘金ヲ以テ各共ノ事業ヲ施行スルモノ
- 二 國有林野ノ存廢區分ノコト
- 三 要存世國有林野ノ賣拂及左ノ場合ニ於ケル不要存世國有林野ノ賣拂ノコト但シ公共ノ爲ニ地、火葬場、汚穢物埋却場及駝牛馬捨場ニ供スル面積一町歩ヲ超ニサルモノハ此ノ限ニ在ラズ
- 一 公用又ハ公益事業ノ爲ノ出願ナルトキ
- 二 不要存世國有林野賣拂規則第三條ノ二又ハ第十條ノ場合ニ於テ共ノ出願競合スルトキ
- 三 特賣出願者ノ資格又ハ特賣ノ事由明瞭ナラザル出願ナルトキ
- 四 社寺上地林ヲ共ノ社寺以外ノ者ニ賣拂フヲ不穩當ナリト思料スルトキ
- 四 既定事業豫定案以外ノ主產物處分ノコト但シ左ノ場合ハ此ノ限ニ在ラズ
 - 一 見積價格金一千圓ヲ超ニサル公用又ハ公益事業ニ係ル主產物
 - 二 前年度事業豫定案不實行ニ係ル主產物
 - 三 見積價格金三百圓ヲ超ニサル主產物
 - 四 竹及部分木
 - 五 燒木、枯木、損木、轉倒木、危險木、障得木、盜伐木、根株、末木、枝條、林產物品及棄捐木
 - 六 造林事業施行上折伐ヲ要スル立木
 - 七 試驗又ハ林況調査ノ爲折伐ヲ要スル立木
 - 八 檢證ノ爲折伐ヲ要スル立木

- 九 境界調査又ハ測量ノ爲折伐ヲ要スル立木
- 十 國有林野ヲ他ノ官有地ニ組換又ハ讓與スル爲折伐ヲ要スル立木
- 十一 林業附帶ノ爲折伐ヲ要スル立木
- 十二 水火災ノ防禦用又ハ軍用ノ爲折伐ヲ要スル立木
- 十三 受託者ニ讓與シ又ハ保管者ニ採取セシムル見積價格金一千圓ヲ超ニサル國有林野ノ主產物
- 五 國有林野ノ交換、讓與又ハ他ノ官有地ニ組換若ハ官有地ヲ國有林野ニ編入ノコト但シ道路、河川、堤塘、溝渠及溜池ノ敷地ニ組換ヲ爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラズ
- 六 民有ノ土地、森林、原野又ハ立木竹質上ノコト
- 七 社寺保管林又ハ市町村委託林ノ設定及解除ノコト
- 八 賣拂ノ豫算アル面積三十町歩ヲ超ニル國有林野ノ事業方法變更、延期及成功地賣拂ノコト
- 九 部分林ノ設定及解除ノコト
- 十 國有林野無料貸付ノコト但シ繼年期及公用又ハ公益事業ニ供スル場合ニシテ面積五町歩ヲ超ニサルモノハ此ノ限ニ在ラズ
- 十一 國有林野ノ面積十町歩ヲ超ニルモノノ年期貸付若ハ十箇年ヲ超ニル年期貸付ノコト但シ繼年期ノ場合及面積十町歩ヲ超ニサル公用若ハ公益事業用又ハ植樹用若ハ家屋敷地用ハ此ノ限ニ在ラズ
- 十二 主產物ノ年期賣拂ノコト但シ立竹ニシテ年期五箇年ヲ超ニサルトキハ此ノ限ニ在ラズ
- 十三 小林區署及保護區ノ廢置變更並小林區署ノ名稱又ハ位置變更ノコト但シ同一市町村内ニ於ケル位置變更ハ此ノ限ニ在ラズ
- 十四 決定セシ國有林野ノ境界改定ノコト

十五 訴訟提起ノコト但シ公訴附帶ノ私訴又ハ公訴ノ判決確定ニ起因スル民事及未納金ニ關スル訴訟其ノ他緊急ノ場合ニ於ケル訴訟ハ此ノ限ニ在ラス

十六 謝金二百圓ヲ超ニル辯護士雇入ノコト

十七 一箇金額百圓ヲ超ニル不用物件賣拂ノコト

十八 金額五十圓ヲ超ニル手當又ハ謝金ヲ要スル事務囑託ノコト

十九 實與死亡賜金退官賜金療治料及死傷手當給與ノコト

二十 特ニ契約ノ條件ニ付總伺シテ締結シタル契約ノ變更及解除ノコト但シ其ノ條件以外ノ變更ハ此ノ限ニ在ラス

第十條 大林區署長ハ左ノ場合ニ於テハ其ノ都度遲滞ナク之ヲ報告スヘシ

一 第八條第二號ニ依リ管外ニ出張シ又ハ管外出張ヲ命シタルトキ

二 第八條第五號ニ依リ課長第六號ニ依リ小林區署長ヲ命シタルトキ

三 第九條第十三號但書ニ依リ小林區署ノ位置變更及保護區ノ名稱變更又ハ保護區官舎ノ位置變更ヲ命シタルトキ

四 職務ニ關スル規程ヲ制定若ハ改正シタルトキ

五 國有林野產物ノ被害カ見積價格金五千圓ヲ超ニルトキ

六 造林施業面積十町歩以上ノ植栽ニシテ其ノ面積又ハ數量ニ對シ四割ヲ超ニル枯損其ノ他ノ被害アリタルトキ

七 造林ノ各種事業ニシテ天災其ノ他ノ原因ニ依リ當初ノ目的ヲ達シ得サリシトキ

八 其ノ他重大ナル事件アリタルトキ

第二章 小林區署

第十一條 小林區署長ハ官制及木令ノ定ムル所ニ依リ法律命令ノ執行及主掌事務ノ整理ニ付其ノ責ニ任ス

小林區署長ハ大林區署長ノ主管ニ屬スル事件ニ付テモ亦其ノ執行ノ責ニ任ス

第十二條 小林區署長ハ臨時緊急ノ場合ニ於テ大林區署長ニ報告シ上部外ニ出張シ又ハ職員ニ部外出張ヲ命スルコトヲ得但シ大林區署管外ニ出張シ又ハ管外出張ヲ命シタルトキハ大林區署長ノ追認ヲ受クヘシ

第十三條 小林區署長ハ管外ノ勸督及其ノ身上ニ關シ大林區署長ニ報告スヘシ

第十四條 小林區署長ハ大林區署長ノ指揮ヲ受ケ事業決定案ヲ編撰シ及之ヲ執行スヘシ

第十五條 小林區署長ハ特別ノ規程アルモノヲ除クノ外左ノ各號ニ該當スルモノハ之ヲ專決スルコトヲ得但シ第一號乃至第十號ノ木竹ニシテ見積價格金三百圓ヲ超ニル賣拂ハ此ノ限ニ在ラス

一 水火災ノ防禦用又ハ軍事用ノ爲メ木竹ノ斫伐及賣拂ノコト

二 測量及境界査定ノ爲メ支障木竹ノ斫伐及賣拂ノコト

三 道路電線家屋排地等ニ對シ支障木竹又ハ危險木竹ノ斫伐及賣拂ノコト

四 檢査試驗及林況調査ノ爲メ木竹ノ斫伐及賣拂ノコト

五 道路及鐵道新設敷地上ノ木竹ノ斫伐及賣拂ノコト

六 燒木竹枯木竹倒木竹、盜伐木竹、伐倒木竹、挫折木竹、根株未木枝條及棄損木竹ノ賣拂ノコト

七 豫定案内ノ主産物又ハ間伐木ヲ以テ供給シ得ヘキ自家用薪炭材ヲ從來慣行アル地元人民ニ特賣ノコト

八 國有林野ノ事業職員又ハ國有林野ノ產物買受人ニ其ノ事業ニ必要ナル用材又ハ薪炭材ヲ供給スル豫定案内ノ主産物又ハ間伐木ヲ特賣ノコト

九 部分林ノ木竹ヲ其ノ造林者ニ特賣ノコト

- 十 造林事業施行上伐採ヲ要スル木竹ノ斫伐及賣拂ノコト
 - 十一 土地ノ賣渡ヲ爲ササル副産物賣拂ノコト
 - 十二 林産物搬出延期ノコト
 - 十三 特賣林産物使用ノ目的變更ノコト
 - 十四 公特賣契約ニ基テ違約處分ノコト
 - 十五 公賣林産物ノ轉賣認與認可ノコト
 - 十六 拂受人、借地人名義換認可ノコト
 - 十七 國有林野ノ一時貸付ノコト
 - 十八 國有林野ノ五箇年ヲ超ニサル繼年期貸付ノコト
 - 十九 從來慣行アル原野ニ牛馬ノ放牧許可ノコト
 - 二十 官地民水林ノ伐採認可ノコト
 - 二十一 部分林ノ手入認可ノコト
 - 二十二 部分林並帳ノ謄本及抄本交付ノコト
 - 二十三 國有林野ノ測量許可ノコト
 - 二十四 人夫直接雇傭ニ依リ豫定案内ノ權限箇所及天然更新箇所ノ手入事業實行ノコト
 - 二十五 人夫直接雇傭ニ依リ豫定案内ノ苗圃事業實行ノコト
 - 二十六 確定判決ニ基テ違約金辨償金徴收ノコト
- 前項各號ノ處分ヲ了シタルトキハ五日以内ニ大林區署長ニ報告スヘシ
- 第十六條 特別ノ規程アル場合ヲ除キ凡テ願書、屆書等ハ小林區署ニ受理シ其ノ専決處分ニ屬スルモノヲ除ク外ハ意見ヲ付シテ大林區署長ニ進達スヘシ
- 附則

本令ハ明治三十六年十二月三十一日ヨリ之ヲ施行ス

大林區署

○農商務省訓令第二十號
明治三十一年農商務省訓令第十一號小林區署規程左ノ通改正シ明治三十六年十二月三十一日ヨリ之ヲ施行ス
農商務大臣男爵清浦奎吾

小林區署監督規程

- 第一條 大林區署長ハ本規程ニ依リ其ノ管轄内小林區署業務ノ監督ヲ爲スヘシ
- 第二條 大林區署長ハ林務官ヲ監督員トシ左記各號ノ事項ニ就キ其ノ監督ヲ分掌セシムヘシ
 - 一 法律命令施行ノ狀況
 - 二 林務及會計事務ノ適否
 - 三 林野ノ保護及司法警察事務ノ舉否
 - 四 林野ノ施業及利用施設ノ適否並其ノ成績ノ良否
 - 五 署員服務規律ノ整否
 - 六 官有ノ地所、建物及物品ノ保管ノ適否
 - 七 文書簿册類ノ整否
 - 八 前各號ノ外特ニ監督ヲ要スル事項
- 大林區署長ハ林務官補ヲ監督員心得トシ監督員ノ事務ヲ行ハシムルコトヲ得
- 大林區署長ハ監督員及監督員心得以外ノ職員ヲシテ監督ノ爲左記各號ノ事務ヲ行ハシムルコトヲ得
- 一 會計事務其ノ他輕易ナル監督事項ニ關スル調査
- 二 小林區署長事務引繼及林産物公賣ノ立會

三 造林事業及伐木事業實行ノ監督

四 前各號ノ外特ニ必要ヲ認ムル事項ノ調査

第三條 大林區署長ハ特別經營事業ニ關スル小林區署業務ニ付テハ特ニ山林局監督官補又ハ營林技師ヲ監督員トシ前條ノ監督員及監督員心得ト共ニ其ノ監督事務ヲ行ハシムヘシ

第四條 小林區署業務ノ監督ヲ分テテ定期監督及臨時監督ノ二トス

定期監督ハ毎年二回之ヲ行ヒ臨時監督ハ必要ニ應ジ隨時之ヲ行フモノトス

第五條 監督員及監督員心得ハ第二條第一項各號ノ事項中特ニ重要ナリト認メタルモノニ就テハ大林區署長ニ復命書ヲ差出スヘシ

前項ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ監督員及監督員心得ハ主任官吏ヨリ始末書ヲ徴シ之ヲ復命書ニ添附スヘシ

第六條 監督員及監督員心得ハ小林區署長ヨリ山林手續ヲ檢閲シ之ニ認印スヘシ

第七條 大林區署長ハ小林區署業務ノ監督ニ關スル細則ヲ定ムヘシ

第八條 第二條及第三條ノ監督員及監督員心得ノ命免及第七條ノ細則制定改廢ノ場合ニ於テハ其ノ細則之ヲ報告スヘシ

○農商務省訓令第二十二號

大林區署

明治三十三年農商務省訓令第十一號大林區署會計事務章程中左ノ通改正シ明治三十六年十二月三十一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十六年十二月二十九日

農商務大臣 野村浩将

第三條中(山林局長ヲ除キ)ヲ削ル

第四條 削除

第六條 會計検査院ニ提出シタル證明書類ニ對スル同院ノ審理書及之カ答辯ハ山林局長ヲ經由スルモノトス

第二十六條及第三十條中總務局長大臣官房ニ改ム

第三十二條及第六十六條中山林局長ヲ會計検査院ニ改ム

第七十條 仕掛命令官前條ノ計算書類ヲ受ケタルトキハ成規ノ期間内ニ下検査ヲ執行シ下検査書ヲ添ヘ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

第七十五條中林區署長職務章程ヲ林區署事務章程ニ改メ處分シタルヲ處分シ得ルニ改ム

第七十七條第七十九條第八十二條第八十三條第二百二十七條第二百二十八條第二百二十九條及第三百二十二條中公債證券ノ下ニ勸業債券若ハ興業債券ヲ加フ

第七十七條中入札又ハ入札入札保證金及ニ改ム

第七十九條中地方債證券ノ下ニ勸業債券若ハ興業債券ヲ加ヘ通署捺印ノ上ニ確定日附ヲ記入ヲ加フ

第九十一條中小林區署長ノ下ニ伐木共ノ他ノ事業場ノ使用ニ供スル物品ハ各首席者ヲ加フ

第九十四條第九十五條及第九十九條中小林區署長ノ下ニ又ハ伐木共ノ他ノ事業場ヲ加フ

第一百二十條中大林區署長ハノ下ニ一箇年度取扱金額及保管物品價格ヲ定ムヲ加ヘ現金前渡ヲ受クル官吏ノ下ニ分任收入官吏ヲ加フ

第一百五十四條 小林區署長ハ歳入徴收額整理簿ヲ設ケ部内收入ノ計算ヲ整理スヘシ

第九章雜則ニ左ノ一條ヲ加フ

第一百五十四條ノ二 明治三十六年九月省令第八號ニ依リ年賦月賦共ノ他延納金ノ擔保トシテ徴收スル公債證券勸業債券若ハ興業債券ノ取扱ハ第七十七條第七十九條第八十條第八十二條及

第八十三條又不動産ノ取扱ハ第二百二十五條ノ規定ヲ準用ス

明治三十六年十二月 勅令 農商務省第二十二號

○農商務省訓令第二十二號
小林區署職員制服式規程左ノ通相定ム

小林區署職員制服式規程
明治三十六年十二月二十九日

農商務大臣 野澤清浦 奏

小林區署

第一章 服裝

- 第一條 小林區署職員ノ制服トハ明治三十六年十二月勅令第二百九十五號ニ定ムル制服ヲ着用シ及制劔ヲ佩帶スルヲ云フ
- 第二條 小林區署職員禮裝ノトキハ一般ニ規定スル相當官ノ禮服ヲ着用スヘシ但シ通常禮服用ノ場合ニ於テハ制裝ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得
- 第三條 小林區署職員ハ其ノ職務中必ス制服ヲ着用スヘシ
- 第四條 制服ノ着用期間ハ左ノ如シ
 - 一 冬 服 自十月一日起至五月三十一日
 - 一 夏 服 自六月一日起至九月三十日
 但シ此ノ期間ニ依リ難キトキハ別ニ着用期間ヲ定メ農務大臣ノ認可ヲ受クヘシ
- 第五條 制服ヲ着用スルトキハ白色ノ立襟ヲ用ユヘシ
- 第六條 外套ハ室外ニ於テ着用スヘシ
- 第七條 日覆ハ炎暑ノ際適宜之ヲ用ユヘシ
- 第八條 制服ヲ着用スルトキハ靴ヲ穿ツヘシ但シ巡回ノ際ハ脚絆草鞋ヲ用ユルコトヲ得
- 第九條 外套ヲ携帶スルニハ之ヲ捲收シテ其ノ兩端ヲ結束シ左肩ヨリ斜ニ右腋ノ下ニ掛クヘシ但シ濕潤シタルトキハ適宜携帶スルコトヲ得

第二章 帶劔

- 第十條 劔ハ上衣ノ下ニ佩帶スヘシ
- 第十一條 帶劔ハ森林犯罪者又ハ森林犯罪者ト認ムヘキ者ヲ逮捕スルニ際シ兇器ヲ持シテ抗拒シ他ニ防禦ノ術ヲヤトキハ外拔劔スルコトヲ得ス
- 第十二條 拔劔シタルトキハ兇行者ヲ傷ケタルト否トニ拘ラス速ニ其ノ狀況ヲ具シテ所屬上官ニ届出ス

第三章 禮式

- 第十三條 小林區署職員制裝ノトキハ本章ノ規定ニ從ヒ禮式ヲ行フヘシ
- 第十四條 禮式ハ之ヲ分テテ最敬禮及敬禮ノ二種トス最敬禮ハ皇族以上ニ對シテ之ヲ行ヒ敬禮ハ其ノ他ノ人ニ對シテ之ヲ行フモノトス
- 第十五條 最敬禮ノ式ハ受禮者ニ面シテ直立シ姿勢ヲ正シ兩足ヲ並著シ兩手ヲ垂下シ首ヲ受禮者ニ對向シテ其ノ通過シ了ルノ間注視スルモノトス
- 第十六條 敬禮ノ式ハ受禮者ニ面シテ姿勢ヲ正シ左手ヲ垂下シ右手ヲ舉ケ五指ヲ並閉シテ其ノ第一關節ヲ帽ノ前庇ノ右側ニ當テ掌ヲ稍外面ニ向ケ肘ヲ肩ニ均クシテ受禮者ヲ注視スルモノトス
- 第十七條 左ノ場合ニ於テハ下ニ示セル動作ニ依リ禮式ヲ行フコトヲ得
 - 一 犯罪人ヲ護送シ又ハ物品ヲ携帶スルトキハ受禮者ヲ注視シ空手ヲ垂下シ掌ヲ稍前面ニ向クヘシ
 - 二 帽ヲ冠戴セサルトキハ受禮者ヲ注視シ兩手ヲ垂下シ掌ヲ稍前面ニ向クヘシ
 - 三 椅子ニ倚リタルトキハ起立シテ受禮者ニ對面シ兩手ヲ垂下シ掌ヲ稍前面ニ向クヘシ

附則

第十八條 明治二十四年七月訓令第三十號 林務官林務官補營林主事營林主事補及森林監守服裝帶劔並禮式規定ハ之ヲ廢止ス

法令全書

達

○陸軍第一號

工兵隊電信術教育令左ノ通定ム

但シ明治三十四年三月陸軍第十八號ハ之ヲ廢止ス

明治三十六年一月二十一日

陸軍大臣寺內正毅

工兵隊電信術教育令

- 第一條 工兵大隊ニ於ケル電信術ノ教育ヲ分テ通信術教育及建築術教育トス
- 第二條 大隊長ハ電信術教育ノ爲メ中少尉一名ヲ教官トシ下士若干名及師團司令部ヨリ派遣セラレタル陸軍技手ヲ助教トシテ附屬セシムヘシ
- 第三條 教官ハ電信術教育ニ關シ指揮及教授ニ任シ大隊長ニ對シ學術進歩ノ責ニ任ス
助教ハ教官ノ命ニ從ヒ各自分擔ノ業務ニ服ス
- 第四條 通信術教育ニ在リテハ陸軍電信教導大隊ニ於テ通信術ヲ修得シ歸隊シタル者ヲシテ益々實地ノ業務ニ習熟セシムル爲メ其學科及術科ヲ復習セシムルモノトス
- 第五條 大隊長ハ屯營附近電信ノ通信所長ノ承陪ヲ得テ練習ノ爲メ該通信所ニ通信手ヲ派遣スルコトヲ得
- 第六條 通信術教育ノ日課ハ毎日若干時ヲ之ニ充テ大隊長適宜之ヲ定ムヘシ
前項ノ日課ハ晝日ニ互リ之ヲ中絶セシムヘカラス
- 第七條 通信手ニハ教育順次表ニ示ス課目中手腕ヲ強固ナラシムル作業等ヲ施スヘカラス

明治三十六年一月 達 陸軍省陸軍第一號 工兵隊電信術教育令

第八條 通信手ノ學術ハ時々之ヲ試驗スヘシ

第九條 建築術教育ニ在リテハ電信建築術ニ係ル學科ヲ教授ヒシムルモノトス

第十條 大隊長ハ毎年概ネ左ノ人員ニ建築術修業ヲ命スヘシ

下士(以下ノニ充ツルコトヲ得)

上等兵(以上ノニ充ツルコトヲ得)

二等卒

二名
二名
十五名

前項ノ上等兵及二等卒ハ第二年兵タルヲ要ス

第十一條 建築術ノ修業期ハ概ネ六箇月トシ毎年四月上旬ニ始マリ九月下旬ニ終ル

修業時間ハ毎日概ネ一時間乃至二時間ヲ標準トス

第十二條 建築術修業ノ期末ニ於テ大隊長ハ試驗ヲ行ヒ優劣ノ順序ヲ定メ電信建築術修業證書ヲ

附與スヘシ

第十三條 前年ノ修業證書ヲ有スル者ハ第十一條ニ準シ復習セシムヘシ

附則

第十四條 各工兵大隊ニ於テ通信術ヲ卒業シタル者及鐵道大隊ニ於テ要請通信術ヲ修得シタル者

ノ復習モ亦本政令ニ準スヘシ

(修業證書之形式)

【參照】

明治三十四年三月陸軍省令第十八號ハ工兵隊電信術教育假手續ナリ

○陸軍省令第一號

鐵道大隊ニ於ケル電信術ノ教育ハ概ネ工兵隊電信術教育政令ニ準據スヘシ但シ建築術修業ノ人員

ハ當分ノ内毎年下士一名上等兵二名二等卒八名トス

明治三十六年一月二十一日

陸軍大臣寺內正毅

○海軍省令第一號

明治三十五年三月海軍省令第七十九號ハ定額補ノ増減ヲ定ムルノ件ナリ

明治三十六年一月十九日

海軍大臣野村胡堂

【參照】

明治三十五年三月海軍省令第七十九號ハ定額補ノ増減ヲ定ムルノ件ナリ

○海軍省令第一號

明治三十四年連第百八十四號發賣品表中左ノ一行ヲ加フ

明治三十六年一月二十七日

海軍大臣野村胡堂

○海軍省令第三號

海軍造船廠造兵廠兵器廠下瀬火藥製造所及海軍修理工場執務時間並ニ職工服業時間規定左ノ通定

明治三十一年連第七十九號ヲ廢ス

明治三十六年一月三十一日

一 高等官及官廳判任官以下ニ在テハ一日ノ執務時間ヲ八時間トシ工場判任官以下ニ在テハ之ヲ十時間製圖工場及分析工場判任官以下ニ在テハ之ヲ九時間トス

二 職工一日ノ服業時間ヲ十時間トシ製圖工場及分析工場職工ニ在テハ之ヲ九時間トス夜業ノ時間亦同

海軍大臣野村胡堂

- 三 土曜日も前各項ニ據ル
 - 四 前各項ノ時間中三十分間ヲ食事時間トス
 - 五 執務及服業時間ハ一箇年中晝夜ノ長短ト地方ノ情況トニ依リ前各項ノ制限ヲ短縮セサル限リニ於テ之ヲ伸縮スルコトヲ得而シテ其ノ時間及高等官以下ノ出場退場職工ノ起業停業及食事ノ時間ハ晝業夜業ニ区分シ所管長官之ヲ定メ海軍大臣ノ認可ヲ受クヘシ但高等官以下ノ退場時限ハ職工ノ晝業停止時限ト同一ニナスヘシ
 - 六 公休日ニ職工ヲ服業セシメ又ハ増服業ヲ爲サシムルハ所管長官限リ之ヲ施行スヘシ
- 海軍省違第四號
 建築工場裁判任官以下ノ執務時間ハ明治三十六年違第三號ヲ適用シ明治三十二年違第百九十八號ヲ廢ス

明治三十六年一月三十一日

海軍大臣明爵山本權兵衛

○宮内省違甲第一號

明治二十二年七月宮内省違第十一號中親王家ノ駐閣院宮ノ次ニ東伏見宮ヲ加フ

明治三十六年二月六日

奉勅

宮内大臣子爵田中光顯

〔參照〕

明治二十二年七月宮内省違第十一號ハ皇族職官等ノ件ナリ

○陸軍第三號

陸軍省試制服裝規則中左ノ通改正ス

明治三十六年二月四日

陸軍大臣寺内正毅

第四條 通常禮裝ハ正緒ヲ用フル外總テ軍裝ニ同シ

第十條 手袋ハ白色革製ノモノ下襟ハ白布製ノ立襟ヲ用フヘシ但シ手袋ハ軍裝ニ在テハ燻色、茶色及茶褐色革製又ハ莫大小製ノ四種ニ限ルモノヲ用フルコトヲ得

第十二條 夏衣ハ炎暑ノ際軍裝及通常禮裝ニ之ヲ著用スルコトヲ得但シ通常禮裝ニ在テ之ヲ著用スルトキハ夏袴ヲ併用スヘシ

夏袴ハ正裝ニテ室内ニ於ケル備式ニ列スルトキノ外炎暑ノ際何レノ服裝ニモ之ヲ著用スルコトヲ得

第十五條中「軍裝」ノ下ニ「及通常禮裝」ヲ加フ

第十七條中「正裝」ノ下ニ「及」ヲ加ヘ「禮裝」ノ下ニ「及通常禮裝」ヲ削リ「軍裝」ノ下ニ「及通常禮裝」ヲ加フ

〔參照〕

陸軍第九號理事軍試制服規則(明治三十四年二月十四日)抄録

第十四條 通常禮裝ハ肩章ヲ附セサル外總テ禮裝ニ同シ

第十五條 何レノ服裝ヲ同ハス手袋ハ白色革製下襟ハ白布製ノ立襟ヲ用フヘシ

第十六條 夏衣袴ハ夏季ノ際軍隊ニ之ヲ着用スルコトヲ得但夏袴ハ室内ニ於テ儀式ニ列スル時ノ外何レノ服裝ニモ之ヲ著用スルコトヲ得

第十七條 日置ハ夏季ノ際軍隊着用ノ場合ニ之ヲ用フルモノトス

第十八條 例ハ正禮禮裝及通常禮裝ニハ衣ノ上ニ軍裝ニハ衣ノ下ニ制帽ヲ結メテ之ヲ佩用ス正禮禮裝ハ例ニ附著ス

○陸軍第四號

陸軍省所管歳入收納取扱規程中左ノ通改正ス

明治三十六年二月四日

陸軍大臣寺内正毅

第二條中十五日以内ニ於テ適宜納期日ヲ定メ、ヲ十五日以内ニ於テ納期日ヲ定メ適宜ノ金庫(作業會計ノ收入ニ係ルモノハ二十日以内)ニ於テ納期日ヲ同條ニ左ノ二項ヲ追加ス

軍隊官衙學校等ニ於テ作業會計ニ屬スル歳入金ヲ納入セムトスルトキハ證據書類ニ納入告知書ヲ添ヘ當該仕拂命令官ニ送付シ仕拂命令官ハ作業所歳入徴收官ニ宛テタル仕拂命令ヲ發行シ納入告知書ト共ニ指定ヲ受ケタル金庫ニ送付スヘシ但シ指定金庫區域外ニ在ル仕拂命令官ニ在リテハ納入告知書ニ仕拂命令通知書ヲ添ヘ作業所歳入徴收官ニ送付スヘシ
指定金庫區域外ニ在ル者ヨリ納入スヘキ作業會計ノ歳入金ニシテ軍隊官衙學校等ノ前渡金ヲ以テ納入シ若ハ個人ヨリ納入スルモノニ在リテハ指定ノ金庫ニ對スル振替納金請求書ニ現金ヲ添ヘ適宜ノ金庫ニ差出シ其ノ振替證書ヲ得テ納入告知書ト共ニ指定ノ金庫ニ納入スヘシ

○陸軍第五號

臺灣陸軍補給廠運搬規程第八條ニ左ノ但シ書ヲ加フ

明治三十六年二月七日

陸軍大臣寺内正毅

但シ臺灣ヨリ歸還スル者ニ係ル船内馬糞ハ補給廠ニ於テ支辨セシ該廠ヨリ臺灣陸軍經理部ニ請求シ現品ノ交附ヲ受ケ之ヲ支給スヘシ

○陸軍第六號

陸軍ハ人軍屬ニシテ日本郵船株式會社及大阪商船株式會社ノ船舶ヘ乘込賃金減額ノ濰本年三月ニテ滿期ノ處尙ホ本年四月ヨリ明治三十九年三月迄三箇年間繼續ス

明治三十六年二月九日

陸軍大臣寺内正毅

○陸軍第七號

陸軍給與令細則中左ノ通改正ス

明治三十六年二月十二日

陸軍大臣寺内正毅

第四十一條第一項ニ左ノ但書ヲ加フ
但シ賄料ハ概算渡ニ依ラサルコトヲ得

第五十七條中 聯隊區司令部附トナリタル者ヲ「部隊ノ職務ニ就キ營外ニ居住スル者及豫備役後備役兵卒ニシテ憲兵上等兵トナリタル者」ニ改ム

○陸軍第八號

陸軍常備團隊配備表別紙ノ通改正セラレ

明治三十六年二月十四日

陸軍大臣寺内正毅

- 二 海軍醫者又ハ海軍監獄看守ノ職ニ在リタル者
 - 三 二年以上監獄看守又ハ陸軍監獄看守ノ職ニ在リタル者
- 第九條ノ二中前二條トマルヲ前二條ニ改ム

〔參照〕

海軍省通第百八十六號海軍醫者及海軍監獄看守採用規則(明治三十二年五月十一日)抄錄

第八條 現役ヲ退ケタル海陸軍下士及海陸軍下士タリシ者ハ試驗ヲ須キテ海軍醫者又ハ海軍監獄看守ニ採用スルコトヲ得

○海軍省通第百八十六號

海軍少尉候補生實務練習規則中左ノ通追加ス

明治三十六年二月五日

海軍大臣男爵山本權兵衛

第六條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第六條ノ二 練習艦ニ一艘以上ノトキハ試驗其ノ他練習ニ關シ首席將校其ノ統一ヲ計リ前條ノ報告

ハ之ヲ取總メ合併シテ順序ヲ定メ意見ヲ附シテ海軍教育本部長ニ報告(移牒)シ海軍教育本部長ハ海軍大臣ニ進達ス

○海軍省通第七號

海軍少機關士候補生實務練習規則中左ノ通追加ス

明治三十六年二月五日

海軍大臣男爵山本權兵衛

第五條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第五條ノ二 練習艦三艘以上ノトキハ試驗其ノ他練習ニ關シ首席將校其ノ統一ヲ計リ前條ノ報告

ハ之レヲ取總メ合併シテ順序ヲ定メ意見ヲ附シテ海軍教育本部長ニ報告(移牒)シ海軍教育本部長ハ海軍大臣ニ進達ス

○海軍省通第八號

海軍銃隊操式別冊ノ通改正ス

但別冊ハ總團部用ノ分ハ總團部ヨリ供給シ其他ハ之ヲ要スル向ニ海軍教育本部ヨリ配附ス

明治三十六年二月十三日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省通第九號

明治二十三年八月通第百八十五號ニ依リ下士卒拳銃射擊施行ノ際射場ニ臨望スル准士官以上ノ者ニハ自今一日五發以內ノ實包ヲ消費セシムルコトヲ得

明治三十六年二月十四日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省通第十號

軍艦機關部缺損修致令中左ノ通追加ス (追加略ス)

明治三十六年二月十四日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省通第十一號

今回大演習舉行中ニ現役滿期トナル者ハ海軍下士卒服役條例第四條ニ依リ共ノ服役ヲ延期ス

但シ服役ノ延期ハ本籍海兵團ニ在ル者ハ演習終了後之ヲ解除シ共ノ他ニ在ル者ハ演習終了後在籍海兵團ニ歸投ノ上之ヲ解除ス

明治三十六年二月十四日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第十二號

海軍准士官下士任用進級取扱規則中左ノ通改正ス

明治三十六年二月十七日

海軍大臣男爵山本權兵衛

第一條第一項中「艦隊ニ屬スルモノハ各共ノ艦隊司令長官ヲ艦隊司令長官ニ屬スルモノハ各共ノ要港部司令官ニ改ム」
第三條第一項中「艦隊其ノ他各部ノ長ヲ會同シテ下ニ要港部司令官ハ參謀長及要港内ニ在ル部下各部ノ長ヲ會同シテ加フ」

第四條中「艦隊司令長官ヲ艦隊司令長官及要港部司令官ニ改ム」

第五條第一項中「鎮守府及艦隊ヲ鎮守府、艦隊及要港部ニ艦隊ニ於テ任用進級セシムヘキ員數ヲ定メ之ヲ艦隊司令長官ヲ艦隊及要港部ニ於テ任用進級セシムヘキ員數ヲ定メ之ヲ艦隊司令長官及要港部司令官ニ改ム」

第六條第一項第二項中「鎮守府及艦隊司令長官ヲ鎮守府司令長官、艦隊司令長官及要港部司令官ニ改ム」

第七條第二項中「司令長官ヲ司令長官若ハ司令官ニ改ム」

第十條第二項中「司令長官ヲ司令長官若ハ司令官ニ改ム」

書式第三中右某鎮守府在籍員ノ下割註「艦隊ニ在テハ某鎮守府在籍員ヲ除ク」ニ改ム

○海軍省達第十三號

海軍武官増修規則中左ノ通改正ス

明治三十六年二月十七日

海軍大臣男爵山本權兵衛

第一條中「艦隊司令長官ノ下ニ及要港部司令官ヲ加フ」

第三條中「又該日數ハノ下ニ准士官以上ニ在テハヲ加フ」

第七條第一號中「艦隊司令長官ニ具申シ又ハ移轉スヘシ艦隊司令長官ヲ艦隊司令長官若ハ要港部司令官ニ具申シ又ハ移轉スヘシ艦隊司令長官若ハ要港部司令官ニ改ム」

同條第二號中「艦隊司令長官ノ下ニ要港部ニ於テ増修セシムヘキ者ハ要港部司令官ニヲ加フ」

同條第三號中「鎮守府司令長官及艦隊司令長官ヲ鎮守府司令長官、艦隊司令長官及要港部司令官ニ改ム」

○海軍省達第十四號

明治二十九年達第七十八號海軍卒進級條例ヲ海軍卒進級規則ニ改メ同則中左ノ通改正ス

明治三十六年二月十七日

海軍大臣男爵山本權兵衛

第一條中「本條例ヲ本規則ニ改ム」

第九條中「實役停年ニ算入スルコトヲ得ス」ノ下ニ「但シ收禁後無罪ノ宣告ヲ受ケタルモノニ對シテハ除算ノ限ニアラス」ヲ加フ

第十六條中「又ハ多年現役ニ服シ進級資格ヲ備ヘ且拔群ノ勳勞アル者ヲ又ハ多年現役ニ服シ進級資格ヲ備ヘ且拔群ノ勳勞顯著ノ成績若ハ俊秀ノ伎倆ヲ有スル者ニ改ム」

〔參照〕

海軍卒進級條例(明治二十九年九月十四日抄録)
第十六條 勳勞顯著ノ勳勞ニ關シテ勳章アル者又ハ多年現役ニ服シ進級資格ヲ備ヘ且拔群ノ勳勞アル者現役ヲ退キタルトキハ其ノ際特ニ進級セシムルコトヲ得但現職ヲ受ケタル資格ニ在テハ前職ニ依ル

○海軍省令第十五號

下士卒定員補充交代規則中左ノ通改正ス

明治三十六年二月十九日

海軍大臣 野山本權兵衛

第七條ヲ削除ス

第十四條第二項中「艦船乗組ノ卒ニシテ」ヲ「艦團其ノ他各部ノ下士卒ニシテ」ニ改メ「乗艦」ノ下ニ「若ハ勤務」ヲ加フ

第十七條第二項中「補充」其ノ員數ハ三四等水兵ノ定員ノ半數ヲ超ルコトヲ得ス」ヲ「補充」ニ改ム

第十九條中「常備艦隊司令長官」ヲ「艦隊司令長官」ニ改メ「遊撃隊司令長官」ヲ「交代」スルモノト

ス」ヲ「交代」ス又「回鑾隊司令長官」ノ增加下士卒ハ一組ヲ横須賀鎮守府ヨリ一組ヲ佐世保鎮守府ヨ

リ一組ヲ舞鶴鎮守府ヨリ補充交代シ四組以上ヲ要スルトキハ此順序ニ依リ各鎮守府ヨリ補充交代

スルモノトス」ニ改ム

第二十條ヲ削除ス

〔參照〕

海軍省令第十二號下士卒定員補充交代規則(明治三十四年三月二十日)抄録

第七條 艦團其ノ他各部ノ定員缺員ヲ生ズルモ各兵種定員ノ十分ノ一ニ達セザレバ其ノ補充ヲナサズルヲ例トス但シ軍港

所在ノ各部水師軍港ニ駐泊シテ外國艦船ニ在リハ此ノ限ニテナラズ

第十四條 艦團其ノ他各部ノ長ハ遊撃隊司令長官等ノ部ニ部下士卒所定等級ノ定員ニ超過スルトキハ遊撃隊司令長官

鎮守府ノ海兵團司令長官等ノ部ニ部下士卒ハ該期日ヲ待ツモノトス

艦團乗組ノ卒ニシテ前項ニ載セズル者アルトキハ該支隊中限リ艦團ノ久シキ者ヨリ次ヲ區テ入團セシムルモノトス

第十七條 水師軍港駐在ノ定員ニ充テハ三四等水兵ハ該兵ノ以テ補充シ其ノ員數ハ三四等水兵ノ定員ノ半數ヲ超ルコト

第十九條 常備艦隊司令長官艦隊回鑾隊司令長官ノ增加定員タル下士卒ハ横須賀鎮守府ヨリ回鑾隊增加定員タル
下士卒ハ一組ヲ舞鶴鎮守府ヨリ一組ヲ佐世保鎮守府ヨリ一組ヲ舞鶴鎮守府ヨリ補充交代シ四組以上ヲ要スルトキハ此ノ順
序ニ依リ各鎮守府ヨリ補充交代スルモノトス
第二十條 佐世保鎮守府司令長官ハ竹敷要港勤務ノ下士卒ヲ約二箇年毎ニ又馬公要港勤務ノ下士卒ヲ約十八箇月毎ニ
其ノ他ニ在下士卒ト交代セシムル但シ特種ノ職務ニ充ツルモ若ハ引續キ其ノ地勤務ヲ志望スル者ハ交代セシムル
モノトス

○海軍省令第十六號

海軍陸上工作教範別冊ノ通定ム

但別冊ハ艦團部用ノ分ハ艦營部ヨリ供給シ其ノ他ハ之ヲ要スル向ヘ海軍教育本部ヨリ配附ス

(別冊略ス)

明治三十六年二月二十四日

海軍大臣 野山本權兵衛

○海軍省令第十七號

本年三月施行スル下士卒ノ進級試験科目ハ雜問ノモトス

但シ雜問中ニ學科目ニ關スルモノ三ノ試問ヲ加フヘシ

明治三十六年二月二十四日

海軍大臣 野山本權兵衛

○會計検査院令第一號

明治三十四年五月會計検査院令第二號租稅徵收證明規程中左ノ通改正ス

明治三十六年二月三日

會計検査院長 法學博士 野田尻稻次郎

第六條中第二號第三號及第五號ヲ左ノ如ク改ム

一 營業稅法第十七條ニ依リ課稅額ヲ算定シタルモノアルトキハ其金額

三 營業税法第二十八條ノ一ノ規定ニ從ヒ處分シタルモノアルトキハ其決定ニ關スル書類
 五 營業税法第二十八條ノ四ニ依リ決定シタルモノアルトキハ其裁決書又ハ裁判宣告書ノ原本
 第七條第一號及第二號中混成酒稅ヲ削除ス
 第十四條第一號中第四十一條ヲ第三十條ニ改ム
 第十六條中稅務署及稅務支署毎ニヲ削除ス
 第一號乃至第七號書式表紙中「何府縣分」ヲ削除ス
 第一號及第四號書式中「稅務管理局及府縣」ヲ「稅務署」ニ改ム
 第一號書式内際中表紙備考ノ第四及第五所得稅摘要ノ「税法第三十一條ニヨリ追加營業稅摘要ノ
 申告セサル營業者ニ對シ賦課ノ分同備考ノ（施行規則第十六條第二項ニ該當スルモノ）砂糖消費
 稅備考ノ第二ヲ削除シ砂糖消費稅査定高ノ欄課稅高ノ次ニ砂糖、糖水又ハ酒精製造ノ原料ノ一
 區ヲ加ヘ營業稅ノ資本受負報償金額ヲ「資本收入受負報償金額」ニ改ム
 第六號書式摘要中「何々（目）及備考中及保證金ヲ沒收セシモノ」ヲ削除ス
 第七號書式表紙備考中第五條第二項ノ下ニ第十一條ノ一ノ第四項ヲ加フ
 ○會計檢査院第二號
 明治三十四年六月會計檢査院第四號租稅外歲入徵收額證明規程第三條第六號ヲ左ノ通改ム
 明治三十六年二月三日 會計檢査院長法學博士男爵田尻稻次郎
 六 督促手摺料、國稅滯納處分費ノ引繼引受ヲ爲シタルモノアルトキハ各稅務署ニ區分シ共金
 領事由

朕ハ軍亦ノ進歩ニ伴ヒ野戰砲兵操典ヲ改正シ茲ニ之ヲ頒布セシム
 本操典ハ勉メテ制式ヲ單簡ニシ以テ應用ノ餘地ヲ存セリ故ニ各職ノ徒ラニ外形ノ齊一ヲ期シ漫リ
 ニ細密ナル規定ヲ作リ此餘地ノ範圍ヲ減縮スルヲ許サス
 明治三十六年一月
 ○陸軍第十一號
 野戰砲兵操典別冊ノ通改正セラル (別冊略ス)
 明治三十六年三月九日 陸軍大臣寺內正毅
 ○陸軍第十二號
 野戰砲兵射擊法範別冊ノ通改正セラル (別冊略ス)
 明治三十六年三月九日 陸軍大臣寺內正毅
 ○陸軍第十三號
 擲彈天蓋製式及使用法別冊ノ通定ム
 明治三十六年三月十九日 陸軍大臣寺內正毅
 (別冊)
 擲彈天蓋製式及使用法
 擲彈天蓋ノ製式
 擲彈天蓋ノ地質ハ木箱及麻ノ交織製ニシテ各邊一米五〇ノ正方形トス而シテ其四隅ニハ支柱ヲ貫
 シテ其支柱ヲ鐵釘ニシテ之ニ「アルミニウム」製ノ鳩目ヲ裝シ又其二邊ニハ「アルミニウム」製ノ鐵板鳩目七
 箇ヲ設テ之ニ麻紐ヲ附係シ通シ他ノ二邊ニハ單ニ「アルミニウム」製ノ小鳩目孔七箇ヲ設ケ之ニ

他ノ天幕ノ階係ヲ貫キ之ヲ連接スルノ用ニ供ス(第一圖)

支柱ハ脫脂樺材若ハ之ニ類スル木材ヲ以テ製シ其三節ヲ接續シテ用フルモノトス而シテ各一節ノ長ハ〇米四五トシ其兩端ニハ鋼製ノ接續用金具ヲ附ス(第二圖)

控杭ハ樺若ハ之ニ類スル木材ヲ以テ製シ其長サ〇米二七トス而シテ確實ニ土中ニ固定スル爲メ共一邊ヲ凸起セシム(第三圖)

二 携帶天幕階係法

兵卒一人ノ携帶スヘキ材料ハ幕布一、支柱一節、控杭二節及張綱トス而シテ背囊ヲ有スル者ハ第四圖ニ示ス如ク支柱及控杭ヲ幕布内ニ包ミ支柱ノ長ニ卷キ之ヲ背囊ノ上端外套外面ニ附著シ又乘馬ノ者ハ之ヲ鞍尾ノ外套外面ニ裝著スルモノトス

三 携帶天幕著裝法

携帶天幕ヲ雨蓑代用ニ裝裝スルニハ第五圖ニ示ス如ク幕布ノ裏面ニ附著スルbcノ紐ヲ以テ頸部ニbfノ紐ヲ以テ腰部ニ纏結シq及r角ヲ前方ニ翻シテ角紐ト線紐トヲ結合シ筒袖狀ト成スモノトス

四 幕舎ノ構造法

總テ幕舎ヲ構造スルニハ支柱ノ下端地中ニ埋没セサルカ爲メ其基礎ニ必ス木片若ハ瓦石等ヲ置ク

一 一幕布ヲ以テ一人ノ幕舎ヲ構造スルニハ幕ノ對角二箇所ヲ控杭ニテ固定シ其一隅ヲ揚ケ樹幹等ニ結束スルモノトス(第六圖)

二 二人ノ幕舎ハ第七圖ノ如シ但支柱ニハ應用材料ヲ用フルモノトス

三 三人ノ幕舎ハ第八圖ノ如シ而シテA部ハ可成銳角トナシ風ノ來ルヘキ方向ニ對セシムルモノトス

四 四人ノ幕舎ハ第九圖ノ如シ此構造ハ夏季炎暑ノ際之ヲ用ヒテ利アリトス

若シ六人ノ幕舎ヲ用フル時ハ廣瀬ナル夏季幕舎ヲ構造スルコトヲ得(第十圖)

五 六人入り幕舎ノ構造法(第十一圖)

六箇ノ携帶天幕ヲ接合シ之ヲ以テ二箇ノ傾斜庇蓋ヲ成形式而シテ幕舎ノ一側ニハ階段ヲ付シタル出入口ヲ設ケ其反對側ハ藁、枯草等ヲ以テ閉塞ス此構造ハ優ニ七八ヲ容ル、ニ足ルヲ以テ此場合ニハ第七ノ幕布ハ出入口ノ被覆ニ供スヘシ

六 二十四人入り焼火幕舎ノ構造法(第十二圖)

先ツ燒火位置ノ周圍ニ八箇ノ幕布ヲ並列シ其幕布内部ノ角端ヲ互ニ接疊シ此ニ支柱ヲ植立ス次に外部布末ヲ基彈トシテ圓形若ハ八角形ヲ畫キ其後燒火位置ノ周圍及ヒ外地ニ於テ土壤若ハ料草ヲ掘開シ之ヲ以テ外部圓形線ニ準シ高サ約一米五〇ノ堆土ヲ作り且適宜ノ方面ニ開口〇米七五ノ通行口ヲ設ク堆土形既ニ完成スルトキハ直ニ八箇ノ幕布ヲ植立支柱ト堆土間ニ緊張シ其各幕布間ニ存スル三角形ノ空間ハ更ニ八箇ノ幕布ヲ以テ被閉ス之カ爲メ一幕布ノ中央ヲ支柱ニ緊結シ尙ホ其外方ニ角端ヲ堆土上ニ結束シ剩餘ノ布端ハ内部ニ疊ミ入ル、モノトス又他ノ八幕布ハ必要ニ際シ幕舎内面ノ帷帳トシテ掛下ス

七 三十八人入り防寒幕舎ノ構造法(第十三圖)

此構造ニハ天幕二十四箇及支柱八本ヲ用フ先ツ地上ノ雪ヲ掃除シ八箇ノ幕布ヲ採リ各列四幕宛ヨリ成ル三列即チ圖上ABCDノ形狀ニ並列シ全部一枚ノ如ク接合シ其中央ノ四幕ハ各第三孔ヨリ

接續シ其遊離幕障ハ網罟シテ方形ノ排煙口ヲ開クモノトス而シテ此ノ如ク接合セル八幕布ヲ以テ幕舎ノ庇蓋ト成シA B C Dノ四點ニ支柱ヲ植立シテ之ヲ支持ス但シ支柱ノ顛倒ヲ防クカ爲メ張網ヲ其頂ニ繫結シ互ニ強ク之ヲ緊張シ網罟ヲ地上ニ杭止スヘシ又殘餘ノ支柱四箇ハ中央適宜ノ部位ニ植立シテ庇蓋ノ垂下スルヲ防グモノトス
 庇蓋既ニ完成セバ其周縁ニ幕布十二箇ヲ接合シ各幕布ノ下端ハ杭ヲ以テ地上ニ固定シ然レ後其周邊ニ雪塊ヲ散布シ且之ヲ踏固スヘシ又四箇ノ隅角ニハ對角線ニ準シ二折セル三角幕片ヲ懸張ス而シテ其風向ニ反スル一隅ハ出入口ノ爲メ接合セサルモノトス
 八幕塊ノ圓堆ヲ有スル三十八乃至四十八入幕舎ノ構造法(第十四圖)
 燎火位置ノ中心ニ支柱ヲ植立シ約三步ノ半徑ヲ以テ圓周ヲ畫キ此圓周ニ接觸シテ八幕布ヲ竝列シ其内角隅ニ支柱ヲ貫キ幕布ノ外周ニ準シ風向ニ反スル位置ニ出入口一部ヲ除キテ雪塊ノ堆積ヲ構造ス
 堆積ハ幅〇米七五高一米五〇トス
 堆積完成セバ天幕ノ外端ヲ牆上ニ繫結シ内端ハ支柱ヲ植立セシメテ之ニ固定ス而シテ八幕布間ノ空隙ハ他ノ幕布ヲ以テ閉鎖シ此幕布ハ空隙ニ應ムルカ如ク折疊シ前八幕布ニ固定セシム此ノ如クシテ庇蓋ハ十五箇ノ幕布ニ依リ完成スルモノトス
 燎煙ノ幕舎内ニ濕溢スルヲ防クニハ庇蓋ノ内端ニ八箇ノ幕布ヲ懸張シ無風ニ當テハ之ヲ揚ケ置クハレ
 出入口モ亦一幕布ヲ垂下ス故ニ該幕舎ヲ構造スルニ要スル幕布全數ハ二十四箇トス而シテ殘餘ノ天幕ハ地上ニ敷キ防濕ノ要ニ供スヘシ此ノ如キ幕舎ハ能ク三十乃至四十八ヲ休臥セシムルコトヲ得
 (圖第十四)

○陸軍第十四號

明治三十四年陸軍第七十七號陸軍官舎取扱規則附表中左ノ追加除ス

明治三十六年三月二十一日

陸軍大臣寺內正毅

- 一 二等甲ノ代渡區分ノ畫ニ聯隊附中佐、二等衛戍病院長ヲ加フ
- 二 二等乙ノ代渡區分ノ畫中二等衛戍病院長ヲ削ル

○陸軍第十五號

明治三十三年陸軍第四十二號中左ノ通改正ス

明治三十六年三月二十三日

陸軍大臣寺內正毅

陸軍省所管歳入收納取扱規程第七條第一項ニ左ノ但書ヲ加フ
 但年度最終ノ徴收報告書ニハ豫算額ニ對シ收入濟額ノ増減事由書(陸軍省規程第二十七條)添付スヘシ

○陸軍第十六號

明治三十五年陸軍第二十一號中左ノ通改正ス

明治三十六年三月二十三日

陸軍大臣寺內正毅

陸軍省規程第二條ニ左ノ一號ヲ加フ
 第二十七 歳入豫算額ニ比シ收入濟額増減事由書(後條第二十四)

同附屬様式第一甲中但書ヲ左ノ通改ム
 但シ歳入起因ニ關スル法令契約等取調書及各目明細書等ハ別紙様式第一乙ヨリ辛ニ至ルノ通同附屬様式中第九、第十四、第十五、第十六ヲ別紙ノ通改メ第一様式ニ丙、丁、戊、己、庚、辛及第二十

四ヲ加フ

(別紙略ス)

○陸軍第十七號

明治三十四年陸軍第二十四號陸軍馬匹拂下規則中左ノ通改正ス

明治三十六年三月二十四日

陸軍大臣寺内正毅

第三條ニ左ノ一項ヲ加フ

天災其他止ムヲ得サル事故ニ依リ前項ノ馬數ヲ拂下クルコト能ハサルトキハ軍馬補充部部長

ハ其數ヲ減スルコトヲ得此場合ニ於テハ其旨ヲ報告シ同時ニ所管長官ニ之ヲ通報スヘシ

第六條 軍馬補充部部長ハ各支部長ヲシテ拂下馬匹ニ就キ抽籤シ各所管ノ配當ヲ定メ毎年十一

月上旬其馬匹名簿寫ヲ各所管乘馬委員長ニ交付セシムヘシ

乘馬委員長ハ交付ヲ受ケタル馬匹名簿寫ニ就キ拂下希望者ヲシテ抽籤ヒシメ拂下馬匹ノ配當ヲ

定メ所管長官ニ報告スヘシ

乘馬委員長ハ第十五條第一項第一號ニ依リ拂下ヲ辭スル者アルトキハ其馬名ヲ十一月中旬内ニ

軍馬補充部部長ニ通報スヘシ

軍馬補充部部長ハ前項ノ通報ヲ受ケタル後拂下馬匹ヲ十一月下旬ニ至リ所管長官ニ送付スヘシ

第七條中「受ケタル」ヲ「受ケタル」ニ改ム

第十五條 拂下馬匹左ノ各號ニ該當スル場合ニ在テハ拂下ヲ辭スルコトヲ得但シ之カ爲メ代馬ヲ

交付スルコトヲキモノトス

一 拂下希望者ノ希望ニ適セサルトキ但シ十一月中旬内ニ申出ルコトヲ要ス

二 拂下馬匹輸送途中ニ於テ癩癧ニ屬シタルトキ

三 拂下馬匹交付後ト雖トモ其交付當日ヨリ起算シ左ノ期限内ニ左ノ病癩アルヲ發見シタル

トキ

イ 月 盲 三十日間

ロ 黒内障 三十日間

ハ 白内障 三十日間

ニ 疳 癩(但シ空中ニテ齧癩スルモノニ限ル) 七日間

ホ 疥 癩 七日間

前項第二號第三號ニ依リ拂下ヲ辭シタル者アルトキハ乘馬委員長ハ之レヲ軍馬補充部部長ニ

通報スヘシ

第十六條 前條ニ依リ馬匹拂下ヲ辭シタル者ハ翌年再ヒ拂下ヲ出願スルコトヲ得

(參照)

附錄第二十四號陸軍馬匹拂下規則(明治三十四年四月十七日)抄録

第三條 拂下馬數ハ各所管乘馬ノ數ニ應ジ豫メ所管長官及軍馬補充部部長ニ内達ス

第六條 拂下馬ハ軍馬補充部部長毎年十一月下旬所管長官ニ交付ス所管長官ハ乘馬委員長ニ命シテ適宜配當セシムルモ

ノトス

第七條 拂下馬ノ代價ハ百圓トス但支那ヨリ交付地迄ノ輸送費ハ拂下ヲ受クル者ノ自辨トス

第十五條 拂下馬匹輸送途中ニ於テ癩癧ニ屬スルコトアルモ當該軍馬補充部支部ハ之レカ代馬ヲ交付スルコトヲキモノトス

第十六條 前條ニ該當スル場合ニ於テハ乘馬委員長ハ拂下希望者中必要上ノ緩急ヲ識リ翌年拂下ノ部ニ組ミ入レ其旨ヲ本

部ニ通報スルモノトス

○陸軍第十八號

步兵射擊教範別冊ノ通改正セラル (別冊略ス)

明治三十六年三月二十五日

陸軍大臣寺内正毅

陸軍省陸軍第十八號

二五

○陸軍第十九號

憲兵服務規程中左ノ通改正ス

明治三十六年三月二十七日

陸軍大臣寺內正毅

- 第一條中ニ報告スヘシヲ「ノ報告ヲ請フヘシ」ニ改ム
- 第六條 憲兵分隊長ハ其ノ分隊ヲ撤班ニ分テ准士官下士上等兵ヲ各班ニ配屬シ又適宜憲兵班ヲ共ノ分遣所ニ配置スヘシ
- 第六條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ
- 第六條ノ二 憲兵分隊長ハ常ニ部下ノ勤惰ヲ監視シ其ノ情況ヲ憲兵隊長ニ報告スヘシ
- 憲兵分隊長職務上其ノ管内巡視ヲ要スルトキハ豫メ憲兵隊長ノ認可ヲ請フモノトス
- 第七條 副官ハ所屬上官ノ命ヲ承ケ文書ノ審査、起草ヲ掌リ廳印及圖書ヲ管守シ其ノ他部内一切ノ庶務ニ服ス
- 第九條 憲兵班長ハ分隊長ノ指揮ヲ承ケ勤務ニ服シ且部下下士上等兵ヲ指揮監督ス
- 第十三條第十四條及第十五條削除

〔參照〕

- 陸軍部第十一號憲兵服務規程(明治三十一年十一月三十日)抄録
- 第一條 憲兵司令官ハ憲兵服務細則ヲ定メ陸軍大臣ニ報告スヘシ
- 第六條 憲兵分隊長ハ部下士官以下ニ勤務ヲ命ジ若クハ准士官下士上等兵ヲ各憲兵屯所ニ配屬指揮シ又必要ニ依リ警察區内ヲ巡視スルモノトス
- 第七條 副官ハ憲兵司令官又ハ憲兵隊長ノ命ヲ承ケ部内庶務ノ事務ヲ處理ス
- 第九條 憲兵班長ハ屯所長トシテ屯所ノ事務ヲ處理ス但シ屯所ニ二班以上ヲ置クトキハ高級故參ノ班長ヲ其ノ屯所長トス

第十三條 憲兵司令官及憲兵隊長不在ノトキハ高級副官若ハ副官ヲシテ其ノ事務ヲ取扱ハシム

第十四條 憲兵分隊長不在ノトキハ其ノ所在地ノ屯所長ヲシテ其ノ事務ヲ取扱ハシム

第十五條 屯所長不在ノトキハ高級副官若ハ下士又ハ故參上等兵ヲシテ代理セシム

○陸軍第二十號

明治三十五年陸軍第六十二號中左ノ通改正ス

明治三十六年三月二十七日

陸軍大臣寺內正毅

- 「清國駐屯軍」ノ下ニ「清國駐屯軍」ニ係ルモノハ清國駐屯軍司令部附高級故參ノ監督(監督アラサルニ加テ)ヲ加テ
- 「第四ノ但書」ヲ左ノ通改ム
- 但シ清國駐屯軍以外ニ在テハ左ニ掲グルモノヲ除ク

○陸軍第二十一號

明治三十五年陸軍第三十八號中左ノ通改正ス

明治三十六年三月二十七日

陸軍大臣寺內正毅

- 第二條中「又ハ經理部長」ヲ「經理部長又ハ清國駐屯軍司令部附高級故參ノ監督(監督アラサルトキハ)ニ改ム
- 陸軍第二十二號
- 明治三十六年度申筋成病院條例第七條ノ定額ハ一日金十四錢二區同條例第九條ノ定額ハ一日金三錢屯田兵移住給與規則第十六條ノ代價及明治二十五年陸軍第二十六號ノ定額ハ一日金三錢二區七歲未満ノ者ハ其半額トス

明治三十六年三月二十七日

陸軍大臣寺內正毅

【參照】

勅令第二十七號前成病院條例(明治三十一年二月二十一日官報)抄録
 第七條 入院患者ノ治療ニ關スル諸費ハ病院ノ支辨トス但進士官以上及自費服役ノ一年志願兵並軍屬ニシテ其ノ傷疾疾病
 公務ニ起因セサル者又ハ公務ノ爲傷疾疾病ニ感染シテ手當金ヲ受ケタル者ハ其ノ定額ヲ納付セシム
 第九條 寮外居住タル軍人軍屬ノ患者ハ入院ヲ要スル者ノ外衛成病院ヨリ醫物療用品ヲ與フルコトナシト雖モ土地ノ情況
 又ハ救急處置等ノ爲メ止ラ得サル場合ニ限リ軍醫ノ處方ニ據リ之ヲ與フルコトヲ得但共ノ傷疾疾病公務ニ起因セサル者
 又ハ公務ノ爲傷疾疾病ニ感染シテ手當金ヲ受ケタル者ハ代價ノ定額ヲ納付セシム
 勅令第九十六號屯田兵移住給與規則(明治二十七年七月十二日官報)抄録
 第十六條 屯田兵ノ家族ニシテ傷疾ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹ル者アルトキ其ノ醫藥等ハ屯田兵移住後滿三年間ハ之ヲ官給
 シ爾後現役期間滿ル迄ハ豫メ定ムル所ノ代價ヲ徴收シテ之ヲ付與スルコトヲ得
 陸軍部第二十六號(明治二十五年三月三十一日)
 北滿鐵ニ於テ藥局ナキ地方又ハ藥局アルモ止ムヲ得サル場合ニ當リ官費治療ヲ受ケサル軍人軍屬及其家族ニシテ軍醫ノ處
 方醫ヲ以テ藥劑等ヲ特ニ請求シタルトキ屯田兵部隊ノ藥室ヨリ之ヲ與フルコトヲ得但軍人軍屬ノ傷疾疾病公務ニ起因ス
 ルコトヲ證明スルモノハ他ハ其定額ヲ納メシム

○陸軍部第二十三號

明治二十九年陸軍部第五十一號中左ノ通追加ス
 但シ實施期日ハ明治三十六年四月一日トス

明治三十六年三月二十八日

第五號中砲兵工廠ノ下ニ製造所長ノ四字ヲ加フ

陸軍大臣寺內正毅

【參照】

明治二十九年四月十日陸軍部第五十一號ハ藥局水分者中當分藥局ヲ簡裁セシメサル者ノ件ナリ

○陸軍部第二十四號

清國駐劄陸軍部隊給與令細則中左ノ通改正シ明治三十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
 第十條第一項中金二十五錢ヲ金三十五錢ニ改ム

陸軍大臣寺內正毅

○陸軍部第二十五號

陸軍大學校學生候補名簿書式別紙ノ通改ム

明治三十六年三月三十一日

陸軍大臣寺內正毅

(別紙)

陸軍大學校學生候補名簿

官 姓 名	陸軍(何)兵中(少)尉 姓 名	陸軍(何)兵中(少)尉 姓 名
陸軍 出 身	陸軍補充條例第七條 一(二)三項該當者	士官學校卒業序列
所 管 職 名	何々	年 齡
少 尉 任 官	何年何月何日何兵少尉	役 職
賞 何	何々	何年何月何日何々ノ科ニ 依リ(應)該當何日
將 校 服 役 年 數	七月一日調 何年何箇月何日	陸軍服 何年何箇月何日 隊外勤務 何年何箇月何日
備	性質志氣體格 出身前ノ經歷及出身時ノ景況 勤務 學術及特有ノ技能 職務心及品行 家政家計 突際ノ景況 既往ノ變及將來ノ見込 受給證書	
考	十一 特ニ注意スル件 水陸ノ所見トシテ記載スル件ハ特ニ擔保ノ費ニ任スル者ニ記名ス	聯(大)隊長 姓 名 自印

右陸軍大學校學生候補ニ適當スルコトヲ確認ス

所管長官

姓

名 職印

○陸軍第二十六號

三十年式銃狹窄射擊實包制式別紙圖面ノ通定

但シ木文制定ニ關シ明治三十四年一月陸軍第二號三十年式銃空包填替器中狹窄射擊實包兩裝器具別紙ノ通追加ス。(別紙略ス)

明治三十六年三月三十一日

陸軍大臣寺內正毅

○陸軍第二十七號

陸軍喇叭譜同目次同所用區分表中左ノ通改正ス。(改正略ス)

明治三十六年三月三十一日

陸軍大臣寺內正毅

○陸軍第二十八號

陸軍給與令細則中左ノ通改正シ明治三十六年四月一日ヨリ施行ス

明治三十六年三月三十一日

陸軍大臣寺內正毅

第五十二條 水令第三十條ノ服裝手當及馬裝手當ハ一回限リ辭令交付ノ職ニ於テ之ヲ給ス

第五十三條 軍隊憲兵隊軍樂隊憲治隊諸學校及病院ニハ左ノ各號ニ依リ金額ヲ交付シ下士以下

ノ被服及備附被服ヲ新調補修セシム共ノ被服ノ種類定數及保存期限ハ第一表及第三表ニ依ル

一 各兵科下士兵卒總職工長及樂手、樂手初ニ在リテハ共ノ定員トナス者ヲ除クニ應シ第四表

ノ年額ヲ交付ス

二 計手、營治隊附下士及諸學校附下士ニ在リテハ營內居住ノ人員ニ應シ第四表ノ年額ヲ交付ス

三 鞍銃、水鏡、蹄鐵工長及看護長ニ在リテハ共ノ定員ニ應シ第四表ノ年額ノ二分ノ一ヲ交付ス

四 輪卒ニ在リテハ共ノ定員ニ應シ第四表ノ年額ヲ共ノ入營回數ヲ以テ除シタル金額ヲ交付ス

五 看護卒ニ在リテハ共ノ入營人員ニ應シ第四表ノ年額ノ三分ノ一ヲ交付ス

六 學校附喇叭卒ニ在リテハ共ノ現人員ニ應シ第四表ノ年額ヲ交付ス

七 士官候補生、監督候補生、見習醫官、見習藥劑官、見習翻譯官、下士候補生ニ在リテハ共ノ現人員及其ノ在營月數(日數)ニ應シ第八表ノ月額ヲ交付ス

八 備附被服ニ在リテハ共ノ定數ニ應シ第六表ノ年額ヲ交付ス

第五十四條 諸學校ニハ左ノ各號ニ依リ金額ヲ交付シ生徒ノ被服ヲ新調補修セシム共ノ種類定數

及保存期限ハ第二表ニ依ル

一 初年生ニ在リテハ共ノ召募人員ニ應シ第五表ノ初年額ヲ交付ス

二 二年生以上ニ在リテハ各其ノ人員ニ應シ第五表中該年額ヲ交付ス

第五十五條 新設部隊ニハ其ノ人員及備附被服ノ數ニ應シ定員増加ノ部隊ニハ人員及備附被服ノ

増加數ニ應シ一回限リ前二條ノ外第六表及第七表ノ初年度額ヲ交付シ第一表及第三表ノ被服ヲ新

調セシム

第五十六條 鐵道大隊、總治隊及諸學校ニハ分遣若ハ入校中營内ニ居住セシムヘキ下士以下ノ人員ニ應シ第四表ノ入學分遣者ノ年額ヲ交付シ第三表備考一ノ備附被服ノ新調補修及該下士以下所持被服ノ補修ヲナサシム

第五十七條 左ノ品種ハ現品ヲ以テ交付シ其ノ代金ハ前四條ノ金額ヨリ之ヲ控除ス
各種絨、厚毛布、各種雲蓋、厚織木綿、
厚織麻布、軍靴、幼年學校生徒、飯盒、水筒

前項現品ノ價格及地質ノ定尺ハ別ニ之ヲ定ム

第五十八條 軍隊ニハ六週間現役兵召集中ノ豫備後備役下士以下及補充兵ノ被服補修費トシテ共ノ現人員及在營日數入營當日ヨリニ應シ第八表ノ日額ヲ交付ス

第五十九條 營内居住ノ下士以下、憲兵下士上等兵、樂手及樂手補ニハ共ノ所屬部隊ニ於テ第一表及第二表ニ依リ被服ヲ貸與ス但シ襟布、手套及靴下ハ之ヲ本人ニ給スルコトヲ得
召集中ノ豫備後備役下士以下及補充兵ニハ第一表ノ被服ヲ其ノ所屬部隊ノ貯藏品ヨリ貸與ス

營外居住ノ下士ニシテ軍隊ニ附屬中背囊、飯盒、水筒等ノ必要アル場合ニ在リテハ該隊ノ貯藏品ヲ以テ貸與スルモノトス

第六十條 學校附屬隊ニハ第一表中背囊、飯盒、水筒ヲ必要ニ依リ貸與シ其ノ他ノ被服ハ代金ヲ以テ給ス其ノ月額日數ニ歩兵科ハ一圓四十錢騎兵科ハ二圓二十九錢トス

第六十一條 第三表ノ備附被服ハ共ノ用途ニ依リ宿番者、患者、看護者等ニ貸與ス

第六十二條 豫備後備役下士ニシテ部隊ノ職務ニ就キ營外ニ居住スルトキ及同兵卒ニシテ憲兵上等兵ヲ命セラレタルトキハ一回限リ第七表ノ定額ヲ該部隊ニ交付シ第九表ノ被服一揃ヲ新調支給セシム但シ憲兵上等兵ニ在リテハ帽、前立、日覆衣袴、外套、雨覆ハ之ヲ貸與スルモノトス

經理ヲ委任セサル官衙ニ在リテハ前項ノ被服ハ其ノ定額内ニ於テ實費支辨スルモノトス

第六十三條 營内居住下士以下現役ヲ離レ又ハ歸休ヲ命セラレ又ハ免官、免役、退學者ニ依リ歸郷スルトキハ季節ニ應シ其ノ所持被服中第九表ノ被服ヲ給ス但シ免官、免役、退學者ニ給スル場合ニハ徽章及記號ヲ除去ス

輸卒、看護卒、第一補充兵及六週間現役兵ニハ前項ノ被服ヲ給セス

第六十四條 營内居住及召集中ノ下士以下死亡シタルトキハ共ノ所持被服中第九表ノ被服ヲ殯殮ノ用ニ供ス
憲兵上等兵及樂手補死亡シタルトキハ貸與中ノ帽、夏、冬、各一著ヲ殯殮ノ用ニ供ス

第六十五條 下士以下其ノ所屬ヲ轉スルトキハ共ノ被服ハ左ノ各號ニ依ル
一 營内居住者互ニ相轉スルトキハ第九表ノ時服、所持品中最ヲ著裝セシム
二 憲兵上等兵及樂手補共ノ所屬ヲ轉スルトキハ帽、前立、日覆衣袴、外套、雨覆各一著、貸與品中ノヲ進行セシム

三 營内居住ノ下士營外居住ニ轉スルトキハ第九表ノ被服一揃所持品中最ヲ給ス但シ制式ヲ異ニスル場合ニ在リテハ原部隊ノ經理ヲ以テ改修又ハ新調スルモノトス

四 營内居住ノ兵卒憲兵上等兵ニ轉スルトキハ前項ニ準シ被服ヲ携行セシム但シ幟前立日覆衣袴外番雨襪ヲ除外ハ本人ニ給ス

五 諸生徒卒業任官等ノ爲メ軍隊ニ編入セラレタルトキハ第九表ノ時服所持品中最新ノ被服ヲ著裝セシム

六 地方幼年學校生徒中央幼年學校ニ轉入スルトキハ第九表ノ被服ヲ携行セシム

第六十六條 憲兵上等兵ヨリ下士ニ樂手補ヨリ樂手ニ進級シタルトキハ貸與被服中幟前立日覆衣袴外番雨襪各一揃ヲ給ス

第六十七條 幼年學校特待生半時待生及自費生ノ待遇ヲ變更スル場合ニハ從來ノ被服ヲ其ノ儘應用セシム其保存期限ヲ經過シタル後第二表ニ依リ被服ヲ貸與ス

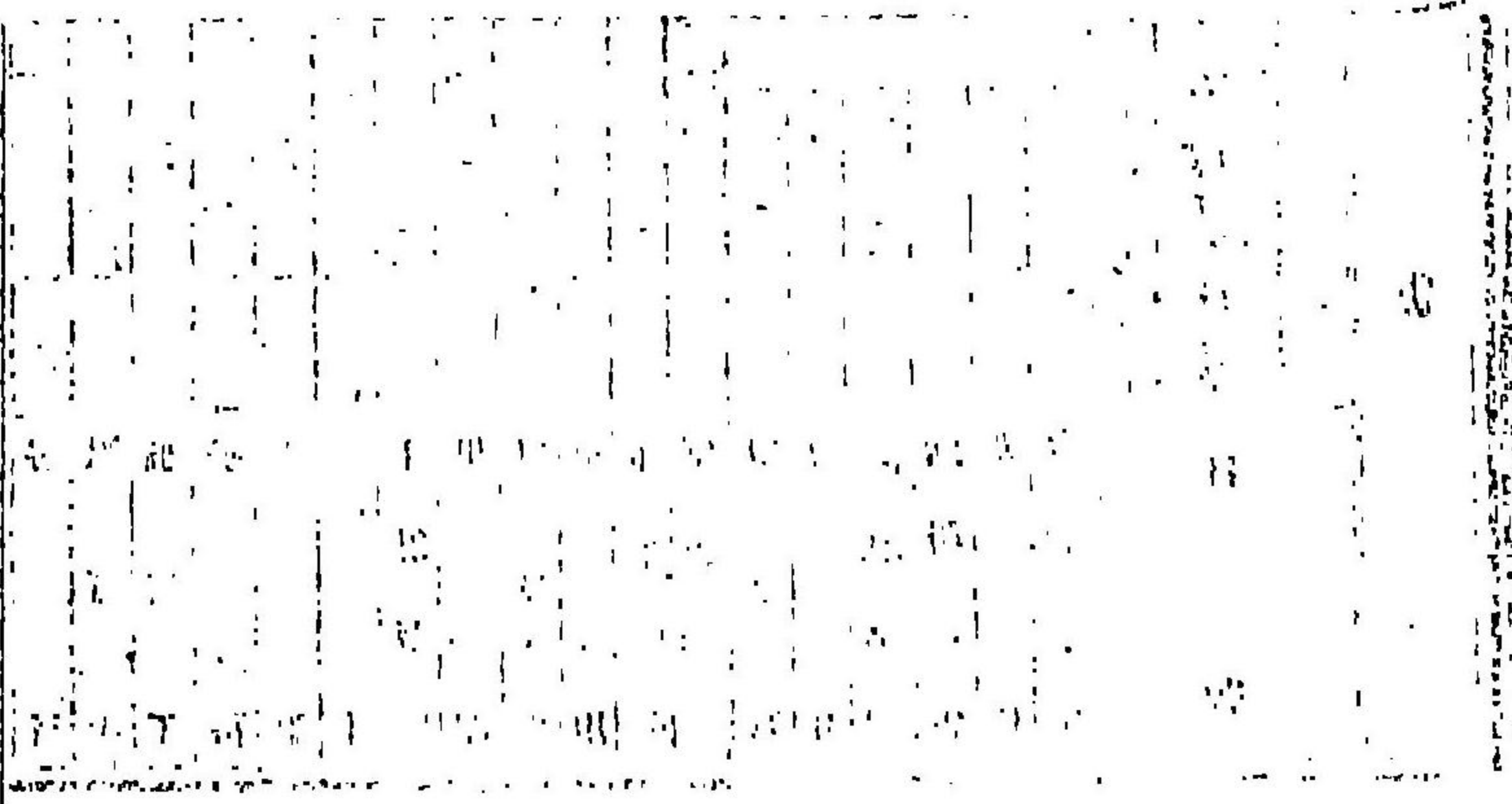
第六十八條 下士以下出獄ノ際所要ノ被服ヲ所持セザルトキ共被服ノ貸與ヲ受クヘキモノニ在リテハ原部隊ヨリ相當ノ被服ヲ送付ス

第六十九條 下士以下ニ貸與ノ被服品水火盜難等ニ罹リタルトキハ所屬長官ニ於テ其ノ狀況ヲ密査シ補充ノ必要アリト認ムルモノハ委任經理ニ於テ之ヲ補充スルヲ例トス

第七十條 第七十一條及第七十二條削除

第八十一條及第八十二條中馬匹保續積立金ヲ馬匹積立金ニ改ム

附表ノ前ニ左ノ九表ヲ加フ



職	保 存 期 限			
	第一區	第二區	第三區	第四區
衛生部	九箇年	九箇年	九箇年	九箇年
軍樂部	九箇年	九箇年	九箇年	九箇年
對馬特備隊	九箇年	九箇年	九箇年	九箇年
馬三區五十五箇年三、八、九、十、十一、十二	九箇年	九箇年	九箇年	九箇年
馬四區四十五箇年三、八、九、十、十一、十二	九箇年	九箇年	九箇年	九箇年
第七師管	九箇年	九箇年	九箇年	九箇年
第十七箇年	十九箇年	十六箇年	二十箇年	二十箇年
三箇年	三箇年	三箇年	九箇年	九箇年
二十一箇年	二十一箇年	二十一箇年	二十箇年	二十箇年
六箇月	六箇月	六箇月	六箇月	六箇月
三箇月	三箇月	三箇月	三箇月	三箇月
八箇年	八箇年	八箇年	八箇年	八箇年

士兵卒ニ準シ且限制上所要ノ被服ヲ附加ス

